

デジタルHD ビデオカセットレコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い
かたを示しております。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全
にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必
ず保管してください。

HDV
HDV 1080i

DVCAM

DV
Digital Video Cassette

Mini **DV**
Digital Video Cassette

HDMI
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

HVR-M25J

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

5～7ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、ソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店にご相談ください。

故障したら使わない

すぐにソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店に修理をご連絡ください。

万一、異常が起きたら

本機はコンセントの近くでお使いください。本機をご使用中、不具合が生じたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、電源を遮断してください。

- ・煙が出たら
- ・異常な音、においがしたら
- ・内部に水、異物が入ったら
- ・製品を落としたりキャビネットを破損したときは

- ① 電源を切る。
② 電源コードや接続コードを抜く。
③ ソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店に連絡する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠ 注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



目次

⚠️ 警告	5
⚠️ 注意	5
電池についての安全上のご注意	7

第1章

概要

本機の特長	8
各部の名称と働き	10
前面パネル	10
背面パネル	19
付属リモコン	23
文字情報表示について	25

第2章

再生・記録

電源・カセットについて	29
電源を準備する	30
カセットを入れる／取り出す	30
再生／録画時のご注意	30
再生する	32
接続する	32
準備する	34
再生する	34
再生機能	35
オートリピート（カスタムリピート）	36
エッジクロップマーカー	39
MARKER BURN	39
レコーダーとして使う	40
接続する	40
準備する	42
記録する	43
記録機能	43

第3章

タイムコードの設定

タイムコードやユーザービットを設定する	45
内蔵タイムコードジェネレーターを使う	45

目次

第4章

i.LINK端子を使ったダビング、デュプリケート、音声ダビングとパソコンとの接続

i.LINK端子を使って他の機器へダビングする	50
接続する	50
ダビングする	51
デュプリケート(同一タイムコードのワークテープ作成)	52
音声ダビング	56
編集する(パソコンと接続する)	58
接続する	58
準備する	59

第5章

メニューで行う調整と設定

メニューの操作	60
メニューの構成	61
メニューの項目	62

第6章

保守・点検

困ったときは	76
警告表示とお知らせメッセージ	84
本機の性能を保持するために	86
VTRについて	86
ヘッドのクリーニング	86
カセットについて	87
液晶画面について	88
結露について	88
デジタル時間計による定期点検	89
内蔵の充電式電池について	89
ライセンスに関する注意	89

付録

HDV/DVCAM/DVフォーマットの互換性	90
i.LINK(アイリンク)について	95
保証書とアフターサービス	96
仕様	96
索引	99
サブメニュー索引	100



警告



火災



感電

下記の注意を守らないと、
火災や感電により死亡や大けがに
つながることがあります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- ・電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- ・重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- ・熱器具に近づけない。加熱しない。
- ・電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、ソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店に交換をご依頼ください。



禁止

付属の電源コード以外は使用しない

火災や感電の原因となります。



指示

お手入れの際は電源コードをはずす

電源コードを接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



禁止

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所では設置・使用しない

上記のような場所で設置・使用すると、火災や感電の原因となります。取扱説明書に記されている仕様条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。



禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、ソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店にご相談ください。



分解禁止

分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となります。内部の点検や修理はソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店にご依頼ください。



禁止

雷が鳴っているときは使用しない

落雷すると、感電のおそれがあります。雷が鳴りだしたらすぐに使用を中止してください。



注意

下記の注意を守らないと、

けがをしたり周辺の物品に損害を与える
ことがあります。



禁止

LCDモニターが割れた場合は素手で触れない

LCDモニターはガラスでできているため、万一割れた場合に手を触るとけがをするおそれがあります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源にさわらない

感電の原因となることがあります。



禁止

付属のリモコンには指定以外の乾電池を使わない

火災やけがの原因となることがあります。



禁止

本体を布団などでおおった状態で使用しない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置かないでください。過熱して火災や感電の原因になることがあります。



禁止

大音量で長時間続けて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。



注意

大音量に注意する

以下の場合に、大きな音が出て、聴力に悪い影響を与えることがあります。

- ・接続ケーブルを抜き差しするとき
- ・電源を入れるとき

音声レベルには充分注意して、上記の場合には一時的に音声レベルを下げるか、ヘッドホンをはずしたうえで行ってください。



禁止

膝に乗せて使用しない

膝の上で使用すると、落下してけがの原因となることがあります。



禁止

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところなどに設置すると、倒れたり落下したりして、けがの原因となることがあります。

また、設置場所の強度を充分にお確かめください。



指示

幼児の手の届かないところに置く

カセットの挿入口などに手をはまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。



禁止

製品の上に乗らない、重い物を載せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



指挟み

カセットの挿入時に指をはさまない

カセットを挿入した後、カセット挿入口に指をはさむとけがの原因となることがあります。



指示

コード類を正しく配置する

電源コードや接続ケーブルを足にひっかけると本機の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。



指示

長時間使わないときは、電源コードをはずす

長時間使用しないときは安全のため電源コードをはずしてください。

電池についての安全上の ご注意

ここでは、本機に付属のリモコン（RMT-DS5）で使用が可能な乾電池についての注意事項を記載しています。

万一、異常が起きたら

煙が出たら

- ① 電池を抜く。
② ソニーのお問い合わせ窓口に連絡する。

電池の液が目に
入ったら

- すぐきれいな水で洗い、直ちに医師の治療を受ける。

電池の液が皮膚や
衣服に付いたら

- すぐきれいな水で洗い流す。

バッテリー収納部内
で液が漏れたら

- よくふきとつてから、新しい電池を入れる。

！ 警告 下記の注意事項を守らないと、
破裂・液漏れにより、死亡や大
けがにつながることがあります。



- 乾電池は充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- 指定された種類の電池を使用する。



！ 注意 下記の注意事項を守らないと、
破裂・液漏れにより、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。



- 使用推奨期限内（乾電池に記載）の乾電池を使用する。
- ④と⑤の向きを正しく入れる。
- 電池を入れたまま長期間放置しない。
- 新しい電池と使用した電池は混ぜて使わない。
- 種類の違う電池を混ぜて使わない。
- 水や海水につけたり、濡らしたりしない。

設置についてのご注意

- 本機は、ポータブル機器としては設計されておりません。必ず水平な場所に正しく置いて使用してください。側面を下にするなどして、30度以上傾いた状態で使用すると、故障の原因になります。
- 本機後面の周辺に物を置いて、通風口をふさがないでください。本機の内部に熱がこもり、故障の原因になります。

概要

本機の特長

HVR-M25Jは、HDVフォーマットとDVCAM/DVフォーマットを採用したデジタルHDビデオカセットレコーダーです。映像信号を色信号と輝度信号に分け(コンポーネント方式)、デジタル処理を行うことにより、安定した高画質を実現しています。

i.LINK (i HDV/DV)、HDMI出力、COMPONENT出力、S映像入／出力、コンポジット入／出力、音声入／出力の端子を装備し、ノンリニア編集機など周辺機器との接続が可能です。また、2.7(16:9)型カラー液晶ディスプレイを装備しているので、映像、メニュー、オーディオレベルメーターなどの確認が手軽にできます。以下に、本機の主な特長を紹介します。

HDVフォーマットを採用

DVCAMフォーマットカセットまたはDVフォーマットカセットにデジタルハイディフィニション(HD)の映像の録画・再生ができます。HDV映像信号の圧縮方法は、BSデジタルや地上デジタルのハイビジョン放送やブルーレイディスクで採用されているMPEG2方式です。

本機では、HDVフォーマットの中で、有効走査線数1080本のインターレース方式(HDV1080/60i方式、およびHDV1080/50i方式、画素数1440×1080ドット)を採用しています。記録時の映像ビットレートは約25Mbpsです。デジタルインターフェースにiLINKを採用し、HDVに対応するテレビやパソコンとのデジタル接続が可能です。

DVCAM/DVフォーマットを採用

DVCAMは、4:1:1(60i方式)/4:2:0(50i方式)コンポーネントデジタル方式の家庭用DVフォーマットをベースにソニーが開発した、業務用の $\frac{1}{4}$ インチデジタル記録フォーマットです。

本機では、DVCAMとDVフォーマットのSPモードで記録・再生ができます。

◆ 詳しくは90ページの「HDV/DVCAM/DVフォーマットの互換性」をご覧ください。

1080/60i(NTSC)、1080/50i(PAL)両方式に対応

本機は、60i/50iの両方式に対応しています。これらの入力信号は、メニュー設定で切り換えることができます(75ページ)。VTRを接続しての記録・再生はもちろん、パソコンなどで編集した信号をダウンロードする場合、また、本機からパソコンへアップロードする場合にも、60i/50iのどちらの方式にも対応できます。ただし、フォーマットコンバートには対応していません。

本機では、60iはフィールド周波数59.94Hzを表します。

高性能ダウンコンバート機能

HDVフォーマットで録画したテープを再生するとき、ダウンコンバートして映像を出力することができますので、デジタルハイディフィニション(HD)に対応していないディスプレイでのプレビューが可能になります。またアスペクト比もスクイーズ、レターボックス(●HDV/DV端子出力を除く)、エッジクロップ(サイドカット)から選択できます。

16:9カラーLCDモニター

2.7型16:9カラーLCDモニターを装備しており、記録・再生している内容をその場で確認することができます。セットアップメニュー オーディオレベル、本機の状態などの文字情報をスーパーインボーズして表示することもできます。

豊富な入／出力端子

HDMI OUT端子、●HDV/DV端子、COMPONENT端子(出力のみ)、SVIDEO端子、VIDEO端子およびAUDIO端子を装備し、様々な機器との接続を可能にします。

HDMI (High Definition Multimedia Interface)とは

テレビ接続機器のデジタル映像／音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI OUT端子とテレビを1本のケーブルで接続することで、高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。

VTR操作に必要なボタン・スイッチ類を装備

本機には、入力選択スイッチや、録音レベル調節つまみ、ヘッドホンレベル調節つまみ、ステータスチェックボタンなど、VTRの操作に必要な様々なボタンやスイッチ類を装備しています。

タイムコード・ユーザービットの設定が可能

本機でメニューを操作して、タイムコードやユーザービットを設定することができます。

JOG AUDIO機能

DSRM-10(別売)を使用すると、ジョグ／シャトルモードによるサーチ時に、音声をモニターすることができます。
(HDVフォーマットで記録されたテープではジョグ音声は出力できません。)

言語設定

本機は、画面上に表示される言語を選択することができます。お買い上げ時は英語で表示される設定になっています。

◆ 表示する言語を変えるときは、73ページをご覧ください。

メンテナンスを容易にする諸機能

- 自己診断／警告表示機能**: 操作や接続の誤り、動作異常などを自動的に検出し、これらの内容、原因、対策をHDMI OUT端子、COMPONENT OUT端子、S VIDEO端子、VIDEO端子とLCDモニターに出力します。
- デジタル時間計**: 通電時間、ドラム回転時間、テープ走行時間、テープスレッディング／アンスレッディング回数の4種類の累積値を算出し、メニュー内に表示します。

これらはソニー株式会社の登録商標です。

DVCAM™、**DV**、**Mini DV**

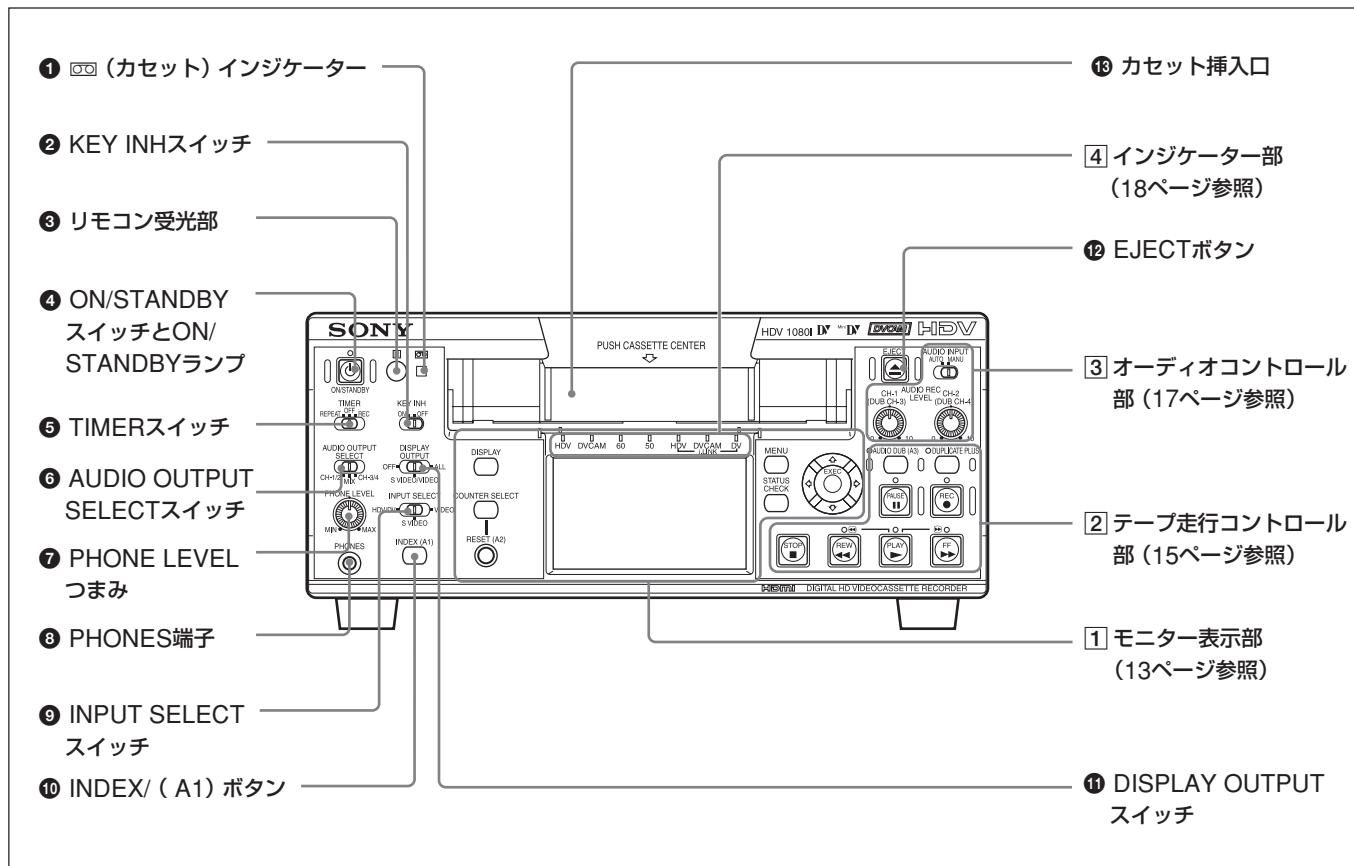
HDV はソニー株式会社と日本ビクター株式会社の商標です。

HDMI、HDMIロゴ、および High Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

その他、本書で登場するシステム名および製品名は、各開発メーカーの登録商標または商標です。なお、本文では™、®マークは明記していません。

各部の名称と働き

前面パネル



① (カセット) インジケーター

デジタルビデオカセットが挿入されているときに点灯します。
カセット入れがカセットを引き込んでいないときは、点灯しません。
カセット取り出し中は点滅します。
◆ 詳しくは「カセットを入れる／取り出す」(30ページ)をご覧ください。

② KEY INH (キー操作禁止) スイッチ

[ON]にするとすべてのボタンが働かなくなります。誤ったボタン操作を防ぎたいときに使用します。

ご注意

- このスイッチをONに設定しているときもスイッチ⑤、⑥、⑨、⑪、⑬ー①、後面パネルの④、つまみ⑦、⑬ー②を操作することができます。
- このスイッチをONに設定していても、リモコン、LANC、CONTROL S、i.LINKから本機を操作することができます。

③ リモコン受光部

ご注意

付属リモコンだけでなく、他のソニー製のリモコン（リモコンモードまたはコマンドモードが[VTR4]に設定されているもの）が本機に向けて使用された場合、本機はリモコン操作に反応します。リモコンによる本機の操作をすべて無効にしたいときは、[OTHERS]メニューの[COMMANDER]を[CONTROL S]に設定してください。

④ ON/STANDBY (オン／スタンバイ) スイッチとON/STANDBY (オン／スタンバイ) ランプ

押すと本機の電源が入り、ON/STANDBYランプが緑色に点灯します。もう一度押すと、本機はスタンバイモードに入り、ランプが赤色に点灯します。

ご注意

KEY INHスイッチ②をONに設定しているときは、このスイッチは働きません。OFFに設定してから操作してください。

⑤ TIMER (タイマー) スイッチ

オートリピート(連続再生)とタイマー記録の切り換えスイッチです。

REPEAT：本機に電源が供給されるとテープがテープトップまで巻き戻り、再生が始まります。テープ上にある下記項目を検出すると、テープの頭まで巻き戻して再び再生が始まり、これを繰り返します。

-インデックス信号

-未記録部分

-[IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]が[AUTO]以外に設定され、選択した以外のフォーマットで記録されている部分

-テープエンド

テープの再生中や巻き戻し中にREPEATに切り換えるても同様に連続再生します。

◆ オートリピートについて詳しくは、「オートリピート(カスタムリピート)」(36ページ)、または「VTR SET」メニューの「CUSTOM REPEAT」(69ページ)をご覧ください。

OFF：オートリピートやタイマー記録をしません。

REC：本機に電源が供給されると記録が始まります。

ご注意

このスイッチの設定は、KEY INHスイッチ②がONに設定されても切り換えに従って本機が動作します。

⑥ AUDIO OUTPUT SELECT (オーディオ出力選択) スイッチ

オーディオモードが32 kHz(4チャンネル)のときに、後面パネルのOUTPUT端子のAUDIO端子、HDMI OUT端子およびPHONES端子⑧に出力する音声チャンネルを選びます。

CH-1/2：チャンネル1/2

MIX：チャンネル1～4

CH-3/4：チャンネル3/4

ご注意

• 音声ダビング中にテープに記録された音声のみを聞くときは、このスイッチをCH-1/2に設定してください。ダビング音声のみを聞くときはCH-3/4に設定してください(音声ダビングはチャンネル3/4にのみ行うことができます)。また音声ダビングの前にダビング音声のみを確認したい場合は、このスイッチをCH-3/4に設定して、停止状態でAUDIO DUB(音声ダビング)ボタンを押してください。一時的に音声ダビングするチャンネル(チャンネル3と4)のみを聞くことができます。

◆ 音声ダビングについて詳しくは56ページをご覧ください。また、あわせて15ページのAUDIO DUB/(A3)ボタン①の説明もご覧ください。

- オーディオモードが48 kHz(2チャンネル)のときは、このスイッチの設定にかかわらず、OUTPUT端子のAUDIO端子、PHONES端子⑧、およびHDMI OUT端子にチャンネル1/2の音声が出力されます。

- このスイッチを[MIX]に設定しているときはチャンネル1と3、およびチャンネル2と4の合成信号レベルになります。各信号レベルは50%(-6 dB)になります。

⑦ PHONE LEVEL (ヘッドホンレベル調節) つまみ

PHONES端子⑧に接続したヘッドホンの音量レベルを調整します。

⑧ PHONES (ヘッドホン) 端子

ヘッドホンを接続します。ステレオヘッドホンを接続すると、記録／再生中のオーディオ信号をヘッドホンでモニターできます。モニターするオーディオ信号は、AUDIO OUTPUT SELECTスイッチ⑥で選べます。[AUDIO SET]メニューの[AUDIO MONI]の設定(68ページ)を変更することで、特定のチャンネルの音声のみモニターすることができます。

⑨ INPUT SELECT (入力選択) スイッチ

本機背面パネルのHDV/DV、S VIDEO、VIDEO端子からの入力を切り替えます。

HDV/DV：HDV/DV端子からの入力信号が選択されます。

S VIDEO：INPUT端子のS VIDEO端子からの入力信号が選択されます。

VIDEO：INPUT端子のVIDEO端子からの入力信号が選択されます。

ご注意

- 記録中は切り換えないでください。切り換えた瞬間に画面表示が明るくなったり、画像と音声にノイズが出ることがあります。その部分は正常に記録されません。また、タイムコードが不連続になる場合があります。

- 記録中にスイッチを切り換えると、HDV/DV端子からの出力信号が途切れことがあります。また、著作権などの情報を誤って検出する可能性があります。

- HDV/DV入力時は以下の映像、音声に関する各種の設定は無効になります。

— 60i/50i SEL

— AUDIO MODE

— AUDIO LOCK

— AUDIO INPUT LEVEL (-10/-2/+4)スイッチ

— AUDIO REC LEVEL つまみ

— AUDIO INPUT (AUTO/MANU)スイッチ

(続く)

⑩ INDEX (インデックス) / (A1) ボタン

記録中に押すとインデックスを打ち込むことができます。インデックスは頭出しするときに便利です。また、ASSIGN (A1) ボタンとして使用することができます。

- ◆ インデックスについて詳しくは、「記録機能」(43ページ)をご覧ください。
- [OTHERS] メニューの[ASSIGN BTN]→[ASSIGN (A1)]で ASSIGN ボタンの設定を切り換えた場合、設定された機能を実行します。
- ◆ ASSIGN ボタンについて詳しくは、「ASSIGN BTN」(73ページ)をご覧ください。

⑪ DISPLAY OUTPUT (文字情報表示切り換え) スイッチ

OUTPUT 端子に文字情報をスーパーインポーズする出力先を選択します。

- OFF：出力されません。
- S VIDEO/VIDEO：OUTPUT 端子の S VIDEO 端子、VIDEO 端子に文字情報をスーパーインポーズします。
- ALL：OUTPUT 端子の HDMI OUT 端子、COMPONENT 端子、S VIDEO 端子、VIDEO 端子に文字情報をスーパーインポーズします。

⑫ EJECT (カセット取り出し) ボタン

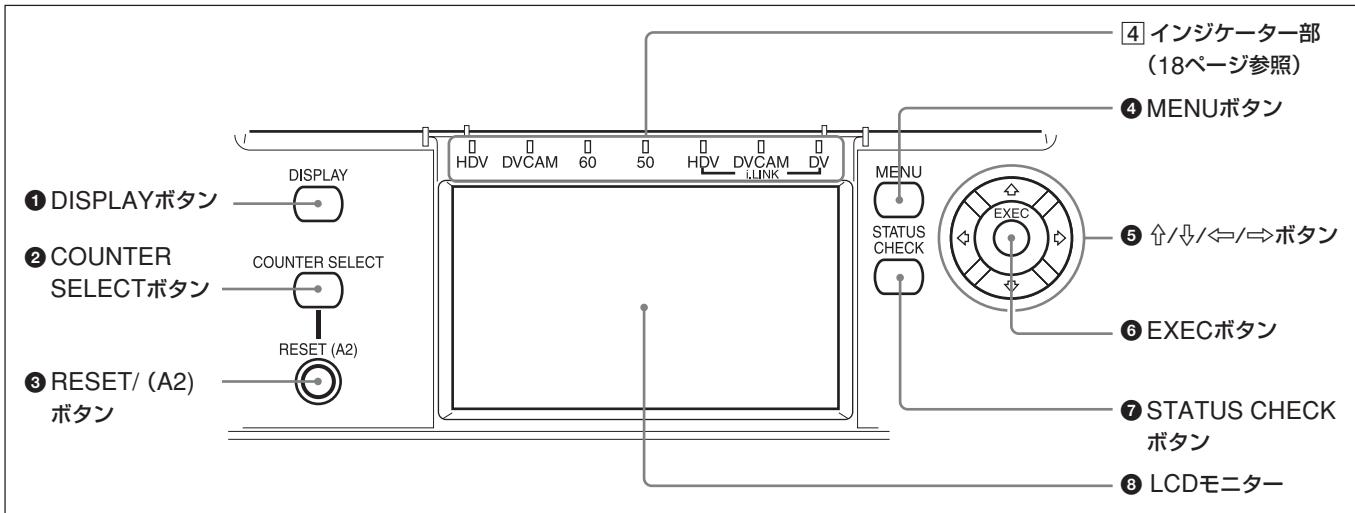
カセットが入っているときに押すと、カセット挿入口からカセットが排出されます。

⑬ カセット挿入口

スタンダードサイズまたはミニサイズのデジタルビデオカセットを挿入します。

- ◆ 使用できるカセットについては、「電源・カセットについて」(29ページ)をご覧ください。

① モニター表示部



① DISPLAY (LCDモニターとビデオ端子出力への文字情報表示切り換え) ボタン

LCDモニターと本機後面のビデオ出力端子への文字情報の表示方法を切り替えます。このボタンを押すたびに映像のみ、映像とデータ表示、映像とタイムカウンター表示を切り換えて表示します。

◆ 文字情報について詳しくは、「文字情報表示について」(25ページ)をご覧ください。

② COUNTER SELECT (カウンター選択) ボタン

データ表示、またはタイムカウンター表示のときに、このボタンを押すたびにタイムコード、ユーザービット、カウンターのカウント値を切り換えて表示します。

カウンターのカウント値(7桁表示)は±12時間モードで表示します。

ご注意

本機のカウンターのカウント値は、タイムコードを元に算出した簡易的なものです。そのため以下のような場合には、正確な値が算出されないことがあります。

- タイムコードに不連続な部分があるテープを使用している場合
- DF/NDFが混在して記録されているテープを使用している場合 (60i 方式の信号使用時のみ)
- 記録部分の間に無記録部分があるテープを使用している場合
- 60i/50i 切り換えメニューを[60i]に設定していて、50i フォーマットで記録されたテープを使用している場合
- 60i/50i 切り換えメニューを[50i]に設定していて、60i フォーマットで記録されたテープを使用している場合
- [TC/UB SET] メニューの[TC RUN]を[FREE RUN]に設定している場合

③ RESET (カウンタリセット) / (A2) ボタン

タイムカウンターのカウント値を表示しているときに、このボタンを押すと、カウント値を0:00:00:00にリセットします。

また、ASSIGN (A2) ボタンとして使用することができます。

[OTHERS] メニューの[ASSIGN BTN]→[ASSIGN (A2)]で ASSIGN ボタンの設定を切り換えた場合、設定された機能を実行します。

◆ ASSIGN ボタンについて詳しくは、「ASSIGN BTN」(73ページ)をご覧ください。

ご注意

- タイムコードおよびユーザービット表示には、このボタンは働きません。
- タイムコードやユーザービットをリセットしたいときは、[TC/UB SET] メニューの[TC PRESET]、[UB PRESET] でリセットしてください。

④ MENU (メニュー) ボタン

押すとメニューが表示されます。

◆ メニューについて詳しくは、「メニューの操作」(60ページ)をご覧ください。

各部の名称と働き

⑤ ↑/↓/←/→ボタン

メニュー項目などを設定するときに使います。

LCDモニターにデータ(フォーマット、走行モードなど)を表示しているときに↑/↓ボタンを押すことで、LCD画面の明るさを調整することができます。調整レベルの表示は調整終了後、約1秒たつと消えます。

画面がタイムカウンター表示状態になっているときは↑/↓ボタンでカウンターの位置を移動することができます。カウンターがSMALL表示のときは上下だけでなく、←/→ボタンで左右にも移動することができます。

ステータスチェック画面表示中は↑/↓ボタンで画面を切り換えることができます。

⑥ EXEC(実行)ボタン

メニュー項目などを設定するときに使います。

⑦ STATUS CHECK(設定状況チェック)ボタン

オーディオレベルやメニューの設定状況の確認ができます。

STATUS CHECKボタンを押すと、設定状況画面を表示します。↑/↓ボタンを押すことによって、オーディオレベルメーター/AUDIO MONI設定値、出力設定値、ASSIGNボタン設定値、カスタムリピート設定値を切り換えて表示します。設定状況画面を消すには、もう一度STATUS CHECKボタンを押します。

ご注意

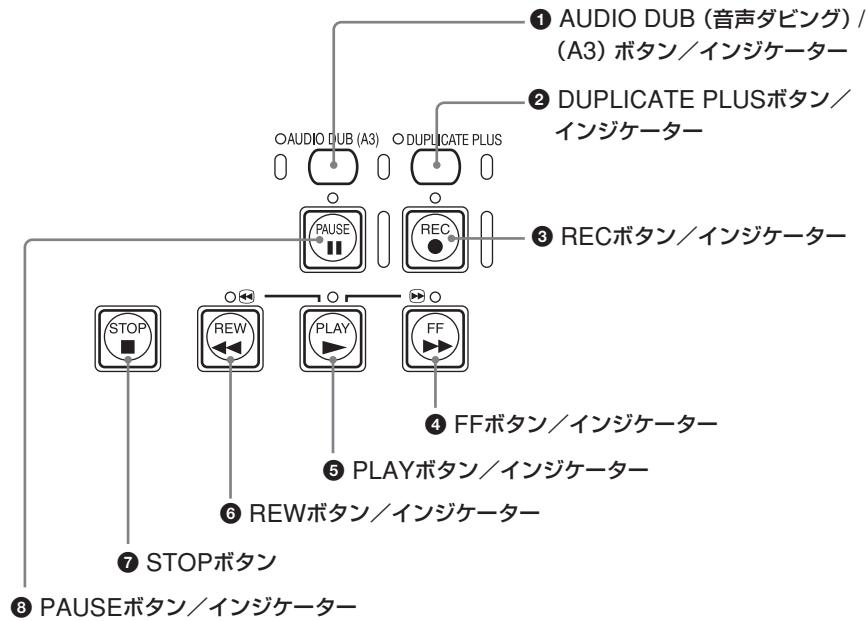
オーディオレベルメーターは[AUDIO SET]メニューの[AUDIO MODE]、AUDIO OUTPUT SELECTスイッチ、再生テープのオーディオモードの設定によって表示が異なります。

⑧ LCD(液晶)モニター

本機の再生画およびEE¹⁾画を表示します。さらに、タイムデータ、本機の状態、メニュー、オーディオレベルなどの文字情報をスーパーインポーズして表示します。

1)EE画：EEは「Electric to Electric」の略。VTRの記録回路に入力した映像・音声の信号を、テープや磁気変換回路を通さずに、電気回路のみを通して出力するモードをEEモードという。EE画はEEモードの出力画像のこと。

② テープ走行コントロール部



① AUDIO DUB (音声ダビング) / (A3) ボタン／インジケーター

音声ダビングするときに使います。音声ダビング中はインジケーターが点灯します。

また、ASSIGN (A3) ボタンとして使用することができます。

◆ 音声ダビングについて詳しくは、「音声ダビング」(56ページ)をご覧ください。

停止状態のときに、HDV/DV入力以外を選択している場合、このボタンのみを押すと、一時的にダビング入力の音声（チャンネル3、4）のEE信号を確認することができます。確認中はインジケーターが点灯します。確認を終了するときはSTOPボタンを押します。

◆ 詳しくは、「IN/OUT REC」メニューの「EE/PB SEL」(65ページ)をご覧ください。

[OTHERS] メニューの[ASSIGN BTN]→[ASSIGN (A3)]で ASSIGNボタンの設定を切り換えた場合、設定された機能を実行します。

◆ ASSIGNボタンについて詳しくは、「ASSIGN BTN」(73ページ)をご覧ください。

② DUPLICATE PLUS (デュプリケート：複製) ボタン／インジケーター

タイムコード情報も含めた同じテープをデュプリケート（複製）するときに使います。デュプリケート中はインジケーターが点灯します。

◆ デュプリケートについて詳しくは、「デュプリケート（同一タイムコードのワークテープ作成）」(52ページ)をご覧ください。

停止状態のときに、HDV/DV入力を選択していてHDV/DV信号が入力されている場合、このボタンのみを押すと、一時的に画像、音声、タイムコードのEE信号を確認することができます。確認中はインジケーターが点灯します。確認を終了するにはSTOPボタンを押します。

◆ 詳しくは、「IN/OUT REC」メニューの「EE/PB SEL」(65ページ)をご覧ください。

◆ タイムコードについて詳しくは、「本機のタイムコード」(49ページ)をご覧ください。

(続く)

各部の名称と働き

③ REC (記録) ボタン／インジケーター

このボタンを押したままPLAYボタンを押すと、RECボタンとPLAYボタンのインジケーターが点灯し、記録が始まります。停止状態のときにこのボタンのみを押すと、一時的に画像、音声のEE信号を確認することができます。**●** HDV/DV端子選択時に、[TC/UB SET]メニューの[HDV/DV IN TC]が[EXTERNAL]に設定されていれば、タイムコードのEE信号も確認することができます。確認を終了するにはSTOPボタンを押します。

- ◆ 詳しくは、「IN/OUT REC」メニューの「EE/PB SEL」(65ページ)をご覧ください。
- ◆ タイムコードについて詳しくは、「TC/UB SET」(71ページ)をご覧ください。

ご注意

- 本機は、民生用DVフォーマットのLPモードの記録には対応していません。SPモードの記録のみ対応しています。
- リモートコントロールユニットDSRM-10(別売)を使って本機を記録一時停止状態にする場合は、DSRM-10のPLAYボタンを押したままPAUSEボタンを押して本機を再生一時停止状態にしてから、RECボタンを押してください。
- 記録モードがHDVの場合は記録開始まで数秒かかることがあります。この間RECインジケーターが点滅します。

④ FF (早送り) ボタン／インジケーター

押すとインジケーターが点灯し、テープを早送りします。早送り中、テープの映像はモニター画面に現れません(EE画は出力されます)。早送り中、再生中および再生一時停止状態でFF(早送り)ボタンを押したままになると、早送り再生になります。

- ◆ [VTR SET]メニューについて詳しくは、「VTR SET」メニュー(69ページ)をご覧ください。

ご注意

- [IN/OUT REC]メニューの[EE/PB SEL]を[PB]に設定すると、EE画、EE音は出力されません。
- [VTR SET]メニューの[FF/REW SPEED]を[SHUTTLEMAX]に設定すると、早送り動作を常に早送り再生にすることができます。
- ◆ [SHUTTLEMAX]での走行速度については、「VTR SET」メニューの「FF/REW SPEED」(70ページ)をご覧ください。

⑤ PLAY (再生) ボタン／インジケーター

押すとインジケーターが点灯し、再生が始まります。また、停止状態でREWボタンを押したままPLAYボタンを押すと、テープの頭まで巻き戻り、自動的に再生が始まります(巻き戻し中、REWインジケーターが点灯し、PLAYインジケーターは点滅します)。

ご注意

- HDVフォーマット、DVCAMフォーマットまたはDVフォーマットの記録の境目や60iフォーマットと50iフォーマットの境目を再生すると、その位置では映像および音声が乱れます。
- 本機は、民生用DVフォーマットのLPモードの再生には対応していません。

⑥ REW (巻き戻し) ボタン／インジケーター

押すとインジケーターが点灯し、テープを巻き戻します。巻き戻し中、テープの映像はモニター画面に現れません(EE画は出力されます)。巻き戻し中、再生中および再生一時停止状態でREWボタンを押したままになると、巻き戻し再生になります。

また、停止状態でREWボタンを押したままPLAYボタンを押すと、テープの頭まで巻き戻り、自動的に再生が始まります。(巻き戻し中、REWインジケーターが点灯し、PLAYインジケーターは点滅します。)

- ◆ [VTR SET]メニューについて詳しくは、「VTR SET」メニュー(69ページ)をご覧ください。

ご注意

- [IN/OUT REC]メニューの[EE/PB SEL]を[PB]に設定すると、EE画、EE音は出力されません。
- [VTR SET]メニューの[FF/REW SPEED]を[SHUTTLEMAX]に設定すると、巻き戻し動作を常に巻き戻し再生にすることができます。
- ◆ [SHUTTLEMAX]での走行速度については、「VTR SET」メニューの「FF/REW SPEED」(70ページ)をご覧ください。

⑦ STOP (停止) ボタン

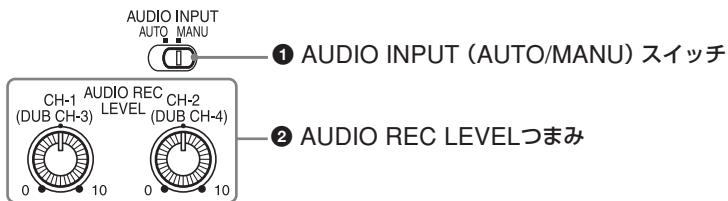
押すとテープ走行が停止します。

⑧ PAUSE (一時停止) ボタン／インジケーター

記録中、再生中、音声ダビング中にPAUSEボタンを押すと、インジケーターが点灯し、各動作が一時停止状態になります。もう一度押すと、各動作を再開します。

③ オーディオコントロール部

記録時はチャンネル1と2に音声が記録されます。チャンネル3と4に記録することはできません。音声ダビング時は、チャンネル3と4に記録されます。



① AUDIO INPUT (AUTO/MANU) (録音レベル調整モード切り換え) スイッチ

録音レベルの調整方法を切り替えます。

AUTO：録音レベルを自動的に調整します。(AUDIO REC LEVELつまみ②の調整が無効になります。) 入力可能な音声レベルは以下の表をご覧ください。

AUDIO INPUT LEVELスイッチ	入力可能な最大音声
-10	+18 dBu
-2	+24 dBu
+4	+30 dBu

MANU：AUDIO REC LEVELつまみ②の調整を有効にします。

ご注意

- HDV/DV入力時はこのスイッチの設定にかかわらず、入力した信号と同じ録音レベルになります。
- [AUTO]に設定しても入力アンプのダイナミックレンジ以上の大音量に対しては効果がありません。
- 最大音声レベル以上の音声が入力されると、音声がひずみます。

② AUDIO REC LEVEL (CH-1 (DUB CH-3)、CH-2 (DUB CH-4)) (録音レベル調整) つまみ

記録時は、本機に入力されたアナログオーディオ信号(チャンネル1、2)のオーディオレベルを調整します。

音声ダビング時は、チャンネル3、4のオーディオレベルを調整します。

このつまみの調整は、AUDIO INPUT (AUTO/MANU) スイッチ①を[MANU]に設定している場合のみ有効です。

オーディオレベルメーターを表示させたいときは、本機のSTATUS CHECKボタンを押して表示します。

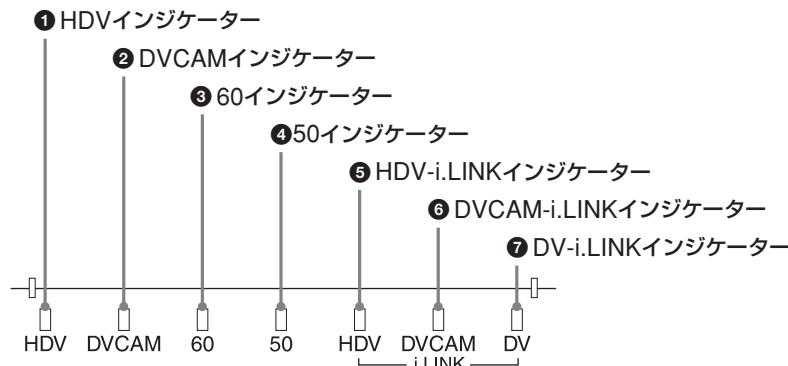
◆ オーディオレベルメーターについて詳しくは、「ステータスチェック画面」(27ページ)をご覧ください。

ご注意

HDV/DV入力時は、このつまみを使ってオーディオレベルを調整することはできません。

各部の名称と働き

④ インジケーター部



① HDVインジケーター

本機が以下の状態のときに点灯します。

- HDVフォーマットで記録されたテープを再生しているとき
- HDVフォーマットの信号をi.LINK入力しているとき
- [IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]を[HDV]に設定しているとき*

* [HDV/DV SEL]が[AUTO]のときでも、現在入力信号がなく、直前に入力されていた信号や再生していたテープがHDVフォーマットであれば、インジケーターが点灯します。

② DVCAMインジケーター

本機が以下の状態のときに点灯します。

- DVCAMフォーマットで記録されたテープを再生しているとき
- [IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]で[DV]を選択している状態で[REC MODE]を[DVCAM]に設定しているとき(記録時、EE時)*

* DVフォーマット(SPモード)で記録中およびDVフォーマット(SPモード)で記録されたテープを再生しているときは、HDVインジケーターもDVCAMインジケーターも点灯しません。

③ 60インジケーター

本機が以下の状態のときに点灯します。

- EE時または記録中で、[OTHERS]メニューの[60i/50i SEL]の設定が[60i]になっているとき
- HDV1080/60i、またはNTSC方式の信号をi.LINK入力しているとき
- HDV1080/60i、またはNTSC方式の信号が記録されたテープを再生しているとき

④ 50インジケーター

本機が以下の状態のときに点灯します。

- EE時または記録中で、[OTHERS]メニューの[60i/50i SEL]の設定が[50i]になっているとき
- HDV1080/50i、またはPAL方式の信号をi.LINK入力しているとき
- HDV1080/50i、またはPAL方式の信号が記録されたテープを再生しているとき

⑤ HDV-i.LINKインジケーター

HDVフォーマットの信号をi.LINK入出力しているときに点灯します。

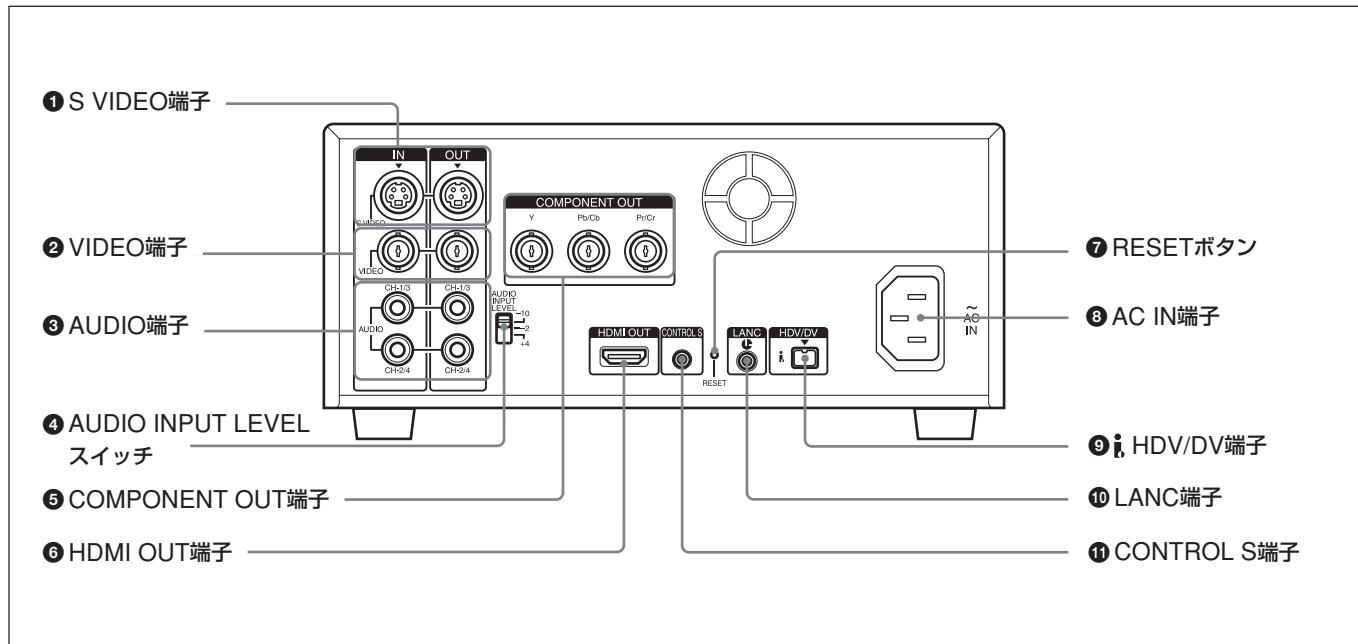
⑥ DVCAM-i.LINKインジケーター

DVCAMフォーマットの信号をi.LINK入出力しているときに点灯します。

⑦ DV-i.LINKインジケーター

DVフォーマットの信号をi.LINK入出力しているときに点灯します。

後面パネル



① S VIDEO (S映像) 端子

S映像端子のついた機器と接続するときは、本機側もS VIDEO端子と接続してください。VIDEO端子と接続したときよりも信号劣化の少ない高品質の映像を入／出力することができます。

前面パネルのDISPLAY OUTPUTスイッチをS VIDEO/VIDEO、またはALLに設定しているときは、S VIDEOのOUT端子に接続した外部モニターに、タイムコード、メニュー、警告表示などの文字情報がスーパーインポーズ表示されます（25ページ）。

◆ S VIDEO端子の出力については、「映像出力端子共通のご注意」をご覧ください（22ページ）。

② VIDEO (映像) 端子

アナログ映像信号の入／出力を行います。

文字情報は、S VIDEO端子と接続したときと同様にスーパーインポーズ表示されます（25ページ）。

◆ VIDEO端子の出力については、「映像出力端子共通のご注意」をご覧ください（22ページ）。

③ AUDIO (音声) 端子

アナログ音声信号の入／出力を行います。

音声は、通常の記録時はチャンネル1、2に記録されますが、音声ダビング時はチャンネル3、4に記録されます。

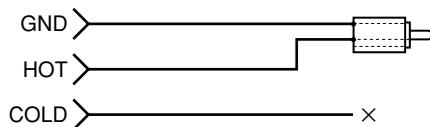
オーディオモードがFS32K（4チャンネル）のときに、全面パネルのAUDIO OUTPUT SELECTスイッチをMIXに設定すると、各チャンネルからの音声出力レベルは50%（-6dB）になります。

ご注意

• 音声ダビング時、AUDIO INのCH1/3端子はチャンネル3の入力端子、CH2/4端子はチャンネル4の入力端子としてそれぞれ機能します。

• INPUT端子のAUDIO端子へ平衡の音声信号を入力する場合には、下図のようにCOLD側をOPENにした変換ケーブルを使用してください。

◆ 変換ケーブルについては、ご使用の機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。



④ AUDIO INPUT LEVEL (-10/-2/+4)

(オーディオ入力レベル調整) スイッチ

INPUT端子のAUDIO端子のオーディオ入力信号のレベルに合わせて-10 dB、-2 dB、+4 dBから選びます。

ご注意

このスイッチの設定が適切でないと、クリッピングが起こったりノイズが多くなったりします。

◆ このスイッチの設定については、82ページの「AUDIO INPUT LEVELスイッチの設定について」もあわせてご覧ください。

(続く)

各部の名称と働き

⑤ COMPONENT OUT (コンポーネント出力) 端子

コンポーネント信号を出力します。コンポーネントビデオ入力端子のついた機器と接続するときは、本機のCOMPONENT OUT端子と接続してください。S VIDEO端子よりもさらに信号劣化の少ない高品質の映像を出力することができます。

出力される映像フォーマットは [IN/OUT REC] メニューの [VIDEO OUT]→[HDMI/CMPNT] で設定を行います。

前面パネルのDISPLAY OUTPUTスイッチをALLに設定しているときは、COMPONENT OUT端子に接続したモニターにタイムコード、メニュー、警告表示などの情報がスーパーインポーズ表示されます（25ページ）。

ご注意

- 720pで映像を出力している場合、モニターによっては文字情報表示の一部（外周部：アンダースキャン部に近い部分）が欠ける場合があります。このような場合は本機のLCDモニターもしくはS VIDEO OUT端子、VIDEO OUT端子で文字情報をご確認ください。また、モニターにアンダースキャンの機能が搭載されている場合は、アンダースキャン状態にて文字情報全体をご確認いただけます。
- [IN/OUT REC] メニューの [VIDEO OUT]→[HDMI/CMPNT] の設定を変更すると、S VIDEO OUT端子、VIDEO OUT端子、HDV/DV端子に出力している映像信号が一瞬乱れる場合があります。
- DVCA (DV) フォーマットテープの再生時、NTSC/PALフォーマットのEE画像を表示しているときは、[IN/OUT REC] メニューの [VIDEO OUT]→[HDMI/CMPNT] の設定にかかわらず、480i (NTSC) もしくは 576i (PAL) の解像度で映像が出力されます。
- 著作権保護のための信号が記録されているHDVフォーマットのテープを再生した場合や著作権保護のための信号を含むHDV信号が HDV/DV端子に入力された場合は、[IN/OUT REC] メニューの [VIDEO OUT]→[HDMI/CMPNT] の設定にかかわらず、480i (NTSC) もしくは 576i (PAL) の解像度で映像を出力する場合があります。
- COMPONENT OUT端子からの出力レベルは、以下のとおりです。

480iNTSC出力時

[IN/OUT REC] メニューにて [BETACAM] 選択時

Y: 1.0 Vp-p (0.286 Vp-p 負同期付き、75 Ω、不平衡)
 Pb/Cb/B-Y、Pr/Cr/R-Y: 0.7 Vp-p (75 Ω、不平衡)
 (7.5 IRE セットアップ付き 75% カラーバー時)

[IN/OUT REC] メニューにて [SMPTE] 選択時

Y: 1.0 Vp-p (0.3 Vp-p 負同期付き、75 Ω、不平衡)
 Pb/Cb/B-Y、Pr/Cr/R-Y: 0.7 Vp-p (75 Ω、不平衡)
 (セットアップなし 100% カラーバー時)

その他の出力の場合

Y: 1.0 Vp-p (75 Ω、不平衡)
 Pb/Cb/B-Y、Pr/Cr/R-Y: 0.7 Vp-p (75 Ω、不平衡)
 (セットアップなし 100% カラーバー時)
 480i/480p は Y に 0.3 Vp-p 負同期付き
 1080i/720p は Y/Pb/Pr に 0.6 Vp-p の 3 値同期付き

⑥ HDMI OUT端子

HDMI信号を出力します。HDMI OUT端子からは映像と音声の双方が出力されます。HDMI入力端子のついた機器と接続するときは、本機のHDMI OUT端子と接続してください。

COMPONENT OUT端子よりもさらに信号劣化の少ない高品質の映像を出力することができます。

出力される映像フォーマットは [IN/OUT REC] メニューの [VIDEO OUT]→[HDMI/CMPNT] で設定を行います。

文字情報は、COMPONENT OUT端子と接続したときと同様にスーパーインポーズ表示されます（25ページ）。

ご注意

HDMIケーブルはHDMIロゴが付いているものをお使いください。本機を他の機器と接続した場合、一部の機器では映像が表示されなかったり、音声が出なかったりすることがあります。また、以下のような接続はしないでください。本機や他の機器の故障の原因となります。

- 本機のHDMI OUT端子と他の機器のHDMI出力端子の接続
 - 本機2台を使用したHDMI OUT端子同士の接続
- HDMI OUT端子には、以下のようない制限があります。
- 著作権保護のための信号が記録されているテープを再生した場合や著作権保護のための信号を含むHDV信号が HDV/DV端子に入力された場合は、HDMI OUT端子から映像／音声は出力されません。（デジタル放送などのコピー制限のある信号や番組を含みます。）
 - VIDEO IN端子、S VIDEO IN端子から入力されたアナログビデオ映像（NTSC、PAL）のEE画像をHDMI OUT端子に出力することはできません。この場合、文字情報やメニューなども表示されません。NTSC、PALで記録されたDVCA、DV (SP) フォーマットのテープを再生した場合は、HDMI OUT端子から映像が出力されます。

- **i HDV/DV端子**にNTSCもしくはPALフォーマットのDVCA/M/DV信号が入力されている場合、それらの映像のEE画像や音声をHDMI OUT端子に出力することはできません。
- 本機のHDMI OUT端子に出力される音声は、2チャンネル（ステレオ）です。4チャンネル(32 kHz)記録されたテープを再生している場合やアフレコ中、アフレコ一時停止中にCH3、CH4の音声を出力したいときはAUDIO OUTPUT SELECTスイッチで、CH-3/4を選択してください。このスイッチで、MIXを選択すると、HDMI OUT端子にもミックス音声が出力されます。
- 本機のHDMI OUT端子に出力される音声は、再生テープや本機のメニューで選択した設定、**i HDV/DV端子**に入力している信号のフォーマットにかかわらず、48 kHzの16ビット、2チャンネルリニアPCMモードで出力されます。
- 720pで映像を出力している場合、モニターによっては文字情報表示の一部（外周部：アンダースキャン部に近い部分）が欠ける場合があります。このような場合は本機のLCDモニターもしくはS VIDEO OUT端子、VIDEO OUT端子で文字情報をご確認ください。また、モニターにアンダースキャンの機能が搭載されている場合は、アンダースキャン状態にて文字情報全体をご確認いただけます。
- [IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]→[HDMI/CMPNT]の設定を変更すると、S VIDEO OUT端子、VIDEO OUT端子、**i HDV/DV端子**に出力している映像信号が一瞬乱れる場合があります。
- 接続しているモニターなどが「IN/OUT REC」メニューの[VIDEO OUT]、[HDMI/CMPNT]で選択した解像度の表示モードを持たない場合、モニターの映像にノイズが表示されたり、ノイズ音声がスピーカーから出力されることがあります。また、モニターから映像が表示されなかったり、音声が出力されない場合があります。ご使用になるモニターの取扱説明書で表示可能な解像度を確認後、本機のメニューを選択してください。
- 接続しているモニターなどの種類によっては、解像度の切り換え後に、数秒の間、映像／音声が乱れたり、出力されなくなることがありますが、故障ではありません。
- 接続しているモニターなどが、本機で再生したパーソナルコンテンツ（個人的に撮影された映像など）を表示しない仕様となっている場合があります。この場合には、COMPONENT OUT端子やVIDEO端子などを使って接続してください。

⑦ RESET（リセット）ボタン

ボールペンなどの先の細いもので押すと、以下の設定は初期化されます。

- [OTHERS]メニューの[CLOCK SET](74ページ)と[60i/50i SEL](75ページ)
- 本機のメニュー以外の設定

⑧ AC IN (AC電源入力) 端子

付属の電源コードを使って、AC電源に接続します。本機はスタンバイ状態でも電力を消費します。完全に電源を切る場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

ご注意

アース接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。

⑨ i HDV/DV端子 (4ピン)

i.LINK（アイリンク）に準拠した**i HDV/DV端子**です。接続する機器にi.LINK端子があるときに使います。記録時やダビング時、画像の取り込み時などに**i HDV/DV端子**を使うと、画質劣化のほとんどないデジタル信号での伝送ができます。

◆ 詳しくは、お使いになる機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

• パソコン、本機にi.LINKケーブルをつなぐとき、端子の向きを確認してください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。i.LINKケーブルプラグの▲マークと**i HDV/DV端子**の▼マークの向きを合わせて差し込んでください。

• この端子はHDV(1080i)/DVCA/M/DV信号に対応しています。
◆ 詳しくは「i.LINK（アイリンク）について」(95ページ)をご覧ください。

• **i HDV/DV端子**に入力した映像信号を、OUTPUT端子のVIDEO端子およびS VIDEO端子に出力した場合、EE画の映像同期信号とバースト信号は同期していません。

• i.LINK端子を持つ機器と本機をi.LINKケーブルで接続する場合、i.LINKケーブルを抜き差しするときは、あらかじめ機器の電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。機器の電源プラグを差したままi.LINKケーブルを抜き差しすると、機器のi.LINK端子から出力している高圧電流(8~40 V)が本機に流れ込み、本機の故障の原因となる恐れがあります。

• 6ピン型のi.LINK端子を持つ機器と本機を接続する場合は、6ピン型のi.LINK端子から先に接続してください。

◆ HDV/DV入力時に各種の設定について詳しくは、「HDV/DV SEL」(62ページ)をご覧ください。

• 本機の**i HDV/DV端子**に入力された映像信号は、i.LINK伝送信号のジッター（周波数の揺れ）がそのままCOMPONENT OUT端子、S VIDEO端子、VIDEO端子に出力されます。接続しているテレビモニターにこの揺れが表示される場合があります。上記端子に他のVTRを接続して記録する場合はご注意ください。本機でテープに記録する画像には問題はありません。

(続く)

各部の名称と働き

- [IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]→[HDMI/CMPNT]の設定を変更すると、**i** HDV/DV端子、S VIDEO OUT端子、VIDEO OUT端子に出力している映像信号が一瞬乱れる場合があります。
- ◆ **i** HDV/DV端子の出力については、「映像出力端子共通のご注意」(22ページ)をご覧ください。

⑩ LANC (ランク) 端子

LANC¹⁾ 端子を持つ外部機器から本機のテープ走行などをコントロールするときに、この端子に接続します。

ご注意

- 本機の LANC 端子は [LANC-S] 機能にのみ対応しています。[LANC-M] 機能は搭載していません。[LANC-S] の状態の機器とは接続できません。誤動作することがあります。
- 本機をプレーヤーとして使用する場合は、レコーダーの LANC 切り替えを M 側に合わせてください。M/S の切り替えがないレコーダーでは、本機をコントロールすることはできません。
- 本機を接続する [LANC-M] 機能付きの機器に SHUTTLE A/B の切り替えがある場合、HDV で記録されたテープを扱うときは SHUTTLE A、DVCA/M/DV (SP モード) で記録されたテープを扱うときは、SHUTTLE B に設定することをおすすめします。
- LANC 端子を通じて伝送される情報には、再生・停止・一時停止などの操作命令や、タイムコードやテープカウンター、機器の状態などのデータがあります。
- コントロール L (CONTROL L) という表示の端子は LANC 端子と同じ機能を持っています。
- HDVフォーマットのテープを使用して編集する場合は、編集に制限を生じる場合があります。
- ◆ 58ページの「編集する（パソコンと接続する）」の「ご注意」もあわせてご覧ください。

⑪ CONTROL S (コントロールS入力) 端子

リモートコントロールユニットDSRM-10 (別売) を接続して本機をコントロールできます。DSRM-20 (生産終了品：別売) もお使いいただけます。

ご注意

コントロール S 出力端子のある機器から本機を操作するときは、[OTHERS] メニューの [COMMANDER] を [CONTROLS] に合わせてください。

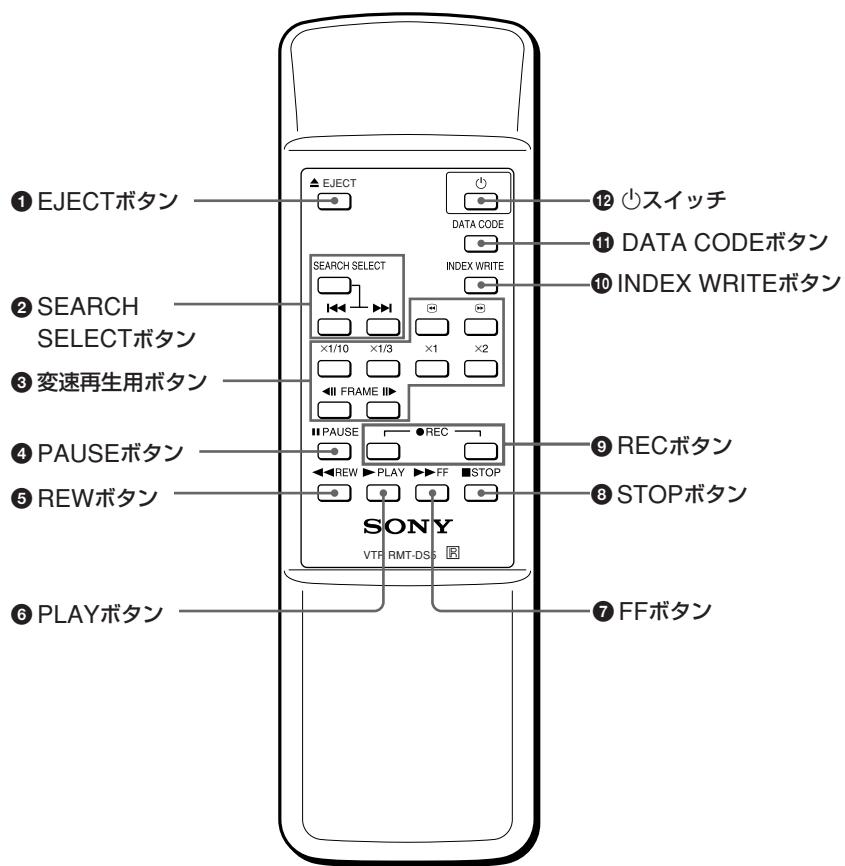
映像出力端子共通のご注意

- [IN/OUT REC] メニューの [VIDEO OUT] → [HDMI/CMPNT] と [DOWN CONVERT] の設定、[DISPLAY SET] メニューの [ALLSCAN MODE] の設定、[i.LINK SET] の [HDV → DV CONV] と [DOWN CONVERT] の設定を変更すると画像が乱れる場合があります。また、上記設定の組み合わせにより、映像出力の形式が制限を受ける場合があります。
- ◆ 詳しくは 81 ページの表および各メニュー設定の説明をご覧ください。
- [IN/OUT REC] メニューの [VIDEO OUT] → [HDMI/CMPNT] の設定を変更すると、S VIDEO OUT 端子、VIDEO OUT 端子、**i** HDV/DV 端子に出力している映像信号が一瞬乱れる場合があります。
- 本機は標準ビデオ信号の入力のみに対応しています。以下のようないくつかの映像信号を入力した場合には、記録される映像や音声が乱れることがあります。
 - 一部の家庭用ゲーム機の映像
 - 民家用 VTR のブルーバック、グレーバック画面
 - TBC (タイムベースコレクター) を搭載していない VTR の変速再生中の映像
 - 同期信号が乱れている映像信号
 - テープおよび記録の状態が悪いカセットを、TBC を搭載していないアナログ VTR で再生した映像
- 入力している映像信号のジッター (画面全体の揺れ) を吸収するため、アンダースキャン部で映像信号の乱れを吸収します。アンダースキャンモニターでは、アンダースキャン部にこの処理が見える場合がありますが故障ではありません。テープに記録される映像には問題はありません。
- 記録時または EE 時、本機から出力される色信号のサブキャリアは水平同期信号と同期していません。接続するモニターによっては、色や水平同期信号が乱れることがあります。
- VIDEO、S VIDEO の OUT 端子、または COMPONENT OUT 端子に文字情報を出力させたくない場合は、本機の DISPLAY OUTPUT スイッチを OFF に合わせてください。モニター画面に表示されている項目に応じて、リモコンの DATA CODE、SEARCH SELECT ボタンを押して画面表示を消してください。

1) LANC (Local Application Control bus system):

民生用 VCR をコントロールするための双方向インターフェース

付属リモコン



① EJECT (カセット取り出し) ボタン

⑦ FF (早送り) ボタン

② SEARCH SELECT (サーチ選択) ボタン

⑧ STOP (停止) ボタン

場面を頭出しだすときに押します。

◆ 頭出しへ詳しくは、「頭出しだす」(36ページ)をご覧ください。

③ 変速再生用ボタン

再生時に、いろいろな速さで画像を見られます。

◆ 変速再生について詳しくは、「変速再生する」(35ページ)をご覧ください。

④ PAUSE (一時停止) ボタン

⑨ REC (記録) ボタン

左右のボタンを同時に押すと、本体のRECインジケーターとPLAYインジケーターが点灯し、記録が始まります。

⑤ REW (巻き戻し) ボタン

⑩ INDEX WRITE (インデックス打ち込み) ボタン

記録中にインデックスを打ち込みます。

◆ インデックスについて詳しくは、「インデックス信号を打ち込む」(43ページ)をご覧ください。

⑥ PLAY (再生) ボタン

(続く)

各部の名称と働き

⑪ DATA CODE (データコード) ボタン

データコード（日付情報、カメラデータ）を表示します。

- ◆ データコードについて詳しくは、「テープに記録された情報（データコード）の表示」（35ページ）をご覧ください。

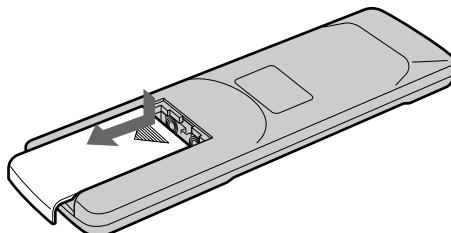
⑫ ⌂ (オン／スタンバイ) スイッチ

ご注意

- 付属のリモコンのリモコンモードは「VTR4」に固定されています。
- 付属のリモコンを使うときは、[OTHERS]メニューの [COMMANDER]を[WIRELESS]に設定してください。
- 付属のリモコンだけでなく、ソニー製のリモコン（リモコンモードまたはコマンドモードが[VTR4]に設定されているもの）が本機に向けて使用された場合、本機はリモコン操作に反応します。リモコンによる本機の操作をすべて無効にしたいときは、[OTHERS]メニューの [COMMANDER]を[CONTROL S]に設定してください。

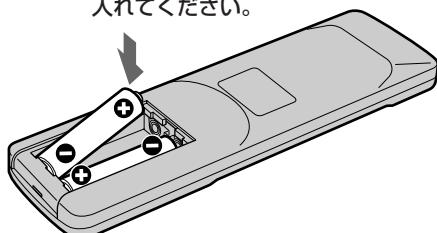
電池の入れかた

1 ふたをはずす。

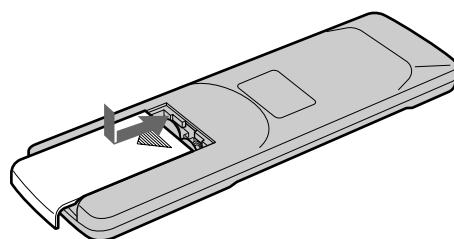


2 +と-の方向を確認して、単3形乾電池2個（付属）を入れる。

必ず+極側から電池を入れてください。



3 ふたを閉める。



乾電池についての安全上のご注意

警告 注意

7ページの「電池についての安全上のご注意」をよくお読みください。

電池を取り出すときは

手順1のようにふたをはずし、電池を取り出してください。

文字情報表示について

本機と接続した外部モニターに、各種文字情報をスーパーインボーズ表示することができます。

外部モニターに文字情報を表示するときは、本機のDISPLAY OUTPUTスイッチをALL、またはS VIDEO/VIDEOに設定してください。また、DISPLAYボタンを押して、各種文字情報の表示／非表示を切り換えることができます。

この取扱説明書では、画面に表示される項目を英語で表記しています。本機では好みに合わせて、メニューの設定で表示言語を変更することができます。

◆ 詳しくは73ページをご覧ください。

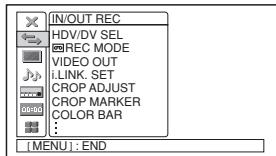
ご注意

720pモードで出力している場合、モニターテレビによっては画角の違いにより、文字情報などの一部（外周部：アンダースキャン部に近い部分）が欠けて表示される場合があります。このような場合は、本機のLCDモニターもしくはS VIDEO OUT端子、VIDEO OUT端子で文字情報をご確認ください。また、モニターテレビにアンダースキャンの機能が搭載されている場合は、アンダースキャンの状態で文字情報全体をご確認いただけます。

メニュー画面

MENUボタンを押すと表示されます。

◆ メニューについて詳しくは、「第5章 メニューで行う調整と設定」（60ページ）をご覧ください。

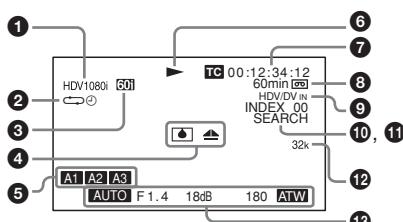


データ表示画面

DISPLAYボタンを押すたびに、映像のみ、映像とデータ表示、映像とタイムカウンター表示を切り換えて表示します。

データ表示について

タイムコードやテープ残量など、通常の記録／再生時に必要な情報をモニターに表示させることができます。



① フォーマット表示

[HDV1080i]、[DVCAIM]または[DV SP]が表示されます。

② リピート表示

TIMERスイッチをREPEATに設定しているときに表示されます。また、[VTR SET]メニューの[CUSTOM REPEAT]→[START TIME]が[ON]に設定されているときは、②も表示されます（37ページ）。

③ 60i/50i表示

④ 警告表示

警告を表示します。

◆ 警告表示について詳しくは、「警告表示とお知らせメッセージ」（84ページ）をご覧ください。

⑤ ASSIGNボタン表示

各ASSIGNボタンを初期設定以外に設定しているときに表示されます。

◆ ASSIGNボタンについて詳しくは、73ページをご覧ください。

⑥ 走行モード表示

テープの走行モードを表示します。

⑦ タイムカウンター（タイムコード、ユーザービット、カウンターのカウント値）表示

カウンターのカウント値、タイムコードまたはユーザービットを表示します。表示の切り換えは前面パネルのCOUNTER SELECTボタンで行います。

タイムコードを表示しているときは、タイムコードの左側にTCと表示されます。ドロップフレームモードの場合、分と秒の間がピリオドで表示されます（例：00:12.58:00）。

ユーザービットを表示しているときは、ユーザービットの左側にUBと表示されます。

カウンターのカウント値を表示している場合、タイムカウンター表示の左端の桁には、カウント値が負（マイナス）のときには「-」が表示されます。カウント値が正（プラス）のときには何も表示されません。カウンターのカウント値は7桁で表示されます。

自己診断機能が働いた場合には、診断番号を表示します。

ご注意

タイムコードが記録されていないテープや、本機が対応していない方式のタイムコードが記録されたテープを再生すると、タイムコードが正常に表示されません。

(続く)

文字情報表示について

⑧ テープ残量表示

テープ残量を表示します。

- ◆ テープ残量表示について詳しくは、「REMAINING」(67ページ)をご覧ください。

ご注意

テープの頭まで巻き戻しているカセットを入れた直後は表示されません。しばらくテープを走行させるとテープ残量が表示されます。

⑨ INPUT SELECT表示

INPUT SELECT (入力選択) スイッチの位置に合わせて表示が変わります ([HDV/DV IN]、[S VIDEO IN]または[VIDEO IN])。

⑩ ■(インデックス) 表示

インデックスが打ち込まれたとき、■を表示します。

⑪ サーチ表示

付属のリモコンからサーチ (頭出し) を行った場合、サーチモードを表示します。

- ◆ サーチ (頭出し) について詳しくは、「頭出しそる」(36ページ)をご覧ください。

⑫ オーディオモード表示

記録中は、[AUDIO SET]メニューの[AUDIO MODE]で[FS32K]が選択されていた場合、32kが表示されます。

[FS48K]が選択されていた場合は、48kが表示されます。

再生時、音声ダビング中は、テープに記録されているオーディオモードを表示します。iLINK入力時は、HDV/DV端子に入力されているオーディオモードを表示します。

ご注意

- [IN/OUT REC]メニューで[HDV/DV SEL]の設定が[HDV]のときは、オーディオモードは表示されません。
- HDV/DVCAMのロックモード以外の信号はノンスタンダードオーディオとなり、再生時またはHDV/DV端子から入力されたときは、NS32k/NS48kが表示されます。

⑬ 日付情報・カメラデータ表示

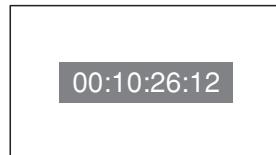
リモコンのDATA CODEボタンを押す、または[DISPLAY SET]メニューの[DATA CODE]で[DATE]か[CAMERA DATA]を選択すると、撮影時の日付情報とカメラデータを切り換えて表示することができます。

- ◆ 日付情報・カメラデータについて詳しくは「テープに記録された情報 (データコード) の表示」(35ページ)をご覧ください。

タイムカウンター表示について

DISPLAYボタンを押してタイムカウンター画面に切り換えると表示されます。このタイムカウンター画面ではタイムデータ(カウンターのカウント値、タイムコード、ユーザービット)を表示します。

タイムカウンター表示中に↑/↓ボタンを押すと、表示位置を上下に移動することができます。また、小タイムカウンターを表示しているとき、↔/↔ボタンを押すと左右に移動することができます。



カウンターのカウント値を表示している場合、タイムカウンター表示部の左端の桁には、カウント値が負(マイナス)のときは「-」が表示されます。カウント値が正(プラス)のときには何も表示されません。タイムコードを表示している場合、フレームモードがドロップフレームのときには、タイムコードの分と秒の間がピリオドで表示されます。(例：「00:12.58:00」)。

ユーザービットを表示しているときは、ユーザービットの各桁の間が空白になります。

ご注意

- 再生中、記録されたテープに不連続な部分があると、タイムカウンター表示部の表示が以下のようになります。
 - カウンターのカウント値は、その位置から歩進が不正確になることがあります。
 - タイムコードとユーザービットは、その位置で一時的に表示が不正確になることがあります。
- 60i方式で記録した部分と50i方式で記録した部分が混在しているテープの記録の境目を再生すると、その位置でカウンターに表示されるデータが不正確になることがあります。
- 異なったビデオフォーマット(HDV、DVCAM、またはDV)の記録の境目を再生すると、その位置でカウンターに表示されるデータが不正確になることがあります。
- カウンターのカウント値は±12時間表示されます。本機は24時間表示には対応していません。
- カウンターのカウント値は7桁表示されます。「時」の10の位の桁は表示されません(例：カウント値が「11:22:11:22」の場合、表示は「1:22:11:22」となります)が、本機内部では時間の桁を「11」として扱っています。

タイムカウンターの表示設定について

[DISPLAY SET]メニューの[COUNTER SET]で、タイムカウンター表示の設定ができます。

- DISPLAY：タイムカウンター表示の有無を選択する。
- SIZE：タイムカウンター表示の大きさを選択する。
- COLOR：タイムカウンター表示の色を選択する。
- ◆ タイムカウンター表示の設定について詳しくは、「DISPLAY SET」メニューの「COUNTER SET」(66ページ)をご覧ください。

ステータスチェック画面

STATUS CHECKボタンを押すと表示されます。

本機の \wedge 、 \vee ボタンを押すたびに、オーディオレベルメーターと音声モニターの設定値、出力設定値、ASSIGNボタン設定値、オートリピート設定値を切り換えて表示させることができます。

ステータスチェック画面を消す場合は、STATUS CHECKボタンをもう一度押してください。

オーディオレベルメーターとオーディオ設定値表示

ステータスチェック画面を[AUDIO]に設定しているときに表示されます。また、[AUDIO SET]メニューの[AUDIO MONI]の設定状況を確認することができます。

- ◆ [AUDIO SET]メニューについて詳しくは、「AUDIO SET」メニュー(68ページ)をご覧ください。

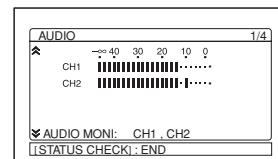
オーディオレベルメーターについて

オーディオレベルの確認や調整をするときに使用します。オーディオモードやAUDIO OUTPUTスイッチの設定によって表示が異なります。

オーディオモードは以下のようになります。

- 再生時**：テープに記録されているオーディオモード
- 記録時/EE時**：現在設定されているオーディオモード（設定は[AUDIO SET]メニューの[AUDIO MODE]で変更できます。）
- INPUT SELECTスイッチがHDV/DVに設定されていて、HDV、またはDV信号が入力されているとき**：入力している信号のオーディオモード（HDV/DV入力時はオーディオモードを変更できません。）

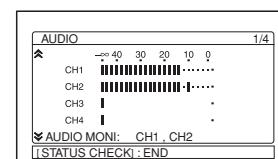
オーディオモードが48 kHz (2チャンネル、16ビット) のとき



(チャンネル1、2の2チャンネルが表示されます。)

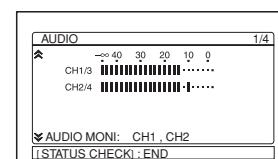
オーディオモードが32 kHz (4チャンネル、12ビット) のとき

- (a) AUDIO OUTPUT SELECTスイッチが「CH-1/2」または「CH-3/4」のとき



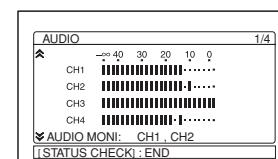
(チャンネル1～4の4チャンネルが表示されます。再生時に音声がチャンネル3、4にも記録されている場合は、チャンネル3、4のレベルも振れます。ただし、本機ではチャンネル3、4に記録することはできません。)

- (b) AUDIO OUTPUT SELECTスイッチが[MIX]のとき



(チャンネル1と3、およびチャンネル2と4の合成信号レベルが表示されます。各信号レベルは50% (-6 dB) になります。)

- (c) 音声ダビング中で、AUDIO OUTPUT SELECTスイッチが「CH-1/2」または「CH-3/4」のとき



(続く)

文字情報表示について

(CH1、2には再生信号レベルが、CH3、4には音声ダビングの入力信号レベルが表示されます。AUDIO OUTPUT SELECTスイッチがMIXのときは、チャンネル1と3、およびチャンネル2と4の合成信号レベルが表示されます。各信号レベルは50%（-6 dB）になります。この場合のオーディオ画面の表示は、(b)のようになります。また音声ダビングの前にダビング音声のみのレベルを確認したい場合は、停止状態でAUDIO DUBボタンを押してください。音声ダビングするチャンネル（チャンネル3と4）のみレベルが振れます。)

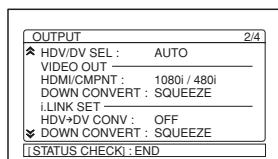
ご注意

EE時、記録時、音声ダビング時（音声ダビングするチャンネルのみ）に入力レベルが0 dBを越えると、オーディオレベルメーターが振り切れて赤色表示されます（ただし、オーディオモードが32 kHz（4チャンネル、12ビット）で、AUDIO OUTPUT SELECTスイッチがMIXのときは、0 dBを越えても赤色表示されません）。再生時およびHDV/DV入力時は赤色表示されません。

出力設定値表示

ステータスチェック画面を[OUTPUT]に設定しているときに表示されます。[IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]、[VIDEO OUT]の[HDMI/CMPNT]と[DOWN CONVERT]、[iLINK SET]の[HDV→DV CONV]と[DOWN CONVERT]の設定状況を確認することができます。

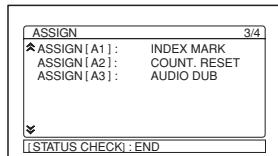
- ◆ [IN/OUT REC]メニューについて詳しくは、「IN/OUT REC」メニュー（62ページ）をご覧ください。



ASSIGNボタン設定値表示

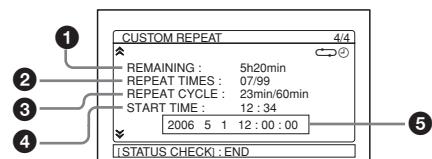
ステータスチェック画面を[ASSIGN]に設定しているときに表示されます。[OTHERS]メニューで設定された[ASSIGN BTN]を確認することができます。

- ◆ ASSIGNボタンについて詳しくは、「ASSIGN BTN」（73ページ）をご覧ください。



オートリピート（カスタムリピート）

ステータスチェック画面を[CUSTOM REPEAT]に設定しているときに表示されます。[VTR SET]メニューの[CUSTOM REPEAT]の設定を表示します。また、オートリピート再生中には、オートリピートの途中経過を確認することができます。



① REMAINING

オートリピート終了までの概算の時間を分単位で表示します。

② REPEAT TIMES

[REPEAT TIMES]で設定されたリピート回数を表示します。また、オートリピート再生中は、現在のリピート回数も同時に表示します。

③ REPEAT CYCLE

[REPEAT CYCLE]で設定された再生間隔の時間を表示します。また、オートリピート再生中には現在の再生時間も同時に表示します。

④ START TIME

[START TIME]で設定されたオートリピートの開始時刻を表示します。

⑤ 日付時刻

[START TIME]が[ON]に設定されている場合、[OTHERS]メニューの[CLOCK SET]で設定された日付と時刻が表示されます。

ご注意

設定されていない項目は[OFF]が表示されます。

- ◆ [CUSTOM REPEAT]について詳しくは、「CUSTOM REPEAT」（69ページ）をご覧ください。

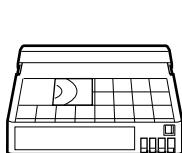
再生・記録

電源・カセットについて

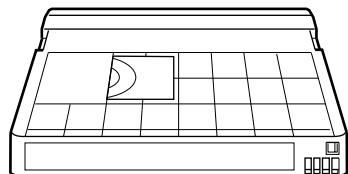
使用できるカセット

HDV/DVフォーマットで記録するときは、スタンダード HDV/DVCAM/DV カセット（PHDV-276DM など）、またはミニ HDV/DVCAM/DV カセット（PHDVM-63DM）のデジタルマスターカセットのご使用をおすすめします。

DVCAM フォーマットで記録するときは、スタンダード DVCAM カセット、ミニDVCAM カセット、または上記の デジタルマスターカセットのご使用をおすすめします。



ミニカセット



スタンダードカセット

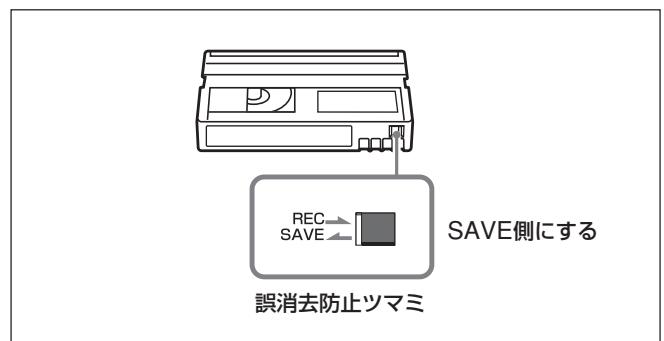
カセットメモリー

ミニカセットおよびスタンダードカセットには、カセットメモリー (CII) マークの付いているものがありますが、本機はカセットメモリーには対応していません。

ただし、DSR-25/45/50などを記録機として使用した場合、[AUTO 回 CII]を選択したときに限り、カセットメモリーのデュプリケートにも対応します。

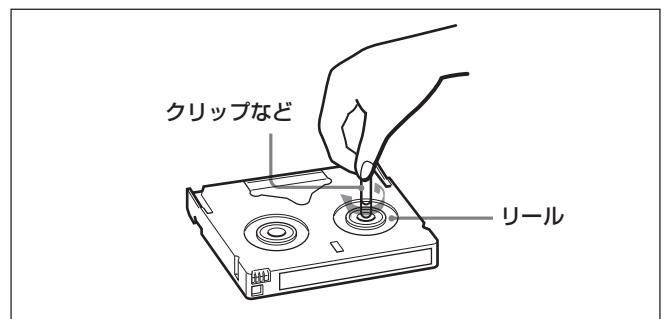
録画内容を消さないときは

カセットの背にある誤消去防止ツマミを誤消去防止状態にします。再び録画や音声ダビングするときは、ツマミを戻してください。



テープにたるみがないことを確認するには

クリップなどでリールを矢印の方向へ軽く回します。テープにたるみがなければリールは回りません。



電源・カセットについて

電源を準備する

電源コード(付属)をAC IN端子に接続します。最後に電源プラグを壁のコンセントに差し込みます。接続をはずすときは、最初に必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

初めて電源を入れたときは「CLOCK SET」画面が表示されます。
◆「CLOCK SET」について詳しくは、74ページをご覧ください。

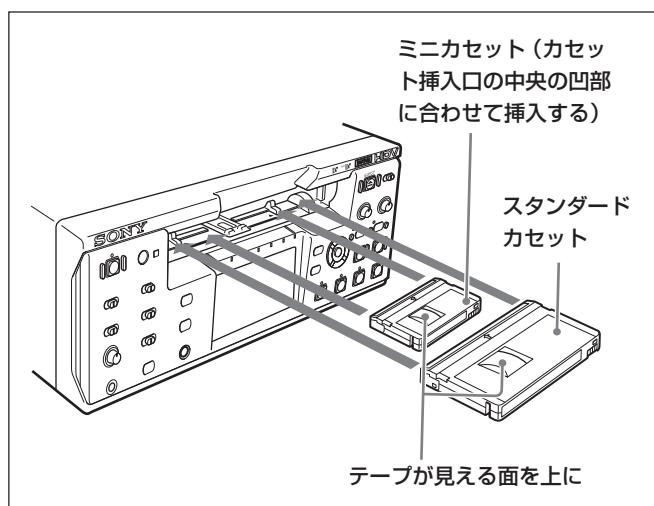
カセットを入れる／取り出す

カセットを入れるには

ご注意

- カセットを無理に押し込んで入れないでください。故障の原因になります。
- カセットの出し入れは本機の内部に光が当たらない場所で行ってください。本機の内部に光が当たると内部のセンサーが誤動作する可能性があります。

テープにたるみのないことを確認してから、テープが見える面を上にしてカセットを入れる。



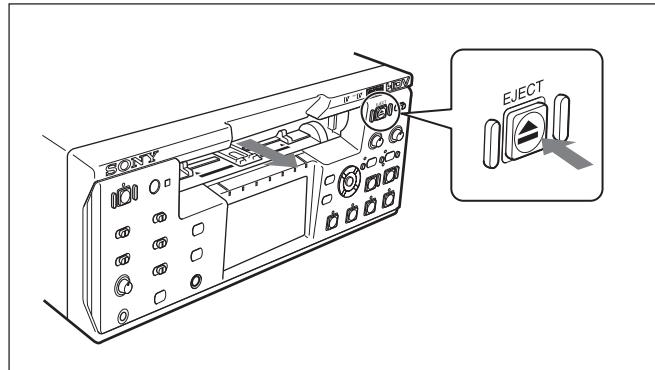
ご注意

- カセットを挿入するときは、カセットの中央部を持って奥までしっかりと入れてください。カセットの端の部分を持って入れようすると、正しい位置に入らないことがあります。
- カセットが挿入されないときや挿入途中で引っかかるときは、カセットを取り出して再度入れ直してください。カセットを取り出さずにそのまま無理に押し込むと、カセットが正しい位置に入らなかったり、故障の原因になったりします。

- カセットを挿入後、本機がカセットを認識し、現在のテープ位置情報を探るための時間がかかります。

カセットを取り出すには

カセット挿入口右側のEJECTボタンを押す。



カセットが取り出せる状態になります。

再生／録画時のご注意

録画内容の補償はできません。

万一、デジタルビデオカセットレコーダーやカセットなどの不具合により録画や再生がされなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があつても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

記録するとき

著作権保護のための信号が重畠されている信号は本機での記録、EE信号の出力が制限されることがあります。このような信号の映像・音声信号を本機で記録を始めると、モニター画面上に警告の表示が現れて停止します。

記録中にINPUT SELECTスイッチを切り換えないでください。著作権などの情報を探って検出する可能性があります。

再生するとき

本機で再生されるソフトに著作権保護のための信号が記録されている場合には、本機で再生した信号の他機での記録や本機の出力が制限されることがあります。

フォーマットによる制約について

本機は、HDV（1080/60i、1080/50i）、DVCA MフォーマットおよびDVフォーマット（SPモード）での記録・再生ができます。しかし、DVフォーマットからDVCA Mフォーマットへダビングされたテープなど、お使いになるテープの記録内容によっては、フォーマットの違いにより、再生・編集時、機能に制約を生じることがあります。

本機ではHDVフォーマットの1080/30F、1080/25F、1080/24F、720/25p、720/24p信号などの1080/60i、1080/50i以外の入出力、記録、テープの再生はできません。

本機ではHDV拡張フォーマットの4チャンネルオーディオ信号の入出力、記録、テープの再生はできません。

本機ではHDVフォーマットの720/30pで記録した画像を再生できますが、**i** HDV/DV端子から出力することはできません。

◆ 詳しくは、「HDV/DVCA M/DVフォーマットの互換性」（90ページ）をご覧ください。

HDV、DVCA MフォーマットとDVフォーマット（SPモード）が混在して記録されたテープを再生する場合、以下のような制限があります。

- フォーマットが切り替わった位置で画像が乱れたり、音声にノイズ音が出力されたりする場合があります。
- テープの走行が安定するまで、一時的にテープ走行コントロール部のボタンがきかなくなる場合があります。

他機で再生するときのご注意

本機でHDVフォーマットで記録したテープは、HDVフォーマットの1080i方式に対応していない機器で再生することはできません。他機で再生する前に本機で再生して、テープの内容を確認することをおすすめします。

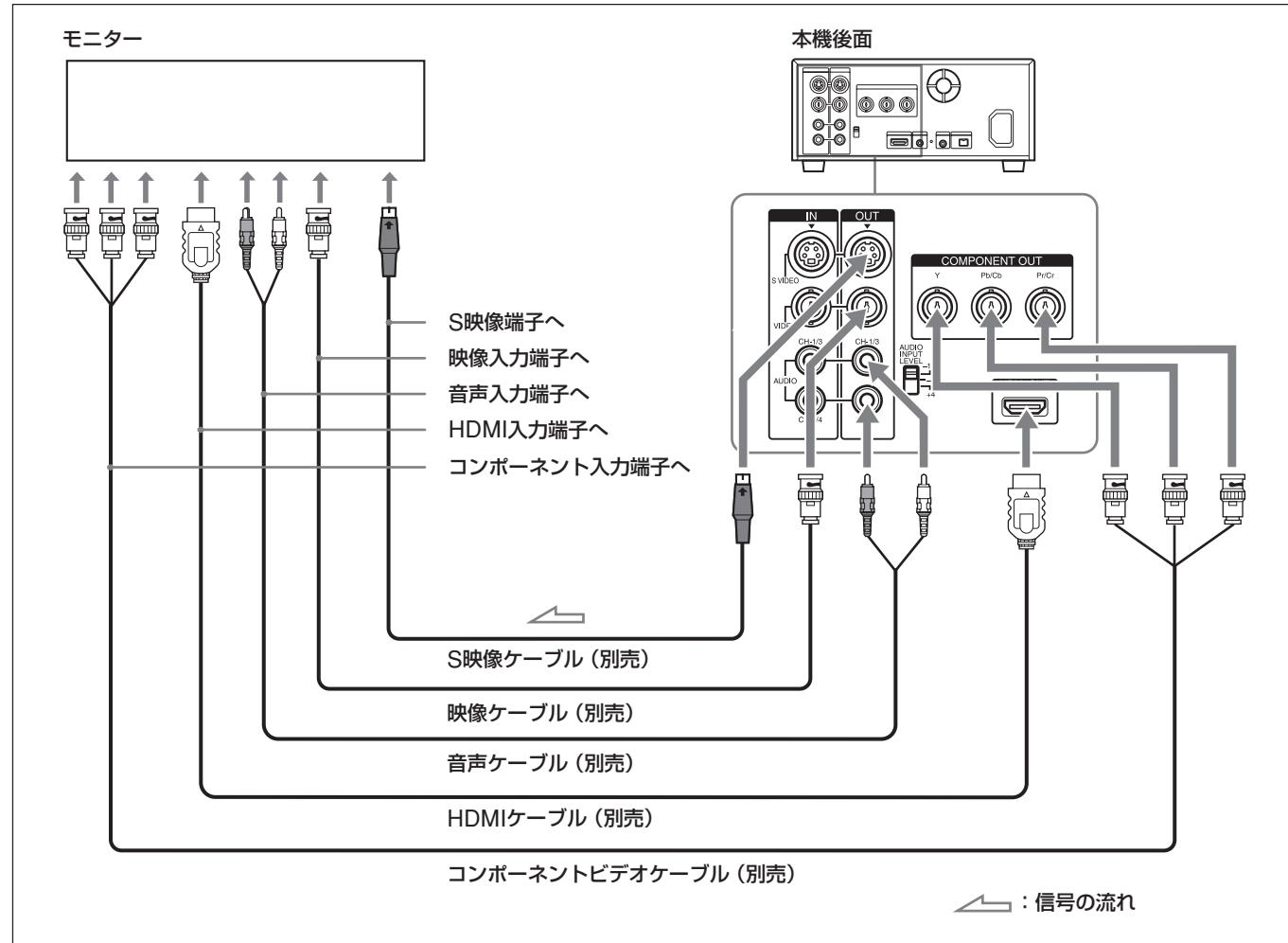
再生する

本機で再生するときの接続や準備の方法、变速再生・頭出しなどの再生機能を説明します。

接続する

i.LINK端子のないモニターとの接続

i.LINK端子のないモニターと接続する場合は、以下のように接続してください。



HDMIケーブルで接続する場合は音声ケーブルの接続は不要です。

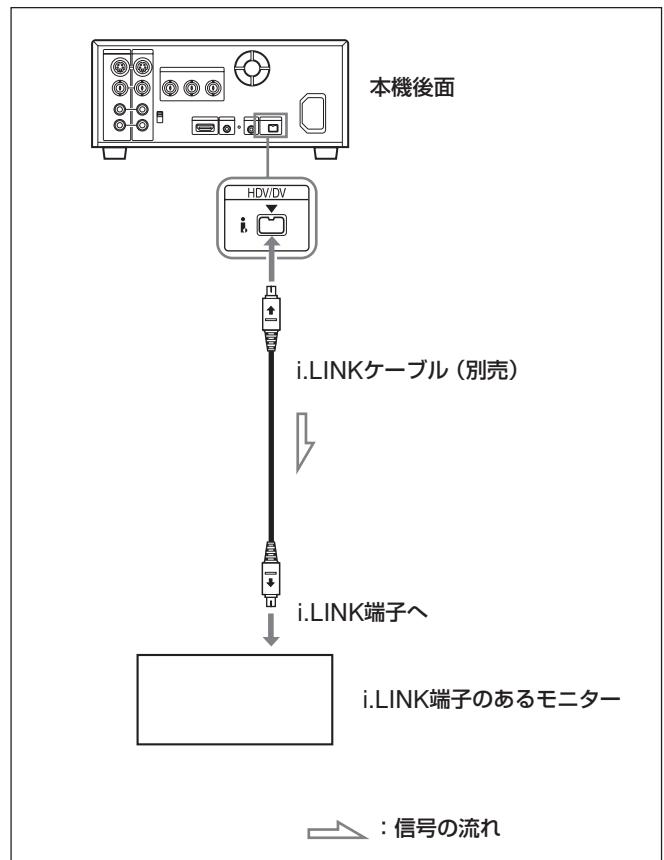
ご注意

- HDMIケーブル、またはコンポーネントビデオケーブルでモニターと接続する際、HDVの画像を再生するときは、[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]→[HDMI/CMPNT]を接続するモニターに合わせて設定してください（63ページ）。DVCAM (DV) フォーマットで記録したテープを再生するときは、[HDMI/CMPNT]の設定値にかかわらず、COMPONENT OUT端子からはDVCAM (DV) フォーマット相当（480i (NTSC) または576i (PAL)）の画像しか出力されません。

- HDMI OUT端子、COMPONENT OUT端子からの出力は本機の「仕様」(96ページ)をご覧ください。
- COMPONENT OUT端子の出力レベルを変更する場合は「IN/OUT REC」メニューの「480i LEVEL」(65ページ)をご覧ください。
- 本機のHDMI OUT端子、COMPONENT OUT端子から出力される画像には制限があります。
 - ◆ 20ページの「各部の名称と働き」のHDMI OUT端子⑥、COMPONENT OUT（コンポーネント出力）端子⑤を参照してください。
- モニターの出力を本機の入力と接続すると、ブーンという音が出たり画像が乱れたりすることがあります。その場合はINPUT SELECTスイッチで入力されていない信号を選ぶか、接続をはずしてください。
- 著作権保護のための信号が記録されているテープを再生した場合や著作権保護のための信号を含むHDV信号がHDV/DV端子に入力された場合は、HDMI OUT端子から映像／音声は出力されません。
- 著作権保護のための信号が記録されているHDVフォーマットのテープを再生した場合や著作権保護のための信号を含むHDV信号がHDV/DV端子に入力された場合は、[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]の[HDMI/CMPNT]設定の選択にかかわらず、480i (NTSC) もしくは576i (PAL) の解像度で映像を出力する場合があります。
- 本機では、DVCAM (DV) フォーマットで記録した画像をHDVにアップコンバートして出力することはできません。

i.LINK端子のあるモニターとの接続

HDV、DVCAM、DV対応のi.LINK端子のあるモニターで画質・音質の劣化がほとんどない再生ができます。



ご注意

- i.LINKケーブルをつなぐ前に[IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]が[AUTO]になっているか確認してください(お買い上げ時の設定)。i.LINKケーブルをつないでから設定を変えると、モニターが映像信号を正しく認識できないことがあります(62ページ)。
- i.LINK端子がついているモニターと接続するときは、本機を認識させるためにモニター側の設定が必要になることがあります。
 - ◆ 詳しくはモニターの取扱説明書をご覧ください。
- i.LINKケーブル接続時は、映像または音声のみを出力することはできません。
- モニターの出力を本機の入力と接続すると、ブーンという音が出たり画像が乱れたりすることがあります。その場合はINPUT SELECTスイッチで入力されていない信号を選ぶか、接続をはずしてください。

再生する

- i.LINKケーブルで接続するときは、モニターがHDVまたはDVに対応している必要があります。HDVで記録されたテープをDV対応モニターで再生するときは、i.LINKケーブルで接続する前に、[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]→[HDV→DV CONV]を[DVCAM]か[DV SP]に設定してください。
◆ 詳しくはモニターの取扱説明書をご覧ください。
- 民生用のテレビには、i.LINKケーブルで接続した機器をコントロールする機能を搭載しているものがありますが、本機には対応しない場合があります。

再生する

- 1 カセットを入れて、 (カセット) インジケーターが点灯していることを確認してください。
- 2 本機のPLAYボタンを押す。

再生が始まります。

再生を終了するには

本機のSTOPボタンを押します。

再生を一時停止するには

本機のPAUSEボタンを押します。

ご注意

- 本機のVIDEO、S VIDEOのOUT端子、COMPONENT OUT端子、またはHDMI OUT端子からのビデオ出力には各種文字情報がスーパーインポーズされます。文字情報を出力したくない場合には、前面パネルのDISPLAY OUTPUTスイッチをOFFにしてください。
◆ DISPLAY OUTPUTスイッチについて詳しくは、12ページをご覧ください。
- ◆ 文字情報について詳しくは、「文字情報表示について」(25ページ)をご覧ください。
- HDVフォーマットで記録したテープを4:3モニターに接続して見るとときは、[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]→[DOWN CONVERT]を希望のモードに設定してください (63ページ)。

ご注意

- HDV、DVCAMおよびDVの記録の境目を再生すると、その位置では映像および音声が乱れます。
- 本機では、DV(LPモード)で記録した画像を再生することはできません。
- 60i方式と50i方式のビデオ信号が混在して記録されたテープを再生すると、方式が切り替わった位置では映像および音声が乱れます。
- HDVで記録されたテープでは、一時停止中の映像は \blacksquare HDV/DV端子から出力されません。

- 1 モニターの電源を入れて、接続した入力端子に合わせて、モニターの入力切り換えを行う。
- 2 本機の電源を入れる。

再生機能

ここでは、再生時に便利な機能を説明します。

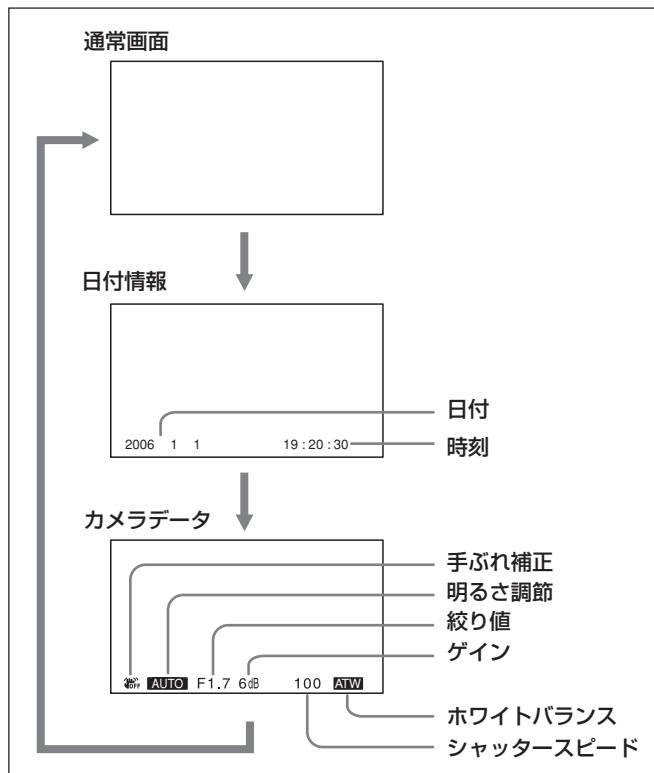
テープに記録された情報（データコード）の表示

ソニー製のデジタルHDビデオカメラレコーダーや、デジタルカムコーダーを使用して撮影したテープには、撮影時の情報（データコード）が記録されます。

データコードには日付情報（日付、時刻）とカメラデータ（シャッタースピード、手ぶれ補正、アイリス、ホワイトバランス、プログラムAEモード、ゲインなどの設定）があります。

本機では、再生中にこれらを表示して確認することができます。付属リモコンのDATA CODEボタンを押すたびに、以下のように、データコード表示なし→日付情報表示→カメラデータ表示……の順に切り替わります。また、[DISPLAY SET]メニューの[DATA CODE]で[DATE]または[CAMERA DATA]を選択し、それぞれに切り換えることができます。

◆ 詳しくは、「DATA CODE」（66ページ）をご覧ください。



ご注意

- データコードが記録されていない場合は、画面に「---」が表示されます。
- 本機を使用してカメラデータを記録することはできません。
- 本機のカメラデータ表示は、デジタルカムコーダーやデジタルHDビデオカメラレコーダー側の表示と一部異なります。

变速再生する

付属のリモコンを使って、スローライズやコマ送り、倍速などの变速再生ができます。

HDVフォーマットの場合

ボタン	動作速度	パネル/アナログ出力		i.LINK出力	
		正方向	逆方向	正方向	逆方向
×1/10	10分の1	◎	—*	—	—*
×1/3	5分の1	◎	—*	—	—*
×	通常再生	◎	○	○	○
×	通常再生	—*	—*	—*	—*
FRAME ◀II/II▶	コマ送り	◎	—*	—	—*
◀I/II▶	8倍速	○	○	○	○

* ×1と同じ出力となります。

◎：正常に再生される。

○：サーチ用の簡易画像が出力される（画像は粗い）。

—：再生されない。

DVCAM (DV) フォーマットの場合

画像の動く速さ	操作方法
10分の1（スロー）	再生中に×1/10ボタンを押します。
3分の1（スロー）	再生中に×1/3ボタンを押します。
通常の再生と同じ速さ	再生中に×1ボタンを押します。
2倍速	再生中に×2ボタンを押します。
コマ送り	再生一時停止状態でFRAME◀II/II▶ボタンを押します。正方向はII▶、逆方向は◀IIを押します。押し続けると連続してコマ送りします。
早送り再生	再生中または变速再生中に◀I/II▶ボタンを押します。
巻き戻し再生	再生中または变速再生中に◀I/II▶ボタンを押します。

再生の方向を変えるには

再生中または变速再生中に、FRAME◀II/II▶ボタンを押します。正方向はII▶、逆方向は◀IIを押します。

ご注意

- 他のソニー製機器（リモコンモードまたはコマンドモードがVTR4に設定されているもの）に向けて、本機の付属リモコンの×1/3ボタンを押すと、再生速度が1/5スローになる場合があります。
- DVCAM (DV) テープ再生時は、本機に向けて他のソニー製リモコン（リモコンモードまたはコマンドモードがVTR4に設定されているもの）の×1/5ボタンを押すと、再生速度が1/3スローになります。

（続く）

再生する

- 本機で±1/10スロー再生が1分以上続くと、自動的に通常の再生（正方向）になります。

变速再生中に音声を聞くには

- [AUDIO SET]メニューの[JOG AUDIO]を[ON]に設定します。
 ◆ [AUDIO SET]メニューについて詳しくは、「AUDIO SET」メニュー（68ページ）をご覧ください。

ご注意

HDVフォーマットで記録されたテープは变速再生の音声を聞くことができません。

頭出しする

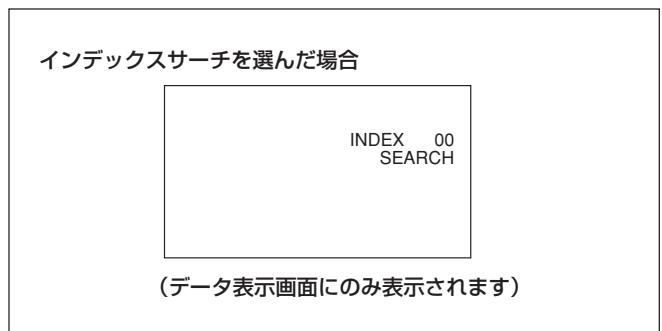
- 本機ではテープ上に記録されている以下の信号の頭出しができます。
- 録画の開始位置を探す：インデックスサーチ
 - 撮影日で探す：日付サーチ

頭出しの操作は、付属リモコンで行います。また、ASSIGNボタンにリモコンの頭出しの機能を割り当てることもできます。

- ◆ ASSIGNボタンについて詳しくは、「ASSIGN BTN」（73ページ）をご覧ください。

- 1** 付属リモコンのSEARCH SELECTボタンを押して、頭出しの種類を選ぶ。

インデックスサーチ→日付サーチ→（表示なし）の順で切り替わります。



- 2** **◀◀/▶▶**ボタンを繰り返し押して、頭出しする場面を選ぶ。

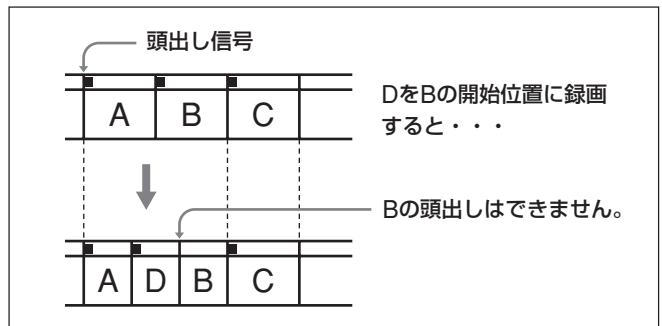
押した回数だけ先または前の場面が頭出しされます。いくつ先（前）の場面かが数字で表示されます。「0」になるまで巻き戻しまたは早送りされると、通常の再生になります。

頭出し信号について

頭出し信号には、インデックス信号、タイトル信号、日付信号、フォト信号の4種類がありますが、本機がテープに記録できるのは、インデックス信号と日付信号のみです。

ご注意

- 頭出し信号の開始位置の上に他の場面を録画した場合、元の画面の頭出し信号は消え、元の画面は頭出しきれなくなります。



- 日付またはインデックスの間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく頭出しきれないとあります。
- 頭出し信号のみを後から付けることはできません。
- 本機はカセットメモリーを使用した頭出し、データの読み書きには対応していません。DSR-25/45/50などを用いたデュプリケートについては29ページをご覧ください。
- ソニー製以外のデジタルビデオ機器で記録されたテープでは、頭出しきれないとあります。

オートリピート（カスタムリピート）

本機ではテープ全体または一部分を自動的に繰り返し再生することができます。

テープ上にある下記項目を検出すると、テープの頭まで巻き戻して再び再生が始まり、これを繰り返します。

- インデックス信号
- 未記録部分
- [IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]が[AUTO]以外に設定され、選択した以外のフォーマットで記録されている部分
- テープエンド

[VTR SET]メニューの[CUSTOM REPEAT]で、オートリピートのリピート回数、リピート間隔、リピート開始時刻を設定することができます。また、オートリピートの設定に従ってオートリピートの再生予約をすることができます。

オートリピートを設定する

[VTR SET] メニューの[CUSTOM REPEAT]で以下の設定を行います。

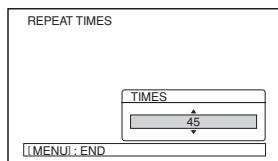
REPEAT TIMES

ON/OFF : リピート回数設定の有無を選択する。

TIMES : リピート回数を設定する。

リピート回数は1回から99回まで設定できます。

本機の Δ/∇ ボタンを押して、リピート回数の数値を変更します。



EXECボタンを押して決定します。

REPEAT CYCLE

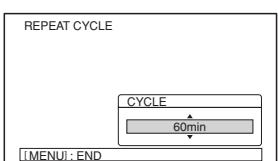
ON/OFF : リピート間隔設定の有無を選択する。

CYCLE : リピート間隔を設定する。

リピート間隔は再生時間、巻き戻し時間、停止時間の合計になります。

リピート間隔は15分から300分まで5分間隔で設定できます。

本機の Δ/∇ ボタンを押して、リピート間隔の数値を変更します。



EXECボタンを押して決定します。

START TIME

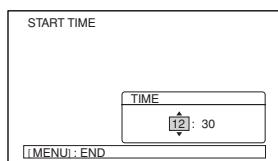
ON/OFF : リピート開始時刻の有無を選択する。

TIME : 開始時刻を設定する。

開始時刻を設定することができます。

本機の Δ/∇ ボタンを押して、時、分の各数値を変更します。

また、EXECボタンを押すことで、時から分の順番で設定します。



EXECボタンを押して決定します。

開始時刻に再生を開始させたい場合は、あらかじめテープを巻き戻しておいてください。巻き戻していない場合は、開始時刻になるとテープの頭まで巻き戻したあと再生が始まります。

ご注意

本機の電源がスタンバイのときは、START TIMEを有効にしている場合に指定時刻になっても自動で電源がONになりません。

- ◆ 詳しくは、「CUSTOM REPEAT」(69ページ)をご覧ください。
- ◆ TIMERスイッチ(11ページ)、ステータスチェック画面(27ページ)、オートリピート(カスタムリピート)(28ページ)もあわせてご覧ください。

オートリピートを実行する

開始時刻を設定していないとき

- 1 本機のTIMERスイッチを REPEATに合わせる。

データ表示画面に CC が表示されます(25ページ)。

- 2 REW(テープがすでにテープの頭まで巻き戻っている場合は、PLAY)ボタンを押す。

テープの頭まで巻き戻り、自動的に再生が始まります。テープ上にある下記項目を検出すると、テープの頭まで巻き戻して再び再生が始まり、これを繰り返します。

- インデックス信号
- 未記録部分
- [IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]が[AUTO]以外に設定され、選択した以外のフォーマットで記録されている部分
- テープエンド

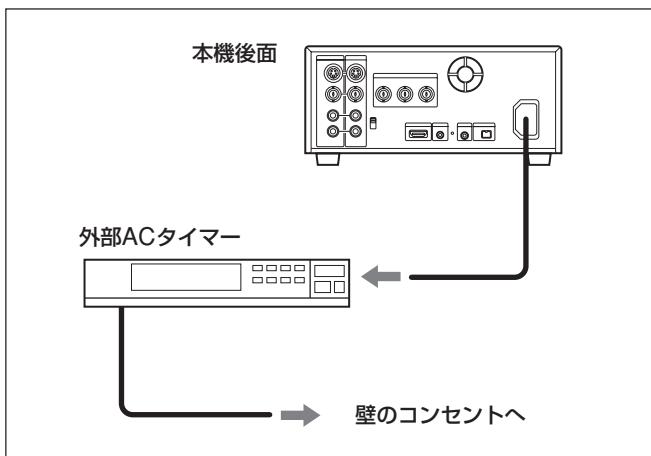
リピート間隔を設定した場合、指定した間隔に到達する数分前まで再生を続ける、またはテープ上の上記項目を検出するとテープの頭まで巻き戻り、指定した間隔になると再生が再開します。

また、リピート回数を設定した場合、指定した回数だけリピート再生します。

再生する

外部ACタイマーを使ってオートリピートを開始するには

- 1 本機を外部ACタイマー(別売)に接続する。



- 2 本機前面パネルのTIMERスイッチをREPEATに合わせる。

- 3 外部ACタイマーで開始時刻を設定する。

開始時刻になると本機の電源が入り、数秒～数十秒後に自動的にオートリピートが始まります。テープ上有る下記項目を検出すると、テープの頭まで巻き戻して再び再生が始まり、これを繰り返します。

- インデックス信号
- 未記録部分
- [IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]が[AUTO]以外に設定され、選択した以外のフォーマットで記録されている部分
- テープエンド

オートリピートの開始時刻を設定したとき

本機のTIMERスイッチをREPEATに合わせる。

本機の電源をONにすると、開始時刻まで自動再生を待機します。また、本機の電源がONのとき、TIMERスイッチをREPEATに合わせると、開始時刻まで自動再生を待機します。

ご注意

- データ表示画面に REC が表示されます。テープが入っていない、録画中など、再生できない状態の場合は、 REC が表示されます。この状態で開始時刻に達すると自動再生は行わず、次の開始時刻まで待機します。
- 自動でオートリピートを実行するには、開始時刻にテープが停止しないなければなりません。

- オートリピートの開始時間を設定したときは、開始時刻より前に本機の電源をONにした状態で待機してください。

途中でオートリピートを止めるには

本機のSTOPボタンを押します。

リピート回数と開始時刻を設定している場合、オートリピートを止めるとリピート回数の設定にかかわらず、開始時刻まで待機します。開始時刻になると、リピート回数は0に初期化され、リピート再生を開始します。

オートリピートを解除するには

本機のTIMERスイッチをOFFに合わせます。

オートリピートを使って以下のようない操作ができます

•30分間隔でオートリピートを繰り返す

- 1 [REPEAT CYCLE]の[ON/OFF]を[ON]に合わせる。

- 2 [REPEAT CYCLE]の[CYCLE]を[30min]に合わせる。

- 3 REWボタン、またはPLAYボタンを押す。

•毎日午前9時から2時間間隔で5回だけオートリピートを繰り返す

- 1 [REPEAT CYCLE]の[ON/OFF]を[ON]に合わせる。

- 2 [REPEAT CYCLE]の[CYCLE]を[120min]に合わせる。

- 3 [REPEAT TIMES]の[ON/OFF]を[ON]に合わせる。

- 4 [REPEAT TIMES]の[TIMES]を[5]に合わせる。

- 5 [START TIME]の[ON/OFF]を[ON]に合わせる。

- 6 [START TIME]の[TIME]を[9:00]に合わせる。

- 7 午前9時前に本機の電源をONにする。

ご注意

- 再生を開始してから20秒以内のインデックス信号、[HDV/DV SEL]で[AUTO]以外に設定された信号と異なった信号、および未記録部分は検出できません。

- 本機の電源を切るときは、あらかじめSTOPボタンを押してテープ走行を止めてから切ってください。テープ走行中にACタイマーを使って本機の電源を切ると、本機やテープの損傷の原因となることがあります。
- デジタルノンリニア編集システムから記録したテープ、またはそのテープを元にデジタルダビングしたテープでは、デジタルノンリニア編集システムでご使用の編集ソフトウェアが、元からあるインデックス信号以外にもインデックス信号をテープに打ち込んでしまう場合があるため、正しくオートリピートしないことがあります。

エッジクロップマーカー

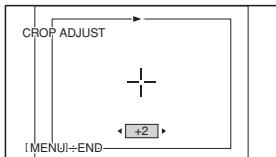
本機は16:9画面のHDV映像をダウンコンバートで4:3画面にエッジクロップ出力するとき、エッジクロップの位置を調節することができます。また、エッジクロップの位置をマーカー表示することによって、切り出し位置を事前に確認することができます。

エッジクロップマーカーを設定する

あらかじめ[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]→[DOWN CONVERT]を[EDGE CROP]に設定するか、[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]→[DOWN CONVERT]を[EDGE CROP]に設定したうえで、[IN/OUT REC]メニューの[CROP MARKER]を[ON]に設定してください。

エッジクロップマーカーの設定画面には、

- 4:3切り出し位置
- 画面中心位置（センター・マーカー）
- 80%安全表示領域（セーフティー・ゾーン）が表示されます。



[IN/OUT REC]メニューの[CROP ADJUST]を選択すると確認画面が出ますので再度EXECボタンを押してください。続いて、エッジクロップマーカーが表示されます。本機の \leftarrow/\rightarrow ボタンで画面の中心から左右にクロップマーカーを調節し、EXECボタンを押してクロップする位置を決定します。

ご注意

- LCDモニター上でCROP MARKERが表示されるとき、LCDモニターに表示される文字情報とクロップマーカーは本機背面の各出力端子には出力されません。4:3マーカーを出力させたい場合は、[MARKER BURN]を参照してください。
- HDV映像をダウンコンバートで4:3画面にエッジクロップ出力させるには、[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]（63ページ）、および[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]（63ページ）をご覧ください。

MARKER BURN

MARKER BURNは16:9画面に4:3マーカーを画像と一緒に各ビデオ映像出力に表示させる機能です。オリジナルテープから編集用テープなどを作成する場合に使うことができます。

MARKER BURNを設定するには

[DISPLAY SET]メニューの[MARKER BURN]を[ON]にする。

ご注意

- MARKER BURNは以下の条件のみ使用することができます。
 - HDVフォーマット再生、またはHDVフォーマットの信号をi HDV/DV端子に入力中で、[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]→[DOWN CONVERT]の設定が[SQUEEZE]、または[LETTER BOX]に設定されているとき
 - ワイド信号記録されたDVCAMもしくはDVフォーマットの信号を再生、またはワイド信号のHDV、DVCAMもしくはDVフォーマットの信号が各映像端子に入力されているとき
- [IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]→[DOWN CONVERT]が[EGDE CROP]に設定されているとき、マーカーは表示されません。
- エッジクロップマーカー、MARKER BURNで表示されるマーカーは、4:3画像に切り取る場合の水平方向の有効範囲を示しています。一般的な4:3のテレビモニターに表示される映像の領域は、本機のマーカーの範囲より狭くなります。
- エッジクロップマーカーとMARKER BURNを同時にONにした場合は、エッジクロップマーカーの表示が優先されます。
- [DISPLAY SET]メニューの[MARKER BURN]と[ALLSCAN MODE]を同時に[ON]に設定した場合、LCDモニターのマーカーは正しい位置に表示されませんが、故障ではありません。各ビデオ出力端子には正しく出力されます。

レコーダーとして使う

本機をレコーダーとして使うときに必要な接続と設定、記録の方法を説明します。本機をダビング用として使う場合も、必要な設定や操作は基本的に同じです。

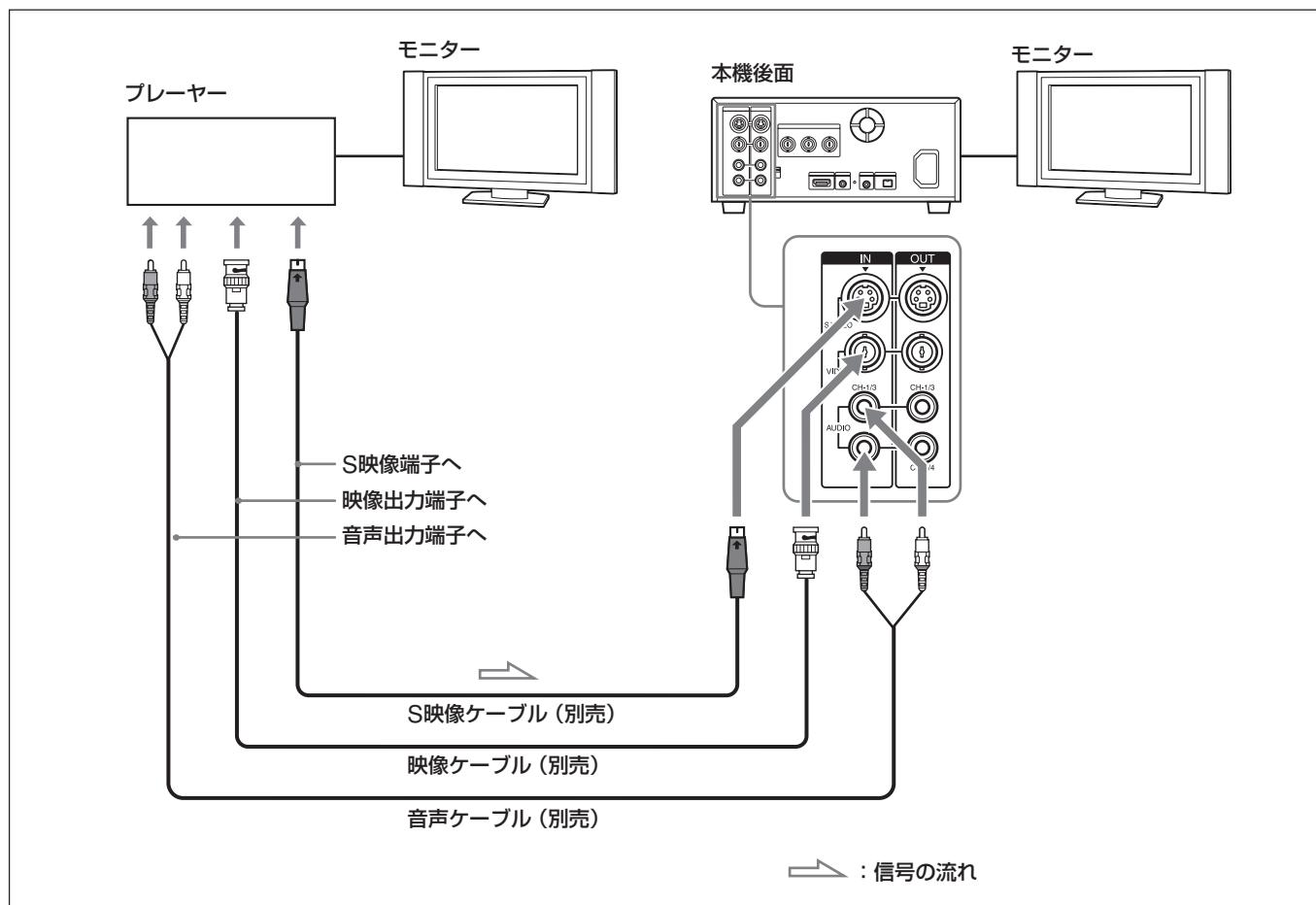
ご注意

- ・編集機との接続のしかたについては、編集機に付属の取扱説明書をご覧ください。また、接続時は使用する編集ソフトウェアの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- ・編集機能は編集ソフトウェアに依存します。実際の編集方法については、使用する編集ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- ◆ 58ページ、59ページもあわせてご覧ください。

接続する

i.LINK端子のない機器との接続

i.LINK端子のない機器と接続して、本機をレコーダーとして使用する場合は、以下のように接続してください。



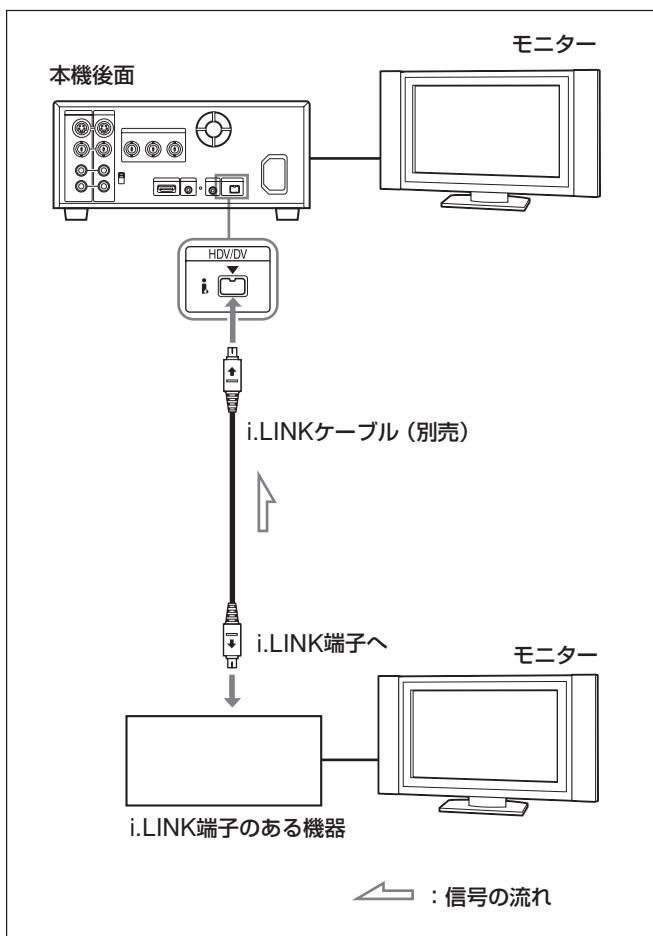
映像用のケーブルは、S映像ケーブルまたは映像ケーブルのどちらかを接続してください。

ご注意

- 本機の出力をプレーヤーの入力と接続すると、ブーンという音が出たり画像が乱れたりすることがあります。その場合はINPUT SELECTスイッチで、入力されていない信号を選ぶか、または接続をはずしてください。
- 変速再生の映像やもともと乱れている映像は、記録されなかったり、画像が乱れたりすることがあります。
- HDVインジケーターが点灯した状態で、AUDIO IN端子のみをつないだ場合、音声は入力されません。VIDEO IN端子も同時につなぐか、[IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]を[DV]に設定してください。

i.LINK端子のある機器との接続

HDV(1080/60i, 1080/50i) DVCAM、DVフォーマットのi.LINK信号を記録する場合、画質・音質の劣化がほとんどない記録ができます。機器の状態によって信号の流れる方向を自動的に切り換えるため、入力／出力に応じてつなぎ直す必要がありません。

**ご注意**

- HDV対応機器から録画するときは、[IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]を[AUTO]にしてください。DVCAM(DV)対応機器から録画するときは、[IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]を[AUTO]または[DV]にしてから、i.LINKケーブルをつないでください。(62ページ)。i.LINKケーブルをつないでから設定を変えると、他機が映像信号を正しく認識できないことがあります。
- デジタル放送などのコピー制限のある番組をi.HDV/DV端子から入力することはできません。
- i.HDV/DV端子を使ってつないだときは、レコーダー側の音声記録モードはプレーヤーと同じになります。レコーダーの音声記録モードを変えたいときは、40ページの「i.LINK端子のない機器との接続」にて行ってください。
- i.HDV/DV端子を使ってつないだときは、ソーステープに記録されたデータコード(日付情報、カメラデータ)はそのままレコーダーに伝送されます。このため、記録されたテープを本機で再生しリモコンのDATA CODEボタンを押すと、ソーステープと同じデータコードが表示されます。
- i.HDV/DV端子を使ってつないだ外部機器の映像が映らないときは、i.LINKケーブルを抜いて、もう一度まっすぐつなぎ直してください。
- 映像または音声のみを記録することはできません。
- DVCAM/DVのとき、再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。HDVのときは映像は記録されません。
- 6ピン型のi.LINK端子を持つ機器と本機を接続する場合は、6ピン型のi.LINK端子から先に接続してください。
- i.LINK端子を持つ機器と本機をi.LINKケーブルで接続する場合、i.LINKケーブルを抜き差しするときは、あらかじめ機器の電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。機器の電源プラグを差したままi.LINKケーブルを抜き差しすると、機器のi.LINK端子から出力している高圧電流(8~40V)が本機に流れ込み、本機の故障の原因となる恐れがあります。
- 一時停止または停止したあとで録画を再開すると、スムーズにつながりません。
- モニターやプレーヤーの入力を本機の出力と接続すると、ブーンという音が出たり画像が乱れたりすることがあります。その場合はINPUT SELECTスイッチで入力されていない信号を選ぶか、接続をはずしてください。
- HDVフォーマットの1080i方式の信号以外のMPEG2の信号を録画することはできません。
- i.HDV/DV端子から入力したHDVフォーマットの信号を記録すると、つなぎ目が約1秒間の静止画となります。

レコーダーとして使う

準備する

本機（レコーダー）の準備

ご注意

- 記録を始める前に、[OTHERS]メニューの[CLOCK SET]で日付・時刻を合わせてください（74ページ）。日付・時刻を設定しないと、頭出し信号に日付情報が書き込まれません。
- 著作権保護のための信号が重畳されているテープや信号を使用すると、記録や操作に制限を受けることがあります。
- 記録中は、誤操作によってテープ走行状態が変わることを防ぐため、STOPボタンとPAUSEボタン以外のテープ走行コントロール部のボタンは働かないようになっています。STOPボタンおよびPAUSEボタンも働かないようにするには、記録を始めてからKEY INHスイッチをONにします。この場合、KEY INHスイッチをOFFにしてから記録を終了または一時停止してください。

- モニターの電源を入れて、接続した入力端子に合わせて、モニターの入力切り換えを行う。
- プレーヤー側で再生の準備をする。
 - ◆ プレーヤーの操作について詳しくは、使用するプレーヤー機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機の電源を入れる。
- プレーヤーをIN端子につないだときは、入力する信号に合わせて、[OTHERS]メニューの[60i/50i SEL]を設定する。

60i方式の信号を入力するときは60iに、50i方式の信号を入力するときは50iに切り替えます（75ページ）。

ご注意

- 記録中は、[60i/50i SEL]の設定を変えないでください。
- INPUT SELECTスイッチをS VIDEOもしくはVIDEOに設定しているとき、[60i/50i SEL]の設定と異なるカラーテレビ方式の信号を入力すると、画像はミュートされます。

- i.LINK入力する場合は、本機が自動的に入力信号のカラーテレビ方式を判別します。[60i/50i SEL]の設定を変える必要はありません。ただし、[60i/50i SEL]の設定が50iの場合は、内部で発生するタイムコードはノンドロップフレームモードになります。このため60i方式の信号をi.LINK入力している場合でも、[TC/UB SET]メニューの[TC FORMAT]の設定にかかわらず、内部で発生するタイムコードはノンドロップフレームモードになります。ドロップフレームモードで記録するときは、[60i/50i SEL]を60iにしてください。

- 本機のINPUT SELECTスイッチを切り換えて、入力信号を選択する。

HDV/DV： HDV/DV端子からの入力信号を記録する場合

S VIDEO： S VIDEOのIN端子からの入力信号を記録する場合

VIDEO： VIDEOのIN端子からの入力信号を記録する場合

記録したいフォーマットに合わせて[IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]（62ページ）と[REC MODE]（62ページ）を設定する必要があります。

◆ 記録テープのフォーマットについて詳しくは、94ページをご覧ください。

ご注意

記録中はINPUT SELECTスイッチを切り換えないでください。記録中に切り換えると、録画が数秒間停止し、回路内部が切り換わってから録画を再開します。この間、画像は録画されません。

- オーディオモードを選択する。（HDV/DV端子を使って記録する場合を除く）

INPUT SELECTスイッチでS VIDEOもしくはVIDEOを選択した場合、オーディオモードは、[AUDIO SET]メニューの[AUDIO MODE]で設定します（68ページ）。

FS32K： オーディオモードを4チャンネルモードにする。

FS48K： オーディオモードを2チャンネルモードにする。

DV (SP) モードで記録するときには、[AUDIO SET]メニューの[AUDIO LOCK]でオーディオロックモードを設定します（68ページ）。

ご注意

- HDV/DV端子から入力している場合、オーディオモードは入力される信号のオーディオモードと同じになります。
- ◆ 記録後に音声ダビングを行う場合は、56ページをご覧ください。

7 プレーヤーの音声レベルに応じて、後面パネルのAUDIO INPUT LEVELスイッチを切り換える。

8 AUDIO INPUTスイッチで、録音レベルの調整方法を切り換える。

ご注意

- HDV/DV端子を使って記録する場合には、録音レベルの調整はできません。

9 AUDIO REC LEVELつまみで、録音レベルを調整する。

手順**8**で、[MANU]を選んだ場合のみ調整します。LCDモニターのオーディオレベルメーターを見ながら、AUDIO REC LEVELつまみを回して、最大音量のときにレベルが0 dBを越えないように調整します。0 dBを越えると、音がひずみます。(オーディオモードが[FS32K](4チャンネルモード)のときは、チャンネル1/2に記録されます。記録中の音声を聞くには、AUDIO OUTPUT SELECTスイッチを[CH-1/2]に設定してください。)

ご注意

- 本機はDVCAAM(DV)記録時、2チャンネル(FS48K)と4チャンネル(FS32K)の2種類のオーディオモードに対応しています。これ以外のモード(例えば2チャンネル(FS32K))を選択することはできません。
- 記録中は、オーディオモードの切り換えはできません。
- 記録後に本機で音声ダビングをする場合は、[AUDIO SET]メニューの[AUDIO MODE]でオーディオモードを[FS32K](4チャンネルモード)に設定してください。
- ◆ [AUDIO SET]メニューについて詳しくは、「AUDIO SET」メニュー(68ページ)をご覧ください。
- 本機ではDVCAAMで4チャンネル(FS32K)記録されたテープにのみ音声ダビングすることができます。

記録する

ここでは、他のVTRをプレーヤーとして、プレーヤーに入れたテープの再生信号を本機で記録する方法を説明します。

- ◆ **i** HDV/DV端子を使ってパソコンと接続した場合の操作については、58ページの「編集する(パソコンと接続する)」をご覧ください。

1 カセットを入れて、 (カセット) インジケーターが点灯していることを確認してください。

2 プレーヤーの再生ボタンを押す。

プレーヤーが再生を開始します。

3 本機のRECボタンを押したままPLAYボタンを押す。

ご注意

HDVの画像を記録するとき、録画開始までに少し時間がかかりますが、故障ではありません。(録画開始までの間、[STBY]文字とRECインジケーターが点滅します。)

記録を終了するには

本機のSTOPボタンを押します。

記録を一時停止するには

本機のPAUSEボタンを押します。

ご注意

NTSCまたはPALの信号をアップコンバートしてHDVフォーマットで記録することはできません。

記録機能**インデックス信号を打ち込む**

記録中に、本機のINDEXボタン、または付属リモコンのINDEX WRITEボタンを押すことで、テープの任意の位置にインデックス信号を打ち込むことができます。インデックスは、再生時の頭出しに便利です。

[VTR SET]メニューの[AUTO INDEX]を[ON]に設定している場合、停止状態から記録を開始すると自動的にインデックス信号が打ち込まれます。インデックス信号打ち込み中は、文字情報表示(25ページ)上に約7秒間■が表示されます。

(続く)

ご注意

- □が表示されている間は、新しくインデックス信号を打ち込むことができません。
- テープ上にインデックス信号が打ち込まれている位置で上書きして記録すると、インデックスは消去されます。映像、音声を残してインデックス信号のみを消去することはできません。
- 再生中、音声ダビング中にインデックス信号を打ち込むことはできません。本機のINDEXボタンおよび付属リモコンのINDEX WRITEボタンは働きません。

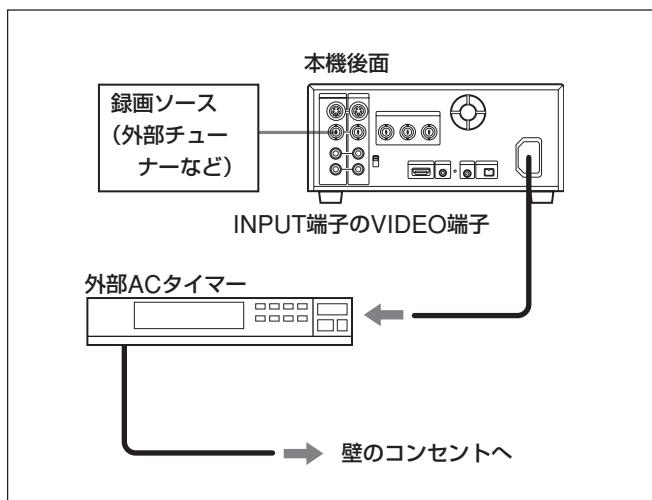
再生時にインデックスを利用するには

「頭出しする」(36ページ)をご覧ください。

ACタイマーを使った記録

本機を外部ACタイマー(別売)に接続すると、設定した時刻に記録を始めるすることができます。

- 1 本機を外部ACタイマー(別売)に接続する。



- 2 記録用のカセットを入れる。

- 3 本機のINPUT SELECTスイッチを切り換えて、入力信号を選択する。

- 4 本機前面パネルのTIMERスイッチをRECに合わせる。

- 5 外部ACタイマーで開始時刻を設定する。

開始時刻になると本機の電源が入り、数秒～数十秒後に自動的に記録を開始します。余裕をもった時刻設定をしてください。RECボタンを押す必要はありません。

ご注意

本機の電源を切るときは、あらかじめSTOPボタンを押してテープ走行を止めてから切ってください。テープ走行中にACタイマーを使って本機の電源を切ると、本機やテープの損傷の原因となることがあります。

テープが終わった場合は

そのまま停止状態になります。

途中で記録を止めるには

本機のSTOPボタンを押します。

ACタイマー記録を解除するには

本機前面パネルのTIMERスイッチをOFFに合わせます。

タイムコードの設定

タイムコードやユーザービットを設定する

本機は、タイムデータに関する機能として、タイムコードおよびユーザービットの設定、表示、記録、再生などを実行することができます。

ご注意

- ・本機のHDV/DV端子からHDVフォーマットの信号を記録したとき、ユーザービットは自動的にコピーされ、本機でプリセットすることはできません。またタイムコードは[TC MAKE]の設定に従って設定されます。元のテープのタイムコードをコピーする場合は[TC/UB SET]メニューの[HDV/DV IN TC]を[EXTERNAL]にします（71ページ）。
- ・DVCAM (DV) フォーマットで録画された画像を本機のHDV/DV端子から入力したとき、本機でユーザービットとタイムコードをプリセットすることができます。元のテープのユーザービットとタイムコードをコピーする場合はDUPLICATE PLUS (52、69ページ)をご使用ください。
- ・HDVとDVCAM (DV) フォーマット混在記録されたテapeのときは、つなぎ目でタイムコードが乱れことがあります。
- ・無信号記録されたHDVテapeを再生すると、タイムコードが乱れことがあります。
- ・カウンタリセット機能が付いているリモコンからのタイムコード、ユーザービットのリセットは、本機では対応していません。

内蔵タイムコードジェネレーターを使う

内蔵タイムコードジェネレーターが発生するタイムコード（内部タイムコード）をテapeに記録する場合、タイムコードの初期値を設定することができます。

また、ユーザービットを使用することにより、日付、時刻、シーン番号、リール名その他のメモ情報をユーザービットデータとして記録することができます。タイムデータに関するさまざまな設定は、メニュー操作によって行います。

- ◆ メニュー操作について詳しくは、「第5章 メニューで行う調整と設定」（60ページ）をご覧ください。

タイムコードの初期値を設定する

ここでは、タイムコードの初期値の設定方法を説明します。

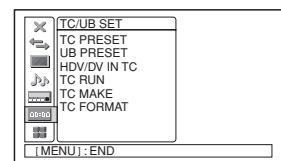
ご注意

タイムコードの初期値を設定する前に、あらかじめ[TC/UB SET]メニューの[TC MAKE]を[PRESET]に設定してください。

- ◆ [TC MAKE]について詳しくは、「TC/UB SET」メニュー（72ページ）をご覧ください。

1 メニューを表示させる。

- ◆ メニューの表示方法については、「メニューの操作」（60ページ）をご覧ください。



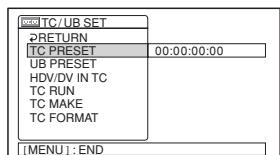
([TC FORMAT]は、[OTHERS]メニューの[60i/50i SEL]を[60i]に設定しているときのみ設定できます。)

(続く)

タイムコードやユーザービットを設定する

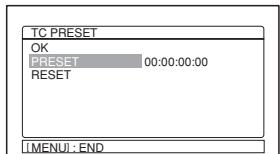
- 2** Δ/∇ ボタンを押して[TC/UB SET]を選び、EXECボタンを押して決定する。

以下のメニューが表示されます。



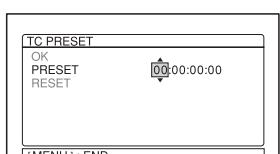
- 3** Δ/∇ ボタンを押して[TC PRESET]を選び、EXECボタンを押して決定する。

以下のメニューが表示されます。



- 4** Δ/∇ ボタンを押して[PRESET]を選び、EXECボタンを押して決定する。

以下のメニューが表示されます。



- 5** Δ/∇ ボタンを押して数値を選び、EXECボタンを押して決定する。

- 6** 手順5と同様に、8桁すべての値を設定する。

- 7** Δ/∇ ボタンを押して[OK]を選び、EXECボタンを押して決定する。

タイムコードが設定され、手順2のメニューに戻ります。

- 8** Δ/∇ ボタンを押して[OK]を選び、EXECボタンを押して決定する。

元のメニューに戻ります。

タイムコードの設定を中止するには
手順7で[CANCEL]を選び、EXECボタンを押す。

タイムコードをリセットするには
手順4で[RESET]を選び、EXECボタンを押す。

ユーザービットを設定する

ユーザービットとして、16進数8桁までの情報をタイムコードトラックに記録することができます。

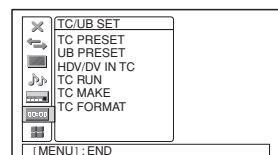
ご注意

ユーザービットは、HDVフォーマットの信号をHDV/DV端子から入力して記録する場合は、入力されたものがそのまま使用され、本手順での設定は無効になります。

本機に内蔵しているカラーバーをHDVフォーマットで記録する場合に限りHDVフォーマットであってもユーザービットを設定することができます。

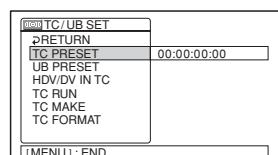
- 1** メニューを表示させる。

◆ メニューの表示方法については、「メニューの操作」(60ページ)をご覧ください。



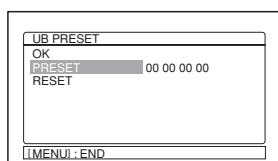
- 2** Δ/∇ ボタンを押して[TC/UB SET]を選び、EXECボタンを押して決定する。

以下のメニューが表示されます。



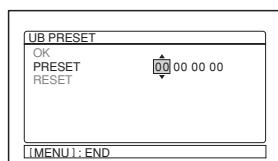
- 3** \uparrow/\downarrow ボタンを押して[UB PRESET]を選び、EXECボタンを押して決定する。

以下のメニューが表示されます。



- 4** \uparrow/\downarrow ボタンを押して[PRESET]を選び、EXECボタンを押して決定する。

以下のメニューが表示されます。



- 5** \uparrow/\downarrow ボタンを押して数値を選び、EXECボタンを押して決定する。

- 6** 手順**5**と同様に、8桁すべての値を設定する。

- 7** \uparrow/\downarrow ボタンを押して[OK]を選び、EXECボタンを押して決定する。

ユーザービットが設定され、手順**2**のメニューに戻ります。

- 8** \uparrow/\downarrow ボタンを押して[OK]を選び、EXECボタンを押して決定する。

元のメニューに戻ります。

ユーザービットの設定を中止するには

手順**7**で[CANCEL]を選び、EXECボタンを押す。

ユーザービットをリセットするには

手順**4**で[RESET]を選び、EXECボタンを押す。

ご注意

HDVフォーマットの1080i方式では、ユーザービットは3フレームおきにしか記録されません。

■ HDV/DV端子に入力した信号を記録するときのタイムコードを選択する

[TC/UB SET]メニューの[HDV/DV IN TC]を設定して記録するときのタイムコードを選択します。

INTERNAL：本機内部で発生させたタイムコードを記録する。

EXTERNAL：■ HDV/DV端子から入力されている映像・音声と一緒に、タイムコードも記録する。

ご注意

- [EXTERNAL]に設定した場合は、タイムコードは■ HDV/DV端子から入力されている値、ユーザービットは[UB PRESET]で設定した値が記録されます。

- ■ HDV/DV端子からHDVフォーマットの信号を入力している場合は上記選択にかかわらず、ユーザービットも入力されている値が記録されます。

- [EXTERNAL]に設定していて、前面パネルのINPUT SELECTスイッチが[HDV/DV]に設定されていて、■ HDV/DV端子から信号が入力されない状態や接続している編集機の編集ソフトウェアが■ HDV/DV端子からタイムコードを出力していない状態で記録すると、タイムコードとして、「--:--:--:--」が記録されます。信号が入力されると、その信号のタイムコードが記録されます。

- [EXTERNAL]に設定していて、外部から入力されているタイムコードが不連続な場合や正しく歩進しない場合、本機でのタイムコードの記録や表示がずれことがあります。またこの状態で記録したテープを使うと、組み合わせる機器によっては、編集やサーチが正しく行われないことがあります。

記録開始時のタイムコードを設定する

[TC/UB SET]メニューの[TC MAKE]を設定して、記録を開始したときのタイムコードの値を設定します。

REGENERATE：テープにすでに記録されているタイムコードに連続したタイムコードになる。

テープにタイムコードが記録されていない場合は、「00:00:00:00」から記録します。

RESET：[TC/UB SET]メニューの[TC PRESET]で設定した値から記録する。

タイムコードやユーザービットを設定する

歩進モードを設定する

[TC/UB SET]メニューの[TC RUN]を設定して、タイムコードの歩進モード（カウントアップ）を切り換えます。

REC RUN：記録中のみタイムコードが進む。

FREE RUN：記録停止中もタイムコードが進む。

タイムコードの初期値を現在の時刻に合わせるときなどに使用します。

ご注意

- [FREE RUN]に設定した場合、電源が入っていない間は内蔵時計の精度で進みます。再度電源を入れたり、再生モードにしたり、INPUT SELECTスイッチで[HDV/DV]を選択した場合に、それが生じる場合があります。
- 本機の内蔵バックアップ電池が消耗すると、[FREE RUN]のタイムコードは初期化されます。内蔵バックアップ電池は、約24時間の通電でフル充電され、約3か月間動作します。

フレームモードを設定する（60i方式の信号使用時のみ）

[TC/UB SET]メニューの[TC FORMAT]を設定して、タイムコードの記録方式を切り換えます。

AUTO：すでにテープに記録されている方に合わせる。

テープに何も記録されていない場合は、ノンドロップフレームモードになります。テープのタイムコードの記録方式が読み取れない場合には、その直前の位置の方になります。カセットを本機から取り出すと、直前の位置の方はクリアされ、ノンドロップフレームモードになります。

[TC MAKE]を[PRESET]に設定している場合には、ノンドロップフレームモードになります。

DF：ドロップフレームモードにする。

NDF：ノンドロップフレームモードにする。

ご注意

[OTHERS]メニューの[60i/50i SEL]が[50i]に設定されていると、本機は50i仕様の機器として動作します。このため、内部で発生するタイムコードは、ノンドロップフレームモードになります。60i方式の信号をHDV/DV入力している場合でも、[OTHERS]メニューの[60i/50i SEL]が[50i]に設定されていると、[TC FORMAT]の設定にかかわらず、内部で発生するタイムコードはノンドロップフレームモードになります。ドロップフレームモードに設定するときは、[60i/50i SEL]の設定を[60i]に切り換えてください。

本機のタイムコード

本機はHDV/DV端子を装備しています。INPUT SELECTスイッチを[HDV/DV]に設定した場合と、それ以外に設定した場合は、表示およびテープに記録されるタイムコードが以下のように異なります。

	[HDV/DV IN TC]メニュー	INPUT SELECT スイッチ	状態 (MODE)	表示および記録されるタイムコード／ユーザービット
再生			再生 音声ダビング 变速再生 ^{a)} DUB1 ^{b)}	テープ上のタイムコード／ユーザービット
EE時	INTERNAL	HDV/DV	デュプリケート DUPLICATE PLUS1 ^{b)}	HDV/DV端子に接続された他機のタイムコード／ユーザービット ^{c)}
			記録 記録一時停止 REC1 ^{b)}	内部でジェネレートしているタイムコード／ユーザービット ^{c)} 入力した信号がHDVの場合：HDV/DV入力されたユーザービット
		S VIDEO または、VIDEO	記録 記録一時停止 REC1 ^{b)}	内部でジェネレートしているタイムコード／ユーザービット ^{c)}
	EXTERNAL	HDV/DV	デュプリケート DUPLICATE PLUS1 ^{b)}	HDV/DV端子に接続された他機のタイムコード／ユーザービット ^{c)}
			記録 記録一時停止 REC1 ^{b)}	タイムコードは、HDV/DV端子に接続された他機のタイムコード ユーザービットは、内部でジェネレートしているユーザービット 入力した信号がHDVの場合：HDV/DV入力されたユーザービット
		S VIDEO または、VIDEO	記録 記録一時停止 REC1 ^{b)}	内部でジェネレートしているタイムコード／ユーザービット ^{c)}

a) 停止、早送り、巻き戻しの状態を含みます。テープ上のタイムコードを読み取ることができない場合は、カウンター表示が

「--:--:--:--」となります。

b) DUB1、DUPLICATE PLUS1、REC1は、テープが停止状態のときにそれぞれのボタンのみを押した状態を示します。

c) タイムカウンターにも表示されます。タイムカウンターについては、26ページをご覧ください。

i.LINK端子を使ったダビング、デュプリケート、音声ダビングとパソコンとの接続

i.LINK端子を使って他の機器へダビングする

本機をプレーヤーとして、他の機器にダビングするときの接続と設定について説明します。

接続する

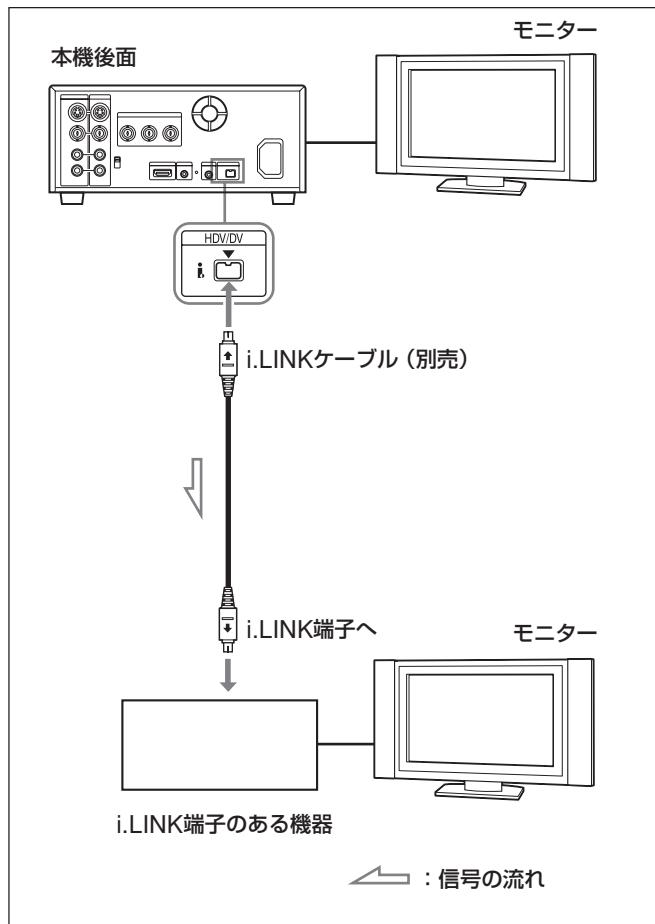
図のようにi.LINKケーブルで本機を録画機につなぎます。機器の状態によって信号の流れる方向を自動的に切り換えるため、入力／出力に応じてつなぎ直す必要がありません。本機を編集機と接続してデジタルノンリニア編集システムで使用する場合も、HDV/DV端子を使って編集機と接続します。

◆ 編集機に接続する場合は、編集機に付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ダビングを始める前に、出力したいフォーマットに設定します。[IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL](62ページ)と[i.LINK SET](63ページ)の設定を行ってください。

◆ 詳しくは、90ページの「HDV/DVCAM/DVフォーマットの互換性」をご覧ください。

DSR-25/45/50などに搭載しているデュプリケート機能を使ってHDVフォーマットで記録されたテープをi.LINK接続でダビングする場合は、[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]→[HDV→DV CONV]で[DVCAM]を選択してください。



HDVフォーマットで記録したテープをDVCAMフォーマットにダウンコンバートする場合、制限があります。

- ◆ [iLINK SET]について詳しくは、「iLINK SET」(63ページ)をご覧ください。

ご注意

- iLINKケーブル接続時は、再生一時停止中の画像を出力すると、画像が粗くなることがあります。
- HDVフォーマットの場合、变速再生中は簡易画像が出力されます（35ページ）。
- iLINKケーブル接続時は、映像または音声のみを出力することはできません。
- HDVをDVCAMにダウンコンバートした信号をデュプリケートしてHDV/DVカセットにDVCAMフォーマットで記録する場合、記録可能時間はカセットに表記されている時間の約2/3になります。DVCAMカセットにDVCAMフォーマットで記録する場合は、カセットに表記されている時間と記録可能時間は同じです。

ダビングする

1 本機の準備をする。

- ◆ 42ページの「準備する」をご覧ください。

2 レコーダーの準備をする。

入力切り替えスイッチがある場合は入力を選択する。

- ◆ 詳しくは、使用するレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

3 本機で再生を始め、レコーダーで録画する。

- ◆ 詳しくは、使用するレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

4 ダビングが終わったら、レコーダーの録画を停止し、本機の再生を停止する。

デュプリケート(同一タイムコードのワークテープ作成)

DUPLICATE PLUSは本機がレコーダーとなりi.LINKで接続されたプレーヤーのテープをタイムコードごとデュプリケート(複製)する機能です。DUPLICATE PLUSボタンを使って、オリジナルテープをデュプリケートすると、同一タイムコードのワークテープの作成が容易に行えます。

本機はHDV1080i、DVCAM、DV(SP)のフォーマット入力に対応します。

また、デュプリケート中のテープエンドや本機のSTOP操作による一時停止中に、プレーヤー側、またはレコーダー側のカセットを交換することができます(54ページ)。したがって、複数のテープから1つのテープに継続してデュプリケートすることができます。

(本機はカセットメモリーCIIのデュプリケートには対応していません。)

ご注意

本機能は、1対1接続でご使用ください。また、デュプリケート中にiLINKケーブルを抜かないでください。

DUPLICATE PLUSを設定する

[VTR SET]メニューの[DUPLICATE PLUS]を設定します。

フォーマットを設定する

[DUPLICATE PLUS]の[FORMAT SEL]でデュプリケートするフォーマットを選択します。指定以外のフォーマット部分は、無記録部分を検出したときと同じ動作をします(54ページ)。

ALL：オリジナルテープをそのままデュプリケートする。

HDV1080i：HDV1080iフォーマットのみを自動検出し、デュプリケートする。

DVCAM：DVCAMフォーマットのみを自動検出し、デュプリケートする。

DV SP：DV(SP)フォーマットのみを自動検出し、デュプリケートする。

ご注意

•パソコンに取り込むときにフォーマットが混在すると、パソコンがハングアップしたりすることがあります。本機のデュプリケート機能を使用してダビングしたテープをパソコンに取り込む場合は、単一フォーマットでのデュプリケートをおすすめします。

•[FORMAT SEL]をALLに設定してデュプリケート中に、非対応のHDVフォーマット(HDV720pなど)が入力された場合は、無信号記録になりその部分をスキップします。また、非対応のDVフォーマット(DV LPなど)が入力された場合は、DV SPとして記録します。

- デュプリケートの途中で入力のフォーマットが切り替わった場合、切り替わり目部分が一部欠ける場合があります。

自動巻き戻し機能を設定する

[DUPLICATE PLUS]の[AUTO REW]でプレーヤーとレコーダーの自動巻き戻し機能の有無を選択します。

ON：プレーヤー、レコーダーともに、自動的に巻き戻してからデュプリケートを開始する。

また、複数のカセットから継続してデュプリケートする場合は、カセット交換した側を自動的に巻き戻してからデュプリケートを再開します。

OFF：任意の位置からデュプリケートを開始する。

ご注意

プレーヤーの仕様により、一部の機種では自動巻き戻し後テープの先頭検出ができない場合があります。その場合は、[AUTO REW]設定を[OFF]にしてご使用ください。

DUPLICATE PLUSを実行する

デュプリケートの操作は[DUPLICATE PLUS]の設定により以下のように異なります。

ご注意

デュプリケート中にプレーヤーを操作すると、処理が中断されたり、正しくないテープが作成されたりすることがあります。実行中はプレーヤーを操作しないでください。

DUPLICATE PLUSの[AUTO REW]が[ON]の場合

1 本機とプレーヤーをiLINKケーブル(別売)で接続し、電源を入れ、本機のINPUT SELECTスイッチを[HDV/DV]に切り換える。

2 STOPボタンを押して、本機を停止状態にする。

3 本機のDUPLICATE PLUSボタンを押しながら、PLAYボタンを押す。

本機、プレーヤーともに、自動的にテープの頭まで巻き戻り、本機は記録一時停止状態に、プレーヤーは再生一時停止状態になってから、本機のDUPLICATE PLUSボタンとPLAYボタンのインジケーターが点灯し、デュプリケートが始まります。

ご注意

- プレーヤー側のテープのローディングが終了してからデュプリケートを開始してください。
- デュプリケートは、iLINKの通信が確立してから開始されます。このため記録内容の頭の部分が一部欠けます。
- プレーヤーにオートリピートなどの機能があるときは、オートリピートをOFFにしてください。
- プレーヤーにスチルタイマー機能があるときは、テープの頭まで巻き戻す間の自動動作を防ぐため、できるだけ長い時間の設定にしてください。
- DSR-45とデュプリケートするときはDSR-45のREMOTE/LOCALスイッチを[LOCAL]に設定してください。
- デュプリケート中にプレーヤーを手動で操作して、警告メッセージ(PLAYER UNCONTROLLABLE)が表示されて中断した場合、再度デュプリケートをするには、一度本機のEXECボタンを押してデュプリケートを終了してから実行してください。

DUPLICATE PLUSの[AUTO REW]が[OFF]の場合

- 1** 本機とプレーヤーをiLINKケーブル(別売)で接続し、電源を入れ、本機のINPUT SELECTスイッチを[HDV/DV]に切り換える。
- 2** 本機とプレーヤーのテープを、デュプリケートを開始する位置にしておく。
- 3** STOPボタンを押して、本機を停止状態にする。
- 4** 本機のDUPLICATE PLUSボタンを押しながら、PLAYボタンを押す。

本機は記録一時停止状態に、プレーヤーは再生一時停止状態になってから、本機のDUPLICATE PLUSボタンとPLAYボタンのインジケーターが点灯し、デュプリケートが始まります。

デュプリケートの開始位置を調節するには手順**4**で、DUPLICATE PLUSボタンを押しながら、PAUSEボタンとPLAYボタンを押してください。この場合、もう一度PAUSEボタンを押すまで、デュプリケートは始まりません。

LCDモニターの[PLAYER]表示が[READY]の点滅表示になったことを確認してから、プレーヤーのテープを好みの位置に調節してください。PAUSEボタンを押してデュプリケートを始めることができます。

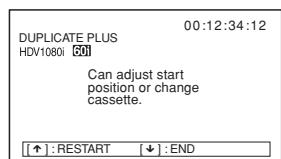
ご注意

- プレーヤー側のテープのローディングが終了してからデュプリケートを開始してください。
- デュプリケートは、iLINKの通信が確立してから開始されます。このため記録内容の頭の部分が一部欠けます。デュプリケートを開始する少し前の位置から再生を始めてください。
- プレーヤーにオートリピート機能などがあるときは、それらの機能をOFFにしてください。また、自動巻き戻し機能があるときは、それらの機能をONにしてください。
- テープの頭の部分では、デュプリケートできないことがあります。プレーヤー側を画像のある部分まで頭出ししてからデュプリケートを行ってください。
- テープの途中に無記録部分がある場合、無記録部分終了直後の記録内容の頭の部分が欠けることがあります。
- プレーヤー側のタイムコードが不連続な場合や正しく歩進しない場合、本機でのタイムコードの記録や表示がずれることがあります。

デュプリケートを途中で中止するには

- 1** 本体のSTOPボタンを押し、デュプリケートを一時停止する。

一時停止中は、以下の選択画面が表示されます。



- 2** ↓ボタンを押す。

デュプリケートを終了します。

デュプリケート(同一タイムコードのワークテープ作成)

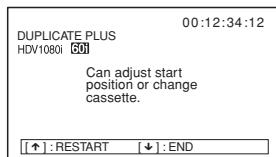
複数のカセットから継続してデュプリケートする

デュプリケートの一時停止中に、プレーヤー側のテープを交換することができます。したがって、複数のテープから1つのテープに継続してデュプリケートすることができます。

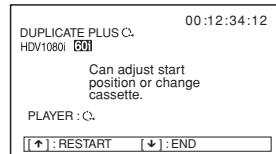
テープを交換するには

- 1 プレーヤー側のテープエンド時、または本機のSTOPボタンを押し、デュプリケートの一時停止状態を確認する。

一時停止中は、選択画面が表示されます。



- 2 プレーヤー側のテープを取り出し、別のテープを入れる。



[AUTO REW]が[ON]に設定されているとき、REWが表示されます。

この際にレコーダー側のテープを取り出し、別のテープと交換することもできます。

- 3 ⇧ボタンを押す。

デュプリケートが再開されます。

[AUTO REW]が[ON]に設定されている場合、交換されたテープは自動巻き戻しします。

ご注意

- カセット交換した場合、つなぎ目の頭の部分が一部欠けることがあります。
- デュプリケート一時停止して、再開する場合、再開直後の記録内容の頭の部分が欠けることがあります。

デュプリケート中に無記録部分を検出したときは

本機は、デュプリケート中に、プレーヤー側のテープに無記録部分を検出した場合、無記録部分を自動的にスキップします。

無記録部分を検出したときのプレーヤー／レコーダー(本機)の動作は以下のようになります。

プレーヤーの検出状態	プレーヤー／レコーダー(本機)の動作
無記録部分を検出すると	プレーヤー：再生を続ける レコーダー：記録を続ける
無記録部分を検出してから一定時間たつと	プレーヤー：再生を続け、さらに一定時間たつと、早送り再生で進む レコーダー：停止する
次の記録部分を検出すると	プレーヤー：無記録部分が終わる直前の位置まで、約2倍速で戻る レコーダー：停止を続ける
無記録部分が終わる直前の位置に戻ると	プレーヤー：再生一時停止後、再生を開始する レコーダー：記録一時停止後、記録を開始する

以上の一連の動作を自動的に行うことにより、無記録部分を短くしてデュプリケートします。

ご注意

- プレーヤーの仕様により、一部の機種ではスキップ機能が働かないものがあります。
- 次の記録部分を検出してデュプリケート記録が再開された直後は、記録内容の頭の部分が欠けることがあります。
- 無記録部分にはさまれた記録部分の長さが1分未満のときは、この記録部分がデュプリケートされないことがあります。

デュプリケート時の警告表示

デュプリケート中に、LCDモニターおよびビデオ出力画面に中止／

警告NO.および警告メッセージが出ることがあります。

以下の表で内容をご確認のうえ、必要な操作を行ってください。

中止／警告 NO.	警告メッセージ	意味／対策
00	RECORDER: INPUT SELECT is not set to HDV/DV.	レコーダー側（本機）の INPUT SELECT スイッチが[HDV/DV]以外になっている。 → INPUT SELECT スイッチを[HDV/DV]にしてください。
01	i.LINK: Cable not connected.	i.LINKケーブルが正しく接続されていない。 →i.LINKケーブルを正しく接続してください。
02	i.LINK: Check i.LINK connection.	i.LINK接続を複数またはループ状に接続した。 →複数台とのi.LINK接続はできません。1対1接続してください。
03	i.LINK: Check i.LINK connection.	i.LINKケーブルを抜き差しした。 →i.LINKケーブルの接続を確認し、再度デュプリケートを実行してください。
10	PLAYER: Recording.	プレーヤー側が記録状態になっている。
11	PLAYER: No cassette	プレーヤー側にカセットが入っていない。
12	PLAYER: Cannot control.	プレーヤー側が制御不能になっている。
13	PLAYER: Cannot control.	プレーヤー側が制御を拒否している。
14	PLAYER: Cannot control.	プレーヤー側が無効の状態、またはレコーダー（本機）の要求と異なる状態になっている。
15	PLAYER: Cannot control.	プレーヤー側が不都合な状態になっている。
16	PLAYER: Cannot record due to copyright protection.	プレーヤー側のカセットが著作権保護のための信号が重畳されているカセットのため、デュプリケートを強制終了した。 →著作権保護のための信号が重畳されているカセットはデュプリケートできません。
17	PLAYER: Error detected.	プレーヤー側の異常を検出した。
18	PLAYER: Moisture	プレーヤー側が結露している。 →プレーヤーの取扱説明書に従って対処してください。
20	RECORDER: No cassette inserted.	レコーダー側にカセットが入っていない。
21	RECORDER: The tape is locked -check the tab.	レコーダー側のカセットの誤消去防止ツマミが誤消去防止状態になっている。 →カセットの誤消去防止ツマミを確認してください。
22	RECORDER: Reinsert the cassette.	レコーダー側の異常を検出した。 →カセットを入れ直してください。
23	RECORDER: Re-attach the power source.	レコーダー側の異常を検出した。 →電源コードを一度抜いてください。
24	RECORDER: Condensation. Cannot open. Try later.	レコーダー（本機）がカセットを入れた状態で結露している。 →カセットを取り出してから、本機の電源を入れたまま、1時間以上待ってください。
25	RECORDER: Moisture condensation. Turn off for 1H.	レコーダー（本機）がカセットを入れていない状態で結露している。 →本機の電源を入れたまま、1時間以上放置してください。
26	RECORDER: Dirty video head. Use a cleaning cassette.	レコーダー（本機）のビデオヘッドが汚れて目づまりしている。 →付属のクリーニングカセットを使って、ヘッドをクリーニングしてください（86ページ）。

ご注意

上記以外の警告メッセージが出た場合は、ソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店にご連絡ください。

音声ダビング

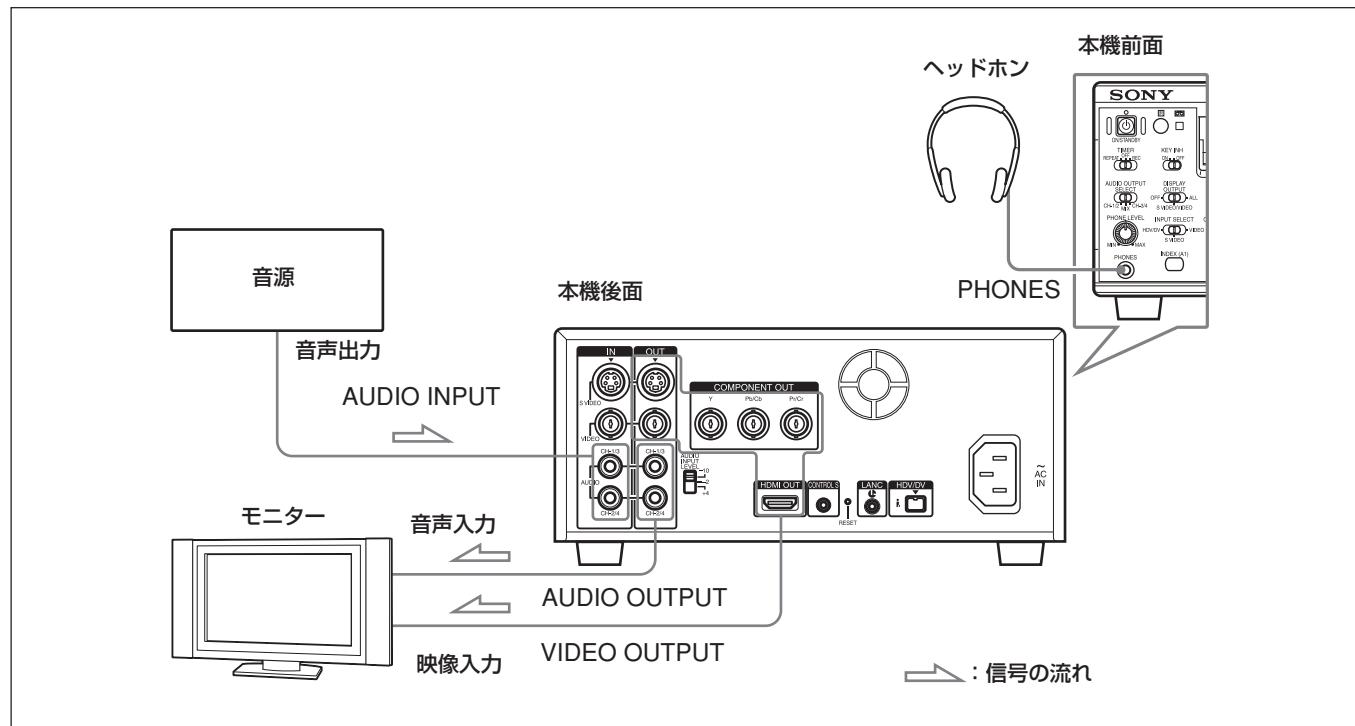
記録済みのテープに後から音声だけを録音することができます(アフレコ)。

ご注意

- 音声ダビングは、DVCAMフォーマットで記録済みの、オーディオモードが32 kHz (4チャンネル、12ビット) のテープにのみ実行できます。オーディオモードが48 kHz (2チャンネル、16ビット) のテープには実行できません。テープのオーディオモードが32 kHz であれば、[AUDIO SET]メニューの[AUDIO MODE]の設定にかかわらず音声ダビングを実行できます。
◆ [AUDIO MODE]について詳しくは、「AUDIO SET」メニュー (68ページ)をご覧ください。
- 音声ダビングは、チャンネル3/4同時でのみ行えます。チャンネル1/2に音声ダビングはできません。

外部機器の接続

音声ダビング時の基本的な接続例を以下に示します。



HDMI OUT端子をご使用の場合は、モニターへの音声信号の接続は不要です。

音声ダビングを実行する

- 1** 本機のAUDIO INPUT端子と音源をピンケーブル（別売）で接続する。
- 2** INPUT SELECTスイッチを[HDV/DV]以外に設定する。
- 3** AUDIO INPUT LEVELスイッチを切り換えて、オーディオ入力信号のレベルを、[-10]、[-2]、[+4]から選ぶ。
- 4** 本機のテープを再生する。
- 5** 音声ダビングを始める位置でPAUSEボタンを押して、本機を再生一時停止状態にする。
- 6** AUDIO DUBボタンを押したままPLAYボタンを押して、本機を音声ダビング一時停止状態にする。
- 7** AUDIO INPUTスイッチで、録音レベルの調整方法を切り換える。
- 8** AUDIO REC LEVELつまみで、録音レベルを調整する。

手順**7**で、[MANU]を選んだ場合のみ調整します。ステータスチェックのオーディオレベルメーターを見ながら、AUDIO REC LEVELつまみを回して、最大音量のときにレベルが0 dBを越えないように調整します。0 dBを越えると、音がひずみます。

- 9** PAUSEボタンを押す。

本機のPAUSEインジケーターが消灯し、音声ダビングが始まります。

音声ダビングを一時停止するには

PAUSEボタンを押します。

もう一度PAUSEボタンを押すと、音声ダビングを再開します。

音声ダビングを終了するには

STOPボタンを押します。

希望の音声をモニターするには

AUDIO OUTPUT SELECTスイッチを以下のように設定します。

CH-1/2：テープ上の、チャンネル1/2の音声を聞く。

CH-3/4：チャンネル3/4にダビングする音声を聞く。

MIX：テープ上の音声とダビングしている音声の合成音を聞く。

◆ 音声ダビング中のオーディオレベル表示については、27ページをご覧ください。

ご注意

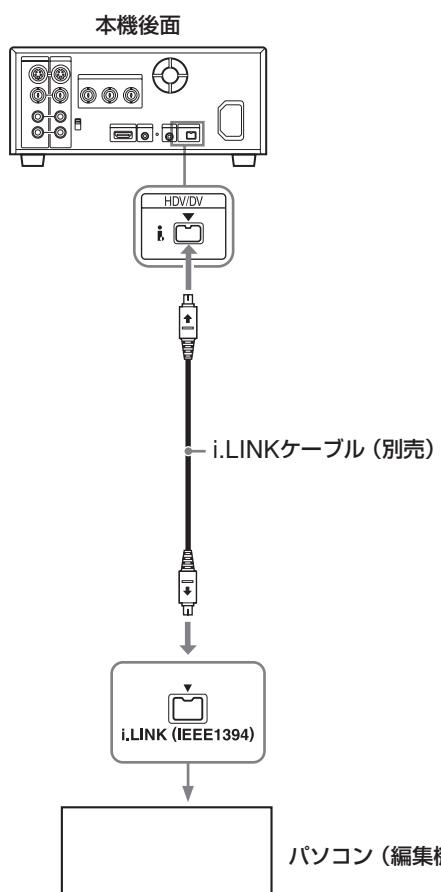
- 音声ダビングを実行中に、テープ上の音声をモニターすることができますが、再生と録音の間で時間の遅れがあるため、音声ダビング後のテープを再生したときには、音声ダビングを実行中にモニターしたときと比べて、ダビングした音声が遅れて聞こえる場合があります。
- 音声ダビングは無記録部分には実行できません。

編集する（パソコンと接続する）

本機のHDV/DV端子を使ってパソコン（編集機）と接続することにより、編集システムを構築することができます。

- ・編集機との接続のしかたについては、編集機に付属の取扱説明書をご覧ください。また、接続時は使用する編集ソフトウェアの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- ・編集機能は編集ソフトウェアに依存します。実際の編集方法については、使用する編集ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

接続する



ご注意

- ・i.LINKケーブルは、先にパソコンとつないでから本機とつないでください。先に本機につなぐと、静電気の発生などにより、本機の故障の原因となります。
- ・i.LINK端子を持つパソコンと本機をi.LINKケーブルで接続する場合、i.LINKケーブルを抜き差しするときは、あらかじめパソコンの電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。パソコンの電源プラグを差したままi.LINKケーブルを抜き差しすると、パソコンのi.LINK端子から出力している高圧電流(8~40V)が本機に流れ込み、本機の故障の原因となる恐れがあります。
- ・i.LINKケーブルをつなぐ前に[IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]と[i.LINK SET]の設定をしてください。接続してから設定すると、パソコン(編集機)が本機を正しく認識しなかったり、ハングアップしたりすることがあります。
- ・パソコン(編集機)が扱えないフォーマット信号を入出力すると、パソコン(編集機)が本機を正しく認識しなかったり、ハングアップしたりすることがあります。
- ・本機がEEモードで、入力した信号をHDV/DV端子からパソコンに出力する場合、INPUT SELECTスイッチで選択されたSVIDEO信号またはVIDEO信号が出力されます。本機の再生信号のみをHDV/DV端子から出力する場合は、INPUT SELECTスイッチをHDV/DVに切り換えてください。

準備する

テープの画像をパソコン(編集機)に取り込むには

- HDVで記録したテープをHDVで編集機に取り込むときは、[HDV/DV SEL]を[HDV]に設定して(62ページ)、[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]→[HDV→DV CONV]を[OFF]にしてください(63ページ)。
- DVCAM(DV)で記録したテープをDVCAM(DV)で編集機に取り込むときは、[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]→[HDV→DV CONV]を[OFF]に設定してください(63ページ)。
- HDVで記録したテープをDVCAM(DV)で編集機に取り込むときは、[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]→[HDV→DV CONV]を[DVCAM]、または[DV SP]にし、[DOWN CONVERT]を設定してください(63ページ)。

ご注意

- 使用する編集機のソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。ご使用の前に、必ず本機が対応機種として推奨されていることをご確認ください。
 - DVCAM(DV)で記録したテープをアップコンバートしてHDVで編集機に取り込むことはできません。
 - [HDV/DV SEL]を[AUTO]に設定していると、HDVとDVCAM(DV)が混在記録されたテープをお使いになった場合、パソコン(編集機)が本機を正しく認識しなかったり、編集が正しく行われない場合があります。
 - 編集時にHDVで記録されたテープを変速再生する場合、出力映像には制限事項があります。「変速再生する」の「HDVフォーマットの場合」の表をご確認ください(35ページ)。
 - HDVをDVCAMやDVにダウンコンバートしたテープを使う場合、従来のDVCAM/DV用の編集ソフトウェアによってはタイムコードに対するサーチができなかったり、エラーになったりすることがあります。
 - i.LINK端子から入力したHDV信号を記録すると、つなぎ目が約1秒間の静止画になります。編集についてはデジタルノンリニア編集を推奨します。
 - ご使用になる編集ソフトウェアが、画像・音声と同時にタイムコードも出力する機能を備えている場合、出力されるタイムコードを記録するには本機の[TC/UB SET]メニューの[HDV/DV IN TC]を[EXTERNAL]に設定する必要があります。
- ◆TC/UB SETメニューについて詳しくは、「TC/UB SET」メニュー(71ページ)をご覧ください。

- [TC/UB SET]メニューの[HDV/DV IN TC]を[EXTERNAL]に設定して、i.HDV/DV端子で接続している外部機器からタイムコードも入力した場合、入力されるタイムコードが不連続だったり正しく歩進しなかったりすると、入力されるタイムコードとテープに記録されるタイムコードや本機のタイムコード表示がずれる場合があります。また、このようにして記録された、タイムコードが不連続なテープを用いた場合、組み合わせる機器によっては編集やサーチ動作が正しく行われない場合があります。
- 編集機の周辺機器の接続のしかたについては、編集機に付属の取扱説明書をご覧ください。また、接続時はご使用になる編集ソフトウェアの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 編集機能は編集ソフトウェアに依存します。実際の編集方法については、ご使用になる編集ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- 本機には、HDVをDVCAM(DV)にダウンコンバートしてi.HDV/DV端子に出力する機能が搭載されています。編集ソフトウェアによっては、このダウンコンバートしたDV信号では正しく編集できないことがあります。その場合は、以下の設定に従ってテープをダビングし、編集時はこのテープを使用してください。

DVCAMに対応したテープを作成する

[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]→[HDV→DV CONV]を[DVCAM]に設定し、[DOWN CONVERT]を設定して、DVCAMフォーマットに対応したレコーダーでDVCAM記録を行ってください。

民生用DVに対応したテープを作成する

[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]→[HDV→DV CONV]を[DV SP]に設定し、[DOWN CONVERT]を設定して、DVフォーマットに対応したレコーダーでDV記録を行ってください。

パソコン(編集機)の画像を本機に取り込むには

- HDVで取り込むときは、[HDV/DV SEL]を[HDV]にし(62ページ)、[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]→[HDV→DV CONV]を[OFF]に設定してください(63ページ)。
- DVCAM(DV)で取り込むときは、[HDV/DV SEL]を[DV]に設定してください(62ページ)。また、記録したいフォーマットに従って、「REC MODE」で「DVCAM」または「DV SP」を選択してください(62ページ)。編集ソフトウェアに合わせて、[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]→[HDV→DV CONV]を[DVCAM]あるいは[DV SP]に設定してください(63ページ)。

メニューで行う調整と設定

メニューの操作

本機では、メニュー画面で各種の設定を行います。操作を始める前に、[OTHERS]メニューの[CLOCK SET]で本機の内蔵時計を合わせてください。時計の設定以外は工場出荷時の設定で使えますが、必要に応じて設定を変えてください。

ご注意

- ・メニューの操作中に電源コードを抜かないでください。メニューの設定が変更されることがあります。
- ・本機の内蔵バックアップ電池が消耗した場合は、内蔵時計の設定、[60i/50i SEL]の設定および[FREE RUN]のタイムコードは初期化されます。内蔵バックアップ電池は、約24時間の通電でフル充電され、約3か月間保持されます。

メニューの設定を変える

- 1 MENUボタンを押す。
- 2 ↑/↓ボタンを押してアイコンを選び、EXECボタンを押して決定する。
- 3 ↑/↓ボタンを押してサブメニューを選び、EXECボタンを押しで決定する。
- 4 ↑/↓ボタンを押して設定を変更する。
- 5 EXECボタンを押してサブメニューに戻る。
- 6 必要な変更が終了するまで手順1～5を繰り返す。

↑/↓ボタンを押して[◀RETURN]を選ぶと、一つ前の階層に戻ります。

メニューの項目の移動、調整項目に◀/▶を使用することもできます。

メニューの構成

本機のメニューは、以下のようにメニューとサブメニューから構成されています。

IN/OUT REC	HDV/DV SEL (62ページ) REC MODE (62ページ) VIDEO OUT (63ページ) i.LINK SET (63ページ) CROP ADJUST (64ページ) CROP MARKER (64ページ) COLOR BAR (64ページ) BARS TYPE (64ページ) DV BARS (64ページ) EE/PB SEL (65ページ) 480i LEVEL (65ページ)
DISPLAY SET	COUNTER SET (66ページ) MARKER BURN (66ページ) ALLSCAN MODE (66ページ) DATA CODE (66ページ) LETTER SIZE (66ページ) DATE DISPLAY (66ページ) TIME DISPLAY (67ページ) REMAINING (67ページ) LCD BRIGHT (67ページ) LCD COLOR (67ページ) LCD BLACK (67ページ)
AUDIO SET	AUDIO MODE (68ページ) AUDIO MONI (68ページ) AUDIO LOCK (68ページ) JOG AUDIO (68ページ)
VTR SET	DUPLICATE PLUS (69ページ) CUSTOM REPEAT (69ページ) AUTO INDEX (69ページ) STILL PICT (69ページ) FF/REW SPEED (70ページ) STILL TIME (70ページ) FROM STILL (70ページ) FROM REC P (70ページ)
TC/UB SET	TC PRESET (71ページ) UB PRESET (71ページ) HDV/DV IN TC (71ページ) TC RUN (71ページ) TC MAKE (72ページ) TC FORMAT (72ページ) *
OTHERS	ASSIGN BTN (73ページ) LANGUAGE (73ページ) COMMANDER (73ページ) PB YNR (74ページ) PB CNR (74ページ) BEEP (74ページ) CLOCK SET (74ページ) HOURS METER (74ページ) AC ON MODE (74ページ) AUTO STANDBY (74ページ) 60i/50i SEL (75ページ) INITIALIZE (75ページ)

*60i 方式使用時のみ設定可能

メニューの項目

「設定」の [] 部分は工場出荷時の設定を表します。

IN/OUT REC

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定
➡ IN/OUT REC	HDV/DV SEL (33、41、50、58ページ)	<p>通常は[AUTO]にしてください。テープ再生時に出力フォーマットを限定したいときや、HDV/DV端子から入力／出力する信号を限定したいときに選びます。LCDモニターやアナログ出力の信号にも影響します。</p> <p>[AUTO]: テープ再生時、HDVの信号とDVCAM (DV) の信号を自動で切り換えて信号を出力する。 iLINK接続時、HDVの信号とDVCAM (DV) の信号を自動で切り換えて、HDV/DV端子から入出力し記録／再生する。</p> <p>HDV: テープ再生時、HDVで記録された部分のみ信号を出力する。 iLINK接続時、HDVの信号のみをHDV/DV端子から入出力し記録／再生する。 また、HDV対応のパソコンなどとiLINK接続するときに選ぶ。(41、50ページ)</p> <p>DV: テープ再生時、DVCAM (DV) で記録された部分のみ信号を出力する。 iLINK接続時、DVCAM (DV) の信号のみをHDV/DV端子から入出力し記録／再生する。 また、DV対応のパソコンなどとiLINK接続するときに選ぶ。(41、50ページ)</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定を変える前に、必ずiLINKケーブルを抜くか、接続機器の電源をオフにしてください。つないだまま設定を変えると、ビデオ機器が信号を正しく認識できないことがあります。 [AUTO]を選ぶと、HDVとDVCAM (DV) の信号が切り換わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。 iLINKへの出力、および記録されるテープフォーマットについて詳しくは、93、94ページをご覧ください。
▣ REC MODE		<p>記録フォーマットをDVCAMまたはDV (SPモードのみ) に切り替えます。</p> <p>[DVCAM]: DVCAMフォーマットで記録する。 DV SP: DVフォーマット (SPモード) で記録する。</p> <p>ご注意</p> <p>記録中に設定を変更することはできません。</p>

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定
◀▶ IN/OUT REC	VIDEO OUT	<p>映像出力端子の設定を切り替えます。</p> <p>HDMI/CMPNT</p> <p>HDMI OUT端子、COMPONENT OUT端子から出力されるフォーマットを切り替えます。</p> <p>[60i/50i SEL]の設定を[60i]に設定しているときは、[480i]、[480p/480i]、[1080i/480i]、[720p/480i]から選びます。</p> <p>[60i/50i SEL]の設定を[50i]に設定しているときは、[576i]、[576p/576i]、[1080i/576i]、[720p/576i]から選びます。</p> <p>DOWN CONVERT</p> <p>HDV再生時や HDV/DV端子にHDV信号を入力しているときのHDMI OUT端子、アナログ端子からダウンコンバート出力するときの設定をします。</p> <p>SQUEEZE: 両面の天地を生かし、水平方向に圧縮して出力する。</p> <p>LETTER BOX: 垂直方向を圧縮することにより、縦横比を損なうことなく出力する。</p> <p>EDGE CROP: 両面の天地を生かし、左右を切り捨てる方法で出力する。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> 著作権保護のための信号が記録されているHDVフォーマットのテープを再生した場合や著作権保護のための信号を含むHDV信号が HDV/DV端子に入力された場合は、このメニューの設定にかかわらずCOMPONENT OUT端子は480iもしくは576iで映像を出力する場合があります。 再生しているテープや HDV/DV端子に入力しているフォーマットにかかわらず、本メニューで表示される選択項目は[OTHERS]メニューの[60i/50i SEL]の設定に従ったものが表示されます。 480pおよび576pでCOMPONENT OUT端子に出力する場合、本機はワイド識別信号を重畠しません。本機が出力する映像のダウンコンバートの形式に従って、モニター側の設定を行ってください。 DVCAM (DV) フォーマットテープの再生時、NTSC/PALフォーマットのEE画像の表示時は、[HDMI/CMPNT]の設定にかかわらず、COMPONENT OUT端子からは480iもしくは576iで出力されます。
iLINK SET (33、41ページ)		<p>[HDV/DV SEL]が[AUTO]または[HDV]に設定のとき、下記の設定が有効になります。</p> <p>HDV→DV CONV</p> <p>OFF: ダウンコンバートしない。</p> <p>DVCAM : DVCAM フォーマットにダウンコンバートする。</p> <p>DV SP : DV SP フォーマットにダウンコンバートする。</p> <p>DOWN CONVERT</p> <p>HDV再生時に[HDV→DVCONV]が[DVCAM]または[DV SP]のときに有効です。</p> <p>SQUEEZE: 両面の天地をいかし、水平方向に圧縮して出力する。</p> <p>EDGE CROP: 両面の天地をいかし、左右を切り捨てる方法で出力する。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> [DVCAM]を選択した場合、以下の制限事項があります。 <ul style="list-style-type: none"> – テープ上の絶対番地 (ATN : Absolute Track Number) はDVCAMフォーマットに換算した値を通常再生スピード（1倍速）で再生中、または内蔵カラーパーをHDVフォーマットで記録しているときのみ出力します。それ以外の変速再生中は、HDVフォーマットで記録されているテープ上の値を出力します。 – 通常再生スピード（1倍速）で再生中に無記録部分が存在した場合、その部分をDVCAMに換算した絶対番地と見積もって走行します。 – DSR-25/45/50などに搭載しているデュプリケート機能を使ってテープをダビングする場合は [DVCAM]を選択してください。 – [DVCAM]に設定し、デュプリケート後にできたテープとオリジナルのHDVフォーマットで記録されたテープの絶対番地は一致しないので、ご注意ください。（タイムコードの数値は正しくコピーされま [DOWN CONVERT]の設定を変更すると、COMPONENT OUT端子、S VIDEO OUT端子、VIDEO OUT端子の映像信号が一瞬乱れる場合があります。 設定を変える前に、必ずiLINKケーブルを抜いてください。つないだまま設定を変えると、ビデオ機器が信号を正しく認識できないことがあります。 [EDGE CROP]を選択した場合、S VIDEO、VIDEO出力に制限があります。詳しくは81ページをご覧ください。

(続く)

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定
➡ IN/OUT REC	CROP ADJUST (39ページ)	16:9から4:3のアスペクト比へエッジクロップでダウンコンバートするときの位置を調整します。 本機の➡/⬅ボタンでエッジクロップマーカーを左右に移動させ、EXECボタンを押して決定する。 (↑/↓ボタンも使用できます。)
	CROP MARKER (39ページ)	エッジクロップマーカー表示の有無を切り替えます。 <input checked="" type="checkbox"/> OFF : エッジクロップマーカーを表示しない。 <input type="checkbox"/> ON : エッジクロップマーカーを表示する。 <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • [IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]または[iLINK SET]が[EDGE CROP]に設定されているときに有効になります。 • エッジクロップマーカーはHDVフォーマットのテープ再生時とHDV/DV端子にHDVフォーマットの信号を入力しているときに表示されます。
COLOR BAR		カラーバーの表示／非表示を切り替えます。また、音声トーン信号(1 kHz 60i時：フルピットー20 dB / 50i時：フルピットー18 dB)の出力を切り替えます。 <input checked="" type="checkbox"/> OFF : カラーバーを表示しない。トーン信号を出力しない。 <input type="checkbox"/> ON : カラーバーを表示する。トーン信号を出力しない。 <input type="checkbox"/> ON [TONE] : カラーバーを表示する。トーン信号を出力する。 <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • カラーバーとトーン信号はHDMI OUT端子、HDV/DV端子とアナログ端子に出力されます。 • 再生時、カラーバーとトーン信号は出力できません。 • iLINKに出力されるカラーバー／トーン信号とテープに記録されるカラーバー／トーン信号のフォーマットは[HDV/DV SEL]と[REC MODE]の設定に従います。 <ul style="list-style-type: none"> - [HDV/DV SEL]が[AUTO]のときは、文字情報表示のモニター表示部「フォーマット表示①(25ページ)」で表示されるフォーマットで出力・記録されます。 - [HDV/DV SEL]が[HDV]のときは、HDVフォーマットで出力・記録されます。 - [HDV/DV SEL]が[DV]で、[REC MODE]が[DVCAM]のときは、DVCAMフォーマットで出力・記録されます。 - [HDV/DV SEL]が[DV]で、[REC MODE]が[DV SP]のときは、DV (SP)フォーマットで出力・記録されます。 • [COLOR BAR]の設定は、本機の電源を入れなおすと自動的に[OFF]になります。
BARS TYPE		カラーバーの種類を切り替えます。 <input checked="" type="checkbox"/> TYPE 1 : カラーバーTYPE 1を出力する。 <input type="checkbox"/> TYPE 2 : カラーバーTYPE 2を出力する。 <input type="checkbox"/> TYPE 3 : カラーバーTYPE 3を出力する。 <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本機で出力するカラーバーはNTSC (60i)時、「セットアップ／無し (0 IRE)」信号です。 • 本機のアスペクト比が4:3の場合でも、カラーバーは16:9のものを内部で発生します。HDVフォーマット時、エッジクロップ(4:3)で出力する場合は[TYPE 1]を選択してください。 • 本機のカラーバーはHDV(1080i)の解像度で発生したものです。HDV(1080i)以外の解像度で出力する場合、このカラーバーを演算で縮小して出力します。このため、カラーバーの色の境目などで若干の乱れがあります。 • 記録中に種類を変えることはできません。
DV BARS		[BARS TYPE]で設定されたカラーバーのアスペクト比を切り替えます。(DVCAM/DV(SP)のみ)。 <input checked="" type="checkbox"/> 16:9 : カラーバーのアスペクト比を16:9にする。 <input type="checkbox"/> 4:3 : カラーバーのアスペクト比を4:3にする。 <p>ご注意</p> <p>記録中に設定を変更することはできません。</p>

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定																	
↔ IN/OUT REC	EE/PB SEL (15ページ)	<p>停止、早送り、巻戻し時の設定をします。</p> <p>EE: EE画とEE音を出力する。 PB: 映像と音声をミュートする。</p> <p>ご注意</p> <p>[PB]に設定した場合、停止状態のときにREC、DUPLICATE PLUS、AUDIO DUBの各ボタンを単独で押すと、本機の出力は以下のようになります。（カセットが記録禁止になっている場合を除く）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>映像</th><th>音声</th><th>タイムコード</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>REC ボタン</td><td>入力している映像のEE画</td><td>入力している音声のEE音 (CH-1/2)^{a)}</td><td rowspan="4">(49ページを参照)</td></tr> <tr> <td>DUPLICATE PLUS ボタン^{b)}</td><td>HDV/DV端子に入力されている映像</td><td>HDV/DV端子に入力されている音声</td></tr> <tr> <td>AUDIO DUB ボタン</td><td>ミュート画（黒）</td><td>入力している音声のEE音 (CH-3/4)^{a)}</td></tr> <tr> <td>ボタンを押していないとき</td><td>ミュート画（黒）</td><td>ミュート（消音）</td></tr> </tbody> </table> <p>a) AUDIO OUTPUT SELECT スイッチの設定による。 b) INPUT SELECT スイッチをHDV/DVに設定しているとき。</p>		映像	音声	タイムコード	REC ボタン	入力している映像のEE画	入力している音声のEE音 (CH-1/2) ^{a)}	(49ページを参照)	DUPLICATE PLUS ボタン ^{b)}	HDV/DV端子に入力されている映像	HDV/DV端子に入力されている音声	AUDIO DUB ボタン	ミュート画（黒）	入力している音声のEE音 (CH-3/4) ^{a)}	ボタンを押していないとき	ミュート画（黒）	ミュート（消音）
	映像	音声	タイムコード																
REC ボタン	入力している映像のEE画	入力している音声のEE音 (CH-1/2) ^{a)}	(49ページを参照)																
DUPLICATE PLUS ボタン ^{b)}	HDV/DV端子に入力されている映像	HDV/DV端子に入力されている音声																	
AUDIO DUB ボタン	ミュート画（黒）	入力している音声のEE音 (CH-3/4) ^{a)}																	
ボタンを押していないとき	ミュート画（黒）	ミュート（消音）																	
480i LEVEL		<p>コンポーネントの出力が[480i]の場合の出力レベルを切り換えます。</p> <p>BETACAM: COMPONENT OUT端子をBETACAMレベルにする。 SMPTE: COMPONENT OUT端子をSMPTEレベルにする。</p> <p>ご注意</p> <p>詳しくは、本機の仕様にあるCOMPONENT OUT端子（97ページ）をご覧ください。</p>																	

DISPLAY SET

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定
[■] DISPLAY SET	COUNTER SET	<p>タイムカウンター表示画面の設定を切り替えます。</p> <p>DISPLAY</p> <p>[ON]: タイムカウンター表示を有効にする。 [OFF]: タイムカウンター表示を無効にする。</p> <p>SIZE</p> <p>[LARGE]: 大きいタイムカウンターを表示する。 [SMALL]: 小さいタイムカウンターを表示する。</p> <p>COLOR</p> <p>[TYPE1]: タイムカウンターをタイプ1の色で表示する。 [TYPE2]: タイムカウンターをタイプ2の色で表示する。 [TYPE3]: タイムカウンターをタイプ3の色で表示する。 [TYPE4]: タイムカウンターをタイプ4の色で表示する。</p>
MARKER BURN (39ページ)		<p>MARKER BURNの出力の有無を選択します。</p> <p>[OFF]: MARKER BURNを出力しない。 [ON]: MARKER BURNを出力する。</p> <p>ご注意 MARKER BURNを出力するとき、制限があります。詳しくは39ページをご覧ください。</p>
ALLSCAN MODE		<p>LCDパネルの映像を縮小し、モニターなどでは確認できない画像の周辺部を確認することができます。</p> <p>[OFF]: ALLSCAN MODEを無効にする。 [ON]: ALLSCAN MODEを有効にする。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • ALLSCAN MODEはHDVフォーマットのみ有効です。DVCAFMフォーマット、DVフォーマット(SPモード)再生時は無効になります。 • フォーマットが混在している場合、フォーマットの切り替わり時に映像が乱れます。 • [ON]に設定しているとき、COMPONENT OUTの出力値が480i、576i、480p/480i、576p/576iに設定されている場合、S VIDEO OUT端子およびVIDEO OUT端子の出力はレターボックスになります。詳しくは81ページの表をご覧ください。 • ALLSCAN MODEの設定は電源を入れなおすと[OFF]になります。 • [DISPLAY SET]メニューの[MARKER BURN]と[ALLSCAN MODE]を同時に[ON]に設定した場合、LCDモニターのマーカーは正しい位置に表示されませんが、故障ではありません。各ビデオ出力端子には正しく出力されます。
DATA CODE (35ページ)		<p>アナログビデオ出力へのデータコードの表示／非表示を切り替えます。</p> <p>[OFF]: データコードを表示しない。 [DATE]: 日付データを表示する。 [CAMERA DATA]: カメラデータを表示する。</p>
LETTER SIZE		<p>メニュー画面で、カーソルのある行の文字サイズを切り替えます。</p> <p>[NORMAL]: 通常の大きさの文字で表示する。 [2×]: 縦倍角文字で表示する。</p>
DATE DISPLAY		<p>データコード表示での日付の表示形式を切り替えます。</p> <p>[Y/M/D]: 年/月/日の順番に表示する。 [M/D/Y]: 月/日/年の順番に表示する。 [D/M/Y]: 日/月/年の順番に表示する。</p> <p>ご注意</p> <p>[OTHERS]メニューの[LANGUAGE]をENGLISHまたはENG[SIMP]に設定した場合、[DATE DISPLAY]はM/D/Yに設定すると、月は英語3文字表示されます(例:JAN)。</p> <p>[CLOCK SET](74ページ)もご覧ください。</p>

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定
■ DISPLAY SET	TIME DISPLAY	データコード表示での時刻の表示形式を切り替えます。 <input checked="" type="checkbox"/> 12H : 12時間表示にする。 <input type="checkbox"/> 24H : 24時間表示にする。
	■ REMAINING (26ページ)	<input checked="" type="checkbox"/> AUTO : 以下のときに、テープ残量を8秒間表示する。 - カセットが入った状態で電源を入れ、テープ残量が確定したとき - ▶PLAYボタンを押したとき 以下のときに、テープ残量を常に表示する。 - 早送り、巻き戻し中 - 早送り再生、巻き戻し再生中 <input type="checkbox"/> ON : テープの残量を常に表示する。
	LCD BRIGHT	LCDモニターの明るさを調整します。 ⇧ / ⇩ボタンを押してバーを動かして調整し、EXECボタンを押して決定する。(工場出荷時の値を指すマークは、バーの下に表示されます。)
	LCD COLOR	LCDモニターの色の濃さを調整します。 ⇧ / ⇩ボタンを押してバーを動かして調整し、EXECボタンを押して決定する。(工場出荷時の値を指すマークは、バーの下に表示されます。)
	LCD BLACK	LCDパネルでの映像をミュートし、文字情報のみを表示します。 <input checked="" type="checkbox"/> OFF : 映像を表示する。 <input type="checkbox"/> ON : 映像をミュートする。 ご注意 [ON]に設定しても、本機背面の各端子から出力される映像はミュートされません。

AUDIO SET

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定
♪♪ AUDIO SET (27ページ)	AUDIO MODE (27ページ)	<p>オーディオモードを切り替えます。</p> <p>[FS32K]: オーディオモードを4チャンネルモード（12ビットモード）にする。 FS48K: オーディオモードを2チャンネルモード（16ビットモード）にする。（オーディオ領域すべてを使って音声を記録するため高音質記録が可能です。）</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • iLINK入力時はこの設定にかかわらず、入力された信号と同じオーディオモードになります。 • HDV記録時は、自動的に[FS48K]で記録されます。 • 記録中に設定を変更することはできません。 • オーディオモードを切り換えた瞬間にはノイズが出ることがあります。 • DVCAMでアフレコをするときは、[FS32K]に設定します。
	AUDIO MONI (27ページ)	<p>ヘッドホン端子とHDMI OUT端子に出力する音声を設定します。</p> <p>[CH1,CH2]: CH1、CH2の音声をそれぞれのチャンネルに出力する。 CH1: CH1の音声をチャンネル1/2に出力する。 CH2: CH2の音声をチャンネル1/2に出力する。</p> <p>ご注意</p> <p>AUDIO OUTPUT SELECTスイッチをCH3/4に設定しているときは、「CH1」は「CH3」に、「CH2」は「CH4」に相当します。MIXに設定しているときは、「CH1」は「CH1/3の合成音」に、「CH2」は「CH2/4の合成音」に相当します。</p>
	AUDIO LOCK	<p>[UNLOCK MODE]: オーディオとビデオのサンプリングロックをそれぞれ独立して記録する。 民生用のDVフォーマットでは、アンロックモードが採用されています。</p> <p>LOCK MODE: オーディオとビデオのサンプリングロックを同期化して記録する。 オーディオ編集時のデジタル処理やスムーズなつなぎ目を作るときに有効です。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • DV (SPモード) のときのみ設定できます。 • HDV/DVCAMのときは、自動的に[LOCK MODE]に固定されます。 • iLINK入力時はこの設定にかかわらず、入力された信号と同じ設定になります。
	JOG AUDIO (36ページ)	<p>变速再生時の音声出力の有無を切り替えます（DVCAM/DV(SP)のみ）。</p> <p>[OFF]: 变速再生時に音声を出さない。 ON: 变速再生時に音声を出す。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • HDVフォーマットで記録されたテープを再生する場合は、变速再生時に音声を出することはできません。 • [ON]に設定しても、記録フォーマットの違い（DVCAM/DV）やテープの状態などによっては、音声が出なかったり途切れたりすることがあります。

VTR SET

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定
VTR SET	DUPLICATE PLUS (52ページ)	<p>デュプリケート(複製)時のフォーマット選択と自動巻き戻しの有無を切り替えます。</p> <p>FORMAT SEL</p> <p>[ALL]: 全てのフォーマットをデュプリケートする。 HDV1080i: HDV1080iフォーマットのみデュプリケートする。 DVCAM: DVCAMフォーマットのみデュプリケートする。 DV SP: DVフォーマット(SPモード)のみデュプリケートする。</p> <p>AUTO REW</p> <p>[ON]: プレーヤー、レコーダーともに、自動的に巻き戻してからデュプリケートを開始する。複数のカセットから継続してデュプリケートする場合は、カセット交換した側を自動的に巻き戻してからデュプリケートを再開します。 OFF: 任意の位置からデュプリケートを開始する。</p> <p>ご注意 デュプリケート中は、この項目は設定できません。</p>
CUSTOM REPEAT (36ページ)		<p>オートリピートのリピート回数、リピート間隔、リピート開始時刻を設定します。</p> <p>REPEAT TIMES</p> <p>ON/OFF: リピート回数設定の有無を選択する。 TIMES: リピート回数を設定する。 <input type="button" value="↑/↓"/>ボタンを押してリピート回数値を変更し、EXECボタンを押して決定します。</p> <p>REPEAT CYCLE</p> <p>ON/OFF: リピート間隔設定の有無を選択する。 CYCLE: リピート間隔を設定する。 <input type="button" value="↑/↓"/>ボタンを押してリピート間隔の数値を変更し、EXECボタンを押して決定します。</p> <p>START TIME</p> <p>ON/OFF: 開始時刻設定の有無を選択する。 TIME: 開始時刻を設定する。 <input type="button" value="↑/↓"/>ボタンを押して、時、分の各数値を変更します。また、<input type="button" value="↔"/>ボタンを押して、時と分を切り替えます。EXECボタンを押して決定します。</p>
AUTO INDEX (43ページ)		<p>停止状態から記録を開始したときの、インデックス信号の自動打ち込みの設定を切り替えます。</p> <p>[ON]: 記録開始時にインデックス信号を自動的に打ち込む。 OFF: 記録開始時にインデックス信号を自動的に打ち込まない。</p>
STILL PICT		<p>静止画状態のときに表示する画像を切り替えます(DVCAM/DV(SP)のみ)。</p> <p>AUTO: 画像の動きに応じて最適化した画像を表示する。 FRAME: フレーム画像を表示する。 FIELD: フィールド画像を表示する。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • [FIELD]に設定した場合には、第2フィールドを表示します。 • HDVフォーマットで記録されたテープの場合は、常にフィールド画像が表示されます。

(続く)

メニューの操作

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定								
VTR SET	FF/REW SPEED (16ページ)	<p>早送り／巻戻し時の走行動作を切り替えます。</p> <p>FF/REW: 映像なしの最速スピードで走行する。 SHUTTLEMAX: 映像ありの最速スピードで走行する。</p> <p>DVCAM NTSC: 約14倍速 PAL: 約17倍速 HDV/DV (SP) 約24倍速</p>								
STILL TIME		<p>静止画状態からテープ保護モードに移るまでの時間を切り替えます。</p> <table> <tr> <td>[30 sec]:</td> <td>30秒</td> </tr> <tr> <td>1 min :</td> <td>1分</td> </tr> <tr> <td>2 min :</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>3 min :</td> <td>3分</td> </tr> </table> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生一時停止状態を長時間続けると、テープおよび本機のビデオヘッドが損傷を受けたり、ビデオヘッドが目づまりしたりすることがあります。特殊な場合を除き、なるべく短い時間を選択してください。特にミニDVカセットで、記録時間が60分を超えるものを使用する場合は、[30 SEC] もしくは[1 MIN]に設定してください。 設定変更後、最初の保護モードへの移行は、設定変更前の時間で行われます。2回目からの移行は設定変更後の時間で行われます。 	[30 sec]:	30秒	1 min :	1分	2 min :	2分	3 min :	3分
[30 sec]:	30秒									
1 min :	1分									
2 min :	2分									
3 min :	3分									
FROM STILL		<p>静止画状態から、[STILL TIME]で設定した時間が経過した後に移行するテープ保護モードを切り替えます。</p> <p>[STOP]: 停止する。 STEP FORWARD : 正方向に1フレーム送る。</p> <p>ご注意</p> <p>HDVフォーマットで記録されたテープの場合は、[STEP FORWARD]を選択すると数フレーム正方向に送られます。</p>								
FROM REC P		<p>記録一時停止してから3分間経過した後に移行するテープ保護モードを切り替えます。</p> <p>[STOP]: 停止する。 REC PAUSE : 記録一時停止状態のままにする。</p> <p>ご注意</p> <p>[REC PAUSE]を選択して、記録一時停止状態を長時間続けると、テープおよび本機のビデオヘッドが損傷を受けたり、ビデオヘッドが目づまりする場合があります。特殊な場合を除き、[STOP]を選択してください。特にミニDVカセットで、記録時間が60分を超えるものを使用する場合は、[STOP]に設定してください。</p>								

TC/UB SET

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定
00:00 TC/UB SET	TC PRESET (46ページ)	<p>タイムコードの値をリセット／設定します。または任意の値を設定します。</p> <p>RESET : タイムコードの値を00:00:00:00にリセットする。</p> <p>PRESET : タイムコードの値を任意に設定する。</p> <p>ご注意</p> <p>この項目を設定する前に、あらかじめ[TC MAKE]を[PRESET]に設定してください。[TC MAKE]を[REGENERATE]、もしくは[HDV/DV IN TC]を[EXTERNAL]にしているときは、この設定は反映されません。</p>
	UB PRESET (47ページ)	<p>ユーザービットの値をリセット／設定します。または任意の値を設定します。</p> <p>RESET : ユーザービットの値を00 00 00 00にリセットする。</p> <p>PRESET : ユーザービットの値を任意に設定する。(16進数8桁の設定ができます。各桁0～9の数字とA～Fのアルファベットで指定します。)</p> <p>ご注意</p> <p>INPUT SELECTスイッチがHDV/DVでHDVフォーマットの信号を入力している際はこの設定は反映されません。(ただし、カラーバー表示、記録時は有効です。)</p>
	HDV/DV IN TC (45ページ)	<p>i.LINK入力時に記録するタイムコードを選択します。</p> <p>[INTERNAL] : 本機内部で発生させたタイムコードを記録する。([TC MAKE]の設定が[REGENERATE]のときで、テープに何も記録されていない場合は、00:00:00:00から記録します。すでに記録されている信号に続けて記録する場合は、直前に記録されているタイムコードに連続するタイムコードを記録します。)</p> <p>EXTERNAL : HDV/DV端子から入力されている映像・音声と一緒に、タイムコードも記録する。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> [EXTERNAL]に設定していて、前面パネルのINPUT SELECTスイッチでHDV/DVを選択している状態で、HDV/DV端子から信号が入力されない状態で記録すると、タイムコードとして、「--:--:--:--」が記録されます。信号が入力されると、その信号のタイムコードが記録されます。 [EXTERNAL]に設定していて、外部から入力されているタイムコードが不連続な場合や正しく歩進しない場合、本機でのタイムコードの記録や表示がずれることができます。またこの状態で記録したテープを使うと、組み合わせる機器によっては、編集やサーチが正しく行われないことがあります。
	TC RUN (48ページ)	<p>タイムコードの歩進モード(カウントアップ)を設定します。</p> <p>[REC RUN] : 記録中のみタイムコードが進む。</p> <p>FREE RUN : 記録停止中もタイムコードが進む。(タイムコードの初期値を現在の時刻に合わせるときなどに使用します。)</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> [FREE RUN]のタイムコードは、電源が入っていない間は内蔵時計の精度で進みます。このため、再度電源を入れたときにずれが生じる場合があります。 本機の内蔵バックアップ電池が消耗すると、[FREE RUN]のタイムコードは初期化されます。

(続く)

メニューの操作

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定
00:00 TC/UB SET	TC MAKE (47ページ)	<p>記録を開始したときのタイムコードの値を設定します。</p> <p>[REGENERATE]: テープにすでに記録されているタイムコードに連続したタイムコードになる。(テープにタイムコードが記録されていない場合は、00:00:00:00から記録します。)</p> <p>PRESET: [TC PRESET]で設定した値から記録する。</p>
	TC FORMAT (48ページ)	<p>60i時のタイムコードの記録方式を選びます。</p> <p>AUTO: すでにテープに設定されている方式に合わせる。(テープに何も記録されていない場合は、ノンドロップフレームモードになります。途中でテープのタイムコードの記録方式が読み取れなくなった場合は、その直前の読み取れる位置の方式を継続します。この直前の位置の方式はカセットを取り出すとクリアされ、再度同じ位置から始める場合はノンドロップフレームモードになります。[TC MAKE]を[PRESET]に設定している場合には、ノンドロップフレームモードになります。)</p> <p>DF: ドロップフレームモードにする。</p> <p>NDF: ノンドロップフレームモードにする。</p> <p>ご注意 [60i/50i SEL]が50iに設定されていると、本機は50i仕様の機器として動作します。このため、内部で発生するタイムコードはノンドロップフレームモードになります。60i方式の信号をHDV/DV入力している場合でも[60i/50i SEL]が50iに設定されていると、[TC FORMAT]の設定にかかわらず、内部で発生するタイムコードはノンドロップフレームモードになります。ドロップフレームに設定するときは、[60i/50i SEL]を60iにしてください。この場合[TC FORMAT]の設定は、[60i/50i SEL]が50iに設定される以前の状態に戻ります。</p>

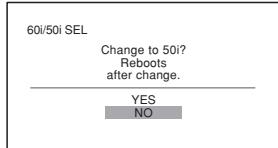
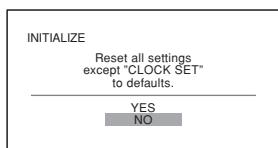
OTHERS

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定																																										
■ OTHERS	ASSIGN BTN (11、13、15ページ)	<p>本機のASSIGNボタン（INDEX (A1)ボタン、RESET (A2)ボタン、AUDIO DUB (A3)ボタン）に、初期設定値以外の機能を割り当てる設定を行います。</p> <p>各ASSIGNボタンに設定可能な機能は以下のとおりです。</p> <table border="1"> <tr><td>INDEX (A1)ボタン</td><td>RESET (A2)ボタン</td><td>AUDIO DUB (A3)ボタン</td></tr> <tr><td>INDEX WRITE ^{a)}</td><td>COUNTER RESET ^{a)}</td><td>AUDIO DUB ^{a)}</td></tr> <tr><td>HDV → DV CONV ^{c)}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>HDMI/CMPNT ^{c)}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>END SEARCH</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>DATA CODE ^{b)}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ALLSCAN MODE ^{c)}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>COLOR BAR ^{c)}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>SEARCH SELECT ^{b)}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>SEARCH + ^{b)}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>SEARCH - ^{b)}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>COUNTER SIZE ^{c)}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>COUNTER COLOR ^{c)}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>FF/REW SPEED ^{c)}</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>a) 初期設定値 b) リモコンのボタンと同じ機能 c) 本機のメニューでも設定できます。詳しくは、各メニュー項目をご覧ください。 END SEARCH 最後に記録した部分を5秒だけ再生して停止します。つなぎ撮りをしたいときや、最後に記録した画像を確認したいときに使用します。一度カセットを取り出すとこの機能は働きません。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> 各ASSIGNボタンの初期設定機能を、異なったASSIGNボタンに割り当てるすることはできません。 ASSIGNボタンに初期設定値以外を割り当てるとき、モニター表示のデータ表示画面の左下に[A1]、[A2]、[A3]が表示されます。 	INDEX (A1)ボタン	RESET (A2)ボタン	AUDIO DUB (A3)ボタン	INDEX WRITE ^{a)}	COUNTER RESET ^{a)}	AUDIO DUB ^{a)}	HDV → DV CONV ^{c)}			HDMI/CMPNT ^{c)}			END SEARCH			DATA CODE ^{b)}			ALLSCAN MODE ^{c)}			COLOR BAR ^{c)}			SEARCH SELECT ^{b)}			SEARCH + ^{b)}			SEARCH - ^{b)}			COUNTER SIZE ^{c)}			COUNTER COLOR ^{c)}			FF/REW SPEED ^{c)}		
INDEX (A1)ボタン	RESET (A2)ボタン	AUDIO DUB (A3)ボタン																																										
INDEX WRITE ^{a)}	COUNTER RESET ^{a)}	AUDIO DUB ^{a)}																																										
HDV → DV CONV ^{c)}																																												
HDMI/CMPNT ^{c)}																																												
END SEARCH																																												
DATA CODE ^{b)}																																												
ALLSCAN MODE ^{c)}																																												
COLOR BAR ^{c)}																																												
SEARCH SELECT ^{b)}																																												
SEARCH + ^{b)}																																												
SEARCH - ^{b)}																																												
COUNTER SIZE ^{c)}																																												
COUNTER COLOR ^{c)}																																												
FF/REW SPEED ^{c)}																																												
LANGUAGE		画面表示させる言語を選択したり、変更したりすることができます。英語、簡易英語、日本語から選べます。																																										
COMMANDER (24ページ)		<p>本機の操作方法を切り替えます。</p> <p>[WIRELESS]: 付属リモコンで操作する。</p> <p>CONTROLS: CONTROLS IN端子に接続したリモートコントロールユニットDSRM-10(別売)で操作する。(リモコンでは操作できません。)</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> 付属リモコンだけでなく、ソニー製のリモコン(リモコンモードまたはコマンドモードが[VTR4]に設定されているもの)が本機に向けて使用された場合、本機はリモコン操作に反応します。リモコンによる本機の操作をすべて無効にしたいときは、この設定を[CONTROLS]にしてください。 [CONTROLS]ではDSRM-20(生産完了品:別売)もお使いいただけます。 																																										

(続く)

メニューの操作

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定
■ OTHERS	PB YNR	<p>再生輝度信号に対するノイズリダクション処理のレベルを切り替えます。</p> <p>[OFF]: ノイズリダクションをかけない。 LOW: ノイズリダクションを弱くかける。 HIGH: ノイズリダクションを強くかける。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノイズリダクションをかけると、映像の内容によっては残像を生じる場合があります。 ・ノイズリダクション処理はHDV/DV端子から出力される画像にも作用します。HDV/DV端子を使用したダビング、編集の際はご注意ください。
	PB CNR	<p>再生色差信号に対するノイズリダクション処理のレベルを切り替えます。</p> <p>[OFF]: ノイズリダクションをかけない。 LOW: ノイズリダクションを弱くかける。 HIGH: ノイズリダクションを強くかける。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノイズリダクションをかけると、映像の内容によっては残像を生じる場合があります。 ・ノイズリダクション処理はHDV/DV端子から出力される画像にも作用します。HDV/DV端子を使用したダビング、編集の際はご注意ください。
	BEEP	<p>ビープ音の有無を設定します。</p> <p>[ON]: ビープ音を出す。 OFF: ビープ音を出さない。</p>
	CLOCK SET	<p>1 □/□ボタンを押して数値を合わせ、↔/↔ボタンを押して年、月、日、時を選択する。 2 EXECボタンを押して決定する。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[TIME DISPLAY]を[12H]に設定しているとき、真夜中は12:00AM、正午は12:00PMとなります。 ・3か月以上本機に通電しない状態が続くと内蔵の充電式電池が放電して、日付・時刻の設定が解除されます。その場合、充電式電池を充電してから設定し直してください(89ページ)。
	HOURS METER (89ページ)	<p>本機のデジタル時間計による、各種の累計時間／回数を10時間または10回単位で表示します。</p> <p>OPERATION: 通電時間 DRUM RUN: ドラムの回転時間 TAPE RUN: テープの走行時間 THREADING: テープのアンスレッディング回数</p>
	AC ON MODE	<p>AC電源を入れたときの、本機の動作状態を設定します。</p> <p>[STANDBY]: スタンバイモードになる。 ON: 電源が入った状態になる。</p>
	AUTO STANDBY	<p>本機が停止状態で、ボタン操作がない状態が1時間以上続いたときに、本機をスタンバイモードにするかどうか設定します。</p> <p>[OFF]: スタンバイモードにしない。 ON: スタンバイモードにする。</p>

アイコン/メニュー	サブメニュー	設定
OTHERS	60i/50i SEL (42ページ)	<p>1080/60i (NTSC方式) と 1080/50i (PAL方式) を切り替えます。</p> <p>1 ⇧ / ⇩を押して[YES]を選び、EXECボタンを押して決定する。</p>  <p>2 ⇧ / ⇩を押してもう1度[YES]を選び、EXECボタンを押して決定する。</p>
	INITIALIZE	<p>MENU項目の設定を工場出荷時にリセットします。CLOCK SETの設定は変更されません。</p> <p>1 ⇧ / ⇩を押して[YES]を選び、EXECボタンを押して決定する。</p>  <p>2 ⇧ / ⇩を押してもう1度[YES]を選び、EXECボタンを押して決定する。</p>

保守・点検

困ったときは

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、ソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店にお問い合わせください。

全体操作について

症状	原因/対策
メニューが設定できない。	<ul style="list-style-type: none"> KEY INH スイッチが ON に設定されている。 → [OFF] に設定してから、メニューを設定してください。 [IN/OUT REC] メニューの設定によっては、一部のメニューが設定できないことがあります。 → [IN/OUT REC] メニューの設定を変えてください。(62 ページ)。 EE 時または再生時のみ設定できるメニューがあります。 → 本機を EE モードまたは再生状態にしてください。 停止時のみ設定できるメニューがあります。 時刻を設定しないと設定できないメニューがあります。
操作していないのにメニュー設定が変わる。	<ul style="list-style-type: none"> メニューの操作中や LCD モニターの明るさを調節中電源を抜いた。 → このような場合、メニューの設定が変わってしまうことがあります。メニューを設定し直してください。
操作していないのに本機がひとりでに動作してしまう。	<ul style="list-style-type: none"> [OTHERS] メニューの [COMMANDER] が [WIRELESS] に設定されているときに、本機の近くでソニー製のリモコン（リモコンモードまたはコマンドモードが [VTR4] に設定されているもの）が使用された。 → [COMMANDER] を [CONTROL S] に設定してください。 TIMER スイッチが REPEAT に設定され、[VTR SET] メニューの [CUSTOM REPEAT] → [START TIME] が [ON] に設定されている。 → TIMER スイッチを OFF にするか、[START TIME] を [OFF] に設定してください。
付属のワイヤレスリモコンが働かない。	→ [OTHERS] メニューの [COMMANDER] を [WIRELESS] にしてください。
本機の設定は正しいのに、リモートコントロールユニット DSRM-10（別売）から記録の操作ができない。	→ リモートコントロールユニット DSRM-10 の REC ボタンを押したまま PLAY ボタンを押してください。

(続く)

症状	原因/対策
KEY INHスイッチをONに設定しているのに、本機がリモコン操作に反応してしまう。	<ul style="list-style-type: none"> KEY INHスイッチをONに設定していても、リモコンでの操作は有効です。リモコンからの操作を無効にしたい場合は、[OTHERS]メニューの[COMMANDER]を[CONTROLS]に設定してください。
電源プラグをコンセントに差すと、自動的に電源が入る。	<ul style="list-style-type: none"> [OTHERS]メニューの[AC ON MODE]が[ON]に設定されている。 → [AC ON MODE]を[STANDBY]に設定してください。 本機にカセットが入っていて、TIMERスイッチがREPEATまたはRECに設定されている。 → TIMERスイッチをOFFに設定してください。
LCDモニターに映像が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> [DISPLAY SET]メニューの[LCD BLACK]が[ON]に設定されている。 → [OFF]に設定してください。 アナログ入力時で、[OTHERS]メニューの[60i/50i SEL]の設定が入力信号のフォーマットに合っていない。 → 入力している信号に合わせてメニューを切り換えてください。

電源について

症状	原因/対策
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none">電源プラグが抜けている。 →電源プラグを差し込んでください。KEY INHスイッチがONに設定されている。 →KEY INHスイッチをOFFに設定してください。
電源が入っているのに操作できない。	<ul style="list-style-type: none">KEY INHスイッチがONに設定されている。 →KEY INHスイッチをOFFに設定してください。結露が起きている(88ページ)。カセットを斜めに挿入している。 →カセットを抜き、まっすぐ入れ直してください。電源を切り、コンセントからプラグを抜いてから約1分後に電源をつないでください。それでも操作できないときは、RESETボタンを先のとがったもので押してください。RESETボタンを押すと、日時と[60i/50i SEL]の設定が解除されます。

カセットについて

症状	原因/対策
カセットが入らない。	<ul style="list-style-type: none">結露が起きている(88ページ)。 →電源を入れたまま、1時間以上待ってください。カセットを斜めに挿入している。 →カセットを抜き、まっすぐ入れ直してください。すでに本機内にカセットが入っている。 →カセットを取り出して、使用したいカセットを挿入してください。
テープの取り出しに時間がかかる。	<ul style="list-style-type: none">故障ではありません。 →テープを保護するため、本機がどのような状態にあっても確実に、安全にテープを取り出せるように、取り出し時のスピードを落としています。カセット取り出し動作中は、□(カセット)インジケーターが点滅します。
カセットが取り出せない。	→電源が正しく接続されているか確認してください。
EJECTボタンを押してもテープが出てこない。	<ul style="list-style-type: none">本機が結露しかけている(88ページ)。
カセットメモリー付きカセットで、カセットレベル表示やタイトル表示が出ない。	<ul style="list-style-type: none">本機はカセットメモリーに対応していないため、表示されません。
テープ残量表示が出ない。	→常に表示したいときは、[DISPLAY SET]メニューで[REMAINING]を[ON]にしてください。

出力・再生について

症状	原因/対策
再生できない。	→テープが最後まで行っているときは巻き戻してください。
逆方向に変速再生ができない。	<ul style="list-style-type: none"> HDVで記録したテープでは逆方向への変速再生はできません（35ページ）。
再生した画像に横線が入る、モザイク状のノイズが出る、画像がぼけたり映らなかったりする。	<ul style="list-style-type: none"> ビデオヘッドが汚れている。 →付属のクリーニングカセットできれいにしてください。 テープに傷がある。 →カセットを交換してください。 DV（LPモード）で記録されたテープを再生している。 →本機はHDV、DVCAM、DV（SPモード）にのみ対応しています。DV（LPモード）で記録されたテープは再生できません。
■ HDV/DV端子を使ってつないだ他機の画像が映らない。	<ul style="list-style-type: none"> →iLINKケーブル（別売）を抜いて、もう1度つないでください。 INPUT SELECTスイッチが[HDV/DV]以外に設定されている。 →[HDV/DV]に切り換えてください。
EE画とEE音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> [IN/OUT REC]メニューの[EE/PB SEL]が[PB]に設定されている。 →[EE]に設定してください。 INPUT SELECTスイッチが、入力している信号以外の位置に設定されている。 →入力している信号に合わせて設定してください。
再生時に音声が途切れる。	<ul style="list-style-type: none"> テープに傷がある。 →カセットを交換してください。 ビデオヘッドが汚れている。 →付属のクリーニングカセットできれいにしてください。 DV（LPモード）で記録されたテープを再生している。 →本機はHDV、DVCAM、DV（SPモード）にのみ対応しています。DV（LPモード）で記録されたテープは再生できません。
デュプリケートできない。	<ul style="list-style-type: none"> LCDモニターに表示される中止／警告NO.および警告メッセージを確認して、必要な操作を行ってください（55ページ）。
日付サーチやインデックスサーチができない。	<ul style="list-style-type: none"> テープの初めや途中に無記録部分がある場合、正常にサーチを行えないことがあります。故障ではありません。
記録開始まで巻き戻しても、タイムコードが00:00:00:00にならない。	<ul style="list-style-type: none"> 記録開始付近のタイムコードは正しく表示されませんが、故障ではありません。再生を開始すれば、開始点からタイムコードも画像も正しく表示されます。
早送り／巻き戻し中にユーザービットが正しく表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> HDVをiLINK入力したときで、入力する映像にユーザービットがない信号を記録した場合、ユーザービットは正しく表示されません。再生中は[-----]、早送り／巻き戻し中は[00 00 00]と表示されます。
日付情報表示に[-- -- --]が表示される。（35ページ）	<ul style="list-style-type: none"> 日付・時刻を設定しないで録画したテープを再生している。 →日付・時刻を設定してください。 テープの無記録部分を再生している。 テープに傷やノイズがあると、データコードを読みません。

(続く)

困ったときは

症状	原因/対策
テレビやモニターなどにつないで再生するとき、HDMIケーブル、コンポーネントビデオケーブルを正しく接続しているのに、画像や音声が出ない。	<p>→接続する機器に合わせて、[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]→[HDMI/CMPNT]を正しく設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • COMPONENT OUT端子からは音声は出力されません。 →音声ケーブルも合わせてつないでください。
4:3テレビにつないで再生したら、画像がつぶれて見える。	<p>→HDMI OUT端子、COMPONENT OUT端子から出力するときは、[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]→[HDMI/CMPNT]と[DOWN CONVERT]を正しく設定して、再生してください。</p> <p>i HDV/DV端子で出力するときは、[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]→[HDV→DV CONV]と[DOWN CONVERT]を正しく設定して、再生してください。</p> <p>S VIDEO端子、VIDEO端子から出力するときは、[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]→[DOWN CONVERT]を正しく設定して、再生してください。</p> <p>→ワイドで記録されたDVCAM (DV) テープは正しく表示されません。ワイド対応のモニターをご利用ください。</p>
[TC/UB SET]メニューの[HDV/DV IN TC]を[EXTERNAL]に設定したのに、i.LINK入力している信号のタイムコードが記録されない。	<ul style="list-style-type: none"> • デジタルノンリニア編集機のi.LINK出力信号にタイムコードが出力されていない。 →ご使用の編集ソフトウェアがタイムコード出力に対応しているかどうか確認してください。 • INPUT SELECTスイッチがHDV/DVに設定されていない。 →HDV/DVに設定してください。
1/10スロー再生およびー1/10スロー再生を1分以上続けると、再生モードになる。	→テープを保護するため、1/10スロー再生およびー1/10再生が1分以上続くと再生モードになります。1/3スロー再生またはー1/3スロー再生にしてください。
再生一時停止状態が解除され、STOPする。	→テープを保護するため、一定時間がたつと本機を停止する設定になっています。[VTR SET]メニューの[FROM STILL]を[STEP FORWARD]に設定してください。ただしこの場合は、[STILL TIME]で設定した時間ごとに、正方向に送られます。
再生一時停止状態が解除され、一定時間ごとにコマ送りされる。	→テープを保護するため、一定時間がたつと正方向に送られる設定になっています。[VTR SET]メニューの[FROM STILL]を[STOP]に設定してください。ただしこの場合は、[STILL TIME]で設定した時間がたつとSTOP状態になります。
停止状態で、何も操作しない状態が1時間続くと、スタンバイモード（電源OFF状態）になる。	<ul style="list-style-type: none"> • [OTHERS]メニューの[AUTO STANDBY]が[ON]に設定されている。 →[AUTO STANDBY]を[OFF]に設定してください。
再生一時停止状態、記録一時停止状態、音声ダビング一時停止状態が自動的に解除される。	<ul style="list-style-type: none"> • テープおよびヘッドを保護するため、これらの状態が3分続くと、自動的にSTOP状態になります。 →一時停止状態を継続したい場合は[VTR SET]メニューの[FROM REC P]を[REC PAUSE]にしてください。
テープトップまでテープを巻き戻すと、再生してしまう。	<ul style="list-style-type: none"> • TIMERスイッチがREPEATに設定されている。 →TIMERスイッチをOFFに設定してください。 • REWボタンを押しながらPLAYボタンを押した。 →REWボタンを押しながらPLAYボタンを押すと、テープトップまで巻き戻した後に再生を開始します（16ページ）。
再生中に、テープの途中で巻き戻ってしまう。	<ul style="list-style-type: none"> • TIMERスイッチがREPEATに設定されている。 →TIMERスイッチをREPEATに設定している場合、再生中にインデックス信号や無記録部分を検出すると自動的にテープが巻き戻されます。TIMERスイッチをOFFに設定してください。
テープエンドになると、テープが巻き戻ってしまう。	<ul style="list-style-type: none"> • TIMERスイッチがREPEATに設定されている。 →TIMERスイッチをREPEATに設定している場合、テープエンドを検出すると自動的にテープが巻き戻されます。TIMERスイッチをOFFに設定してください。

症状	原因/対策																
デジタルノンリニア編集システムで本機が動作しない。機能が働かない。	<ul style="list-style-type: none"> INPUT SELECTスイッチがHDV/DV以外に設定されている。 →HDV/DVに設定してください。 編集機や編集ソフトウェアの機能が本機に対応していない。 →編集機および編集ソフトウェアの取扱説明書を確認のうえ、編集機および編集ソフトウェアのメーカーに確認してください。 																
i.LINKケーブルを接続しているのに外部機器の映像が映らない。	<ul style="list-style-type: none"> →i.LINKケーブルを抜いて、もう一度まっすぐつなぎ直してください。 INPUT SELECTスイッチがHDV/DV以外に設定されている。 →HDV/DVに設定してください。 																
ビデオケーブルを正しくつないでいるのに画像が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> [IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]→[HDMI/CMPNT]の設定によっては出力に制限があります。詳しくは63ページをご覧ください。 INPUT SELECTスイッチの設定が接続ケーブルと合っていない。 →INPUT SELECTスイッチを接続ケーブルに合わせてS VIDEOまたはVIDEOに設定してください。 																
テレビやモニターなどにつないで再生するときに、画像の色が抜けたり画像が乱れたりする。	<ul style="list-style-type: none"> →本機の[60i/50i SEL]のフォーマットにあったテレビやモニターと接続してください。 →テープのフォーマットに合わせて[OTHERS]メニューの[60i/50i SEL]を設定してください(75ページ)。 																
画面上に2/2-STが表示される。	<ul style="list-style-type: none"> 他機で4CHマイク記録されたテープを再生しているときに表示されます。本機は4CHマイク記録には対応していません。(DVCAMまたはDV(SP)フォーマットでの4CHマイク記録テープ再生時に表示されます。HDVフォーマットの4CHマイク記録テープ再生時には表示されません。) 																
S VIDEO出力端子またはVIDEO出力端子からの出力形式が、[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]→[DOWN CONVERT]の設定と異なってしまう。	<p>S VIDEO端子、VIDEO端子からの出力形式は下記の状態に固定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 以下の設定になったとき、S VIDEO端子、VIDEO端子からの出力形式はEDGE CROP(エッジクロップ)に固定されます。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>設定値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>再生フォーマット</td><td>HDV (HDV1080i)</td></tr> <tr> <td>[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]</td><td>[DOWN CONVERT] SQUEEZEまたはLETTER BOX [HDMI/CMPNT] 480p/480i、576p/576i</td></tr> <tr> <td>[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]</td><td>[HDV→DV CONV] DVCAMまたはDV SP [DOWN CONVERT] EDGE CROPに設定</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 以下の設定になったとき、S VIDEO端子、VIDEO端子からの出力形式はLETTER BOX(レターボックス)に固定されます。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>設定値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>再生フォーマット</td><td>HDV (HDV1080iもしくはHDV720p)</td></tr> <tr> <td>[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]</td><td>[HDMI/CMPNT] 480i、576i、480p/480i、576p/576i</td></tr> <tr> <td>[DISPLAY SET]メニューの[ALLSCAN MODE]</td><td>ON</td></tr> </tbody> </table>	項目	設定値	再生フォーマット	HDV (HDV1080i)	[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]	[DOWN CONVERT] SQUEEZEまたはLETTER BOX [HDMI/CMPNT] 480p/480i、576p/576i	[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]	[HDV→DV CONV] DVCAMまたはDV SP [DOWN CONVERT] EDGE CROPに設定	項目	設定値	再生フォーマット	HDV (HDV1080iもしくはHDV720p)	[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]	[HDMI/CMPNT] 480i、576i、480p/480i、576p/576i	[DISPLAY SET]メニューの[ALLSCAN MODE]	ON
項目	設定値																
再生フォーマット	HDV (HDV1080i)																
[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]	[DOWN CONVERT] SQUEEZEまたはLETTER BOX [HDMI/CMPNT] 480p/480i、576p/576i																
[IN/OUT REC]メニューの[i.LINK SET]	[HDV→DV CONV] DVCAMまたはDV SP [DOWN CONVERT] EDGE CROPに設定																
項目	設定値																
再生フォーマット	HDV (HDV1080iもしくはHDV720p)																
[IN/OUT REC]メニューの[VIDEO OUT]	[HDMI/CMPNT] 480i、576i、480p/480i、576p/576i																
[DISPLAY SET]メニューの[ALLSCAN MODE]	ON																

録画・アフレコについて

症状	原因/対策
電源プラグをコンセントに差すと、自動的に記録を始めてしまう。	<ul style="list-style-type: none"> • TIMERスイッチがRECに設定されている。 →TIMERスイッチをRECに設定している場合、本機に電源が供給されると自動的に記録を開始します。TIMERスイッチをOFFに設定してください。
KEY INHスイッチを[ON]に設定しているのに、ひとりでに再生・記録される。	<ul style="list-style-type: none"> • TIMERスイッチがREPEATやRECに設定されている。 →TIMERスイッチの設定は、KEY INHスイッチの設定に優先します。TIMERスイッチをOFFに設定してください。 • [OTHERS]メニューの[COMMANDER]が[WIRELESS]に設定されている場合は、KEY INHスイッチをONに設定していても本機はリモコンによる操作に反応します。 →[COMMANDER]を[CONTROLS]に設定してください。
HDV/DV端子を使ってつないだ他機の画像が映らない。	<p>→i.LINKケーブル（別売）を抜いて、もう1度つないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • INPUT SELECTスイッチがHDV/DV以外に設定されている。 →HDV/DVに切り換えてください。 • [IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]を正しく設定してください。
AUDIO INPUT LEVELスイッチの設定について • 入力レベルの設定がわからない。 • 音が小さい。 • 音がひずむ。	<p>再生機側の出力レベルを確認してください（再生機の出力レベルについては再生機に付属の取扱説明書をご覧ください）。それに合わせて本機の後面パネルのAUDIO INPUT LEVELスイッチを設定してください。</p> <p>再生機側の出力レベルがわからない場合は、以下の方法をお試しください。</p> <p>①本機に接続する再生機が装備しているオーディオ端子に合わせて、本機のAUDIO INPUT LEVELスイッチを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ピンジャック端子を装備している再生機をつなぐ場合：-10 • XLR端子を装備している再生機をつなぐ場合：+4または-2 <p>②前面パネルのAUDIO INPUTスイッチを[AUTO]に設定してから再生機に再生用テープを入れ、最大音声再生時に入力レベルが0 dBを越えないことを確認する。0 dBを越える場合は、AUDIO INPUT LEVELスイッチの設定を[+4]などの位置まで下げるか、またはAUDIO INPUTスイッチを[MANU]に設定して、AUDIO REC LEVELつまみで、音の大きさを調整する。入力レベルが0 dBを越えると音がひずみます。</p>
音声ダビングできない。音声ダビングの途中で止まる。	<ul style="list-style-type: none"> • HDVまたはDVフォーマットで記録されたテープに音声ダビングしようとしている。 →音声ダビングは、あらかじめDVCAFMフォーマットで、オーディオモードが32 kHz（4チャンネル）で記録されたテープにのみ実行できます。また、音声ダビング中に以下の信号を検出した場合、本機は自動的に音声ダビングを中止し、LCDモニターおよび外部モニターに警告表示します。 <ul style="list-style-type: none"> - 無記録部分 - 32 kHz（4チャンネル）以外の記録 - DVCAFMフォーマット以外の記録 • チャンネル1/2に音声ダビングしようとしている。 →音声ダビングできるのはチャンネル3/4のみです。チャンネル1/2には音声ダビングできません。
HDMI OUT端子、AUDIO OUT端子、PHONES端子から音声が出ない。または、出ている音声が希望の音声ではない。	<ul style="list-style-type: none"> • オーディオモードが32 kHz（4チャンネル）のときは、出力する音声を選択します。出力したい音声のチャンネルに合わせてAUDIO OUTPUT SELECTスイッチを設定してください。 [AUDIO SET]メニューの[AUDIO MONI]の設定を確認してください。
CH3、CH4でダビング中の音声が聞こえない。	→AUDIO OUTPUT SELECTスイッチをMIXまたはCH-3/4に設定してください。

困ったときは

症状	原因/対策
編集中、i.LINKケーブルを接続しているのに、モニターに画像が出ない。	→接続する機器に合わせて、[IN/OUT REC]メニューの[HDV/DV SEL]を正しく設定してください。
デジタルノンリニア編集システムで本機が動作しない。機能が働かない。	<ul style="list-style-type: none">• INPUT SELECTスイッチがHDV/DV以外に設定されている。 →HDV/DVに設定してください。• 編集機や編集ソフトウェアの機能が本機に対応していない。 →編集機および編集ソフトウェアの取扱説明書をご確認のうえ、編集機および編集ソフトウェアのメーカーにご確認ください。

警告表示とお知らせメッセージ

自己診断表示・警告表示

LCD モニターまたは外部モニターに、以下のように警告表示されることがあります。詳しい説明は、() 内のページをご覧ください。

表示	原因と対処のしかた
C:□□:□□/E:□□:□□ (自己診断表示)	お客様自身で対応できる場合でも2、3回繰り返して正常に戻らないときは、ソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店にお問い合わせください。 C:21:□□ →結露しているため。カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す (88ページ)。 C:22:□□ →ビデオヘッドが汚れているため。クリーニングカセットできれいにする (86ページ)。 C:31:□□/C:32:□□ →上記以外の症状になっている。カセットを入れ直し、もう1度操作し直す。ただし、本機が結露気味のときは、この操作をしないでください (88ページ)。 →電源をいったん取り外し、取り付け直してからもう1度操作し直す。 →テープを交換する。
▣ (結露の警告) *	→カセットを取り出し、電源をはずして、約1時間放置する (88ページ)。
▣ (テープ関連の警告)	遅い点滅 • テープ残量が5分を切った。
▲ (テープを取り出す必要がある警告) *	速い点滅 • 結露している (88ページ)。 • 自己診断表示が表示されている (84ページ)。

* 警告表示・お知らせメッセージが出るときは、BEEP 音（お知らせブザー）が鳴ります (74 ページ)。

お知らせメッセージ一覧

警告表示とともに、以下のお知らせメッセージが表示されます。メッセージに従って操作してください。

項目	表示	原因と対処のしかた
結露	▣▲ Moisture condensation. Eject the cassette. (▣▲結露しています カセットを取り出してください)	→詳しくは88ページをご覧ください。
	▣ Moisture condensation. Turn off for 1H. (▣結露しています 約1時間放置してください)	→詳しくは88ページをご覧ください。

警告表示とお知らせメッセージ

項目	表示	原因と対処のしかた
カセット・テープ	▣ Insert a cassette. (▣ カセットを入れてください)	→30ページをご覧ください。
	▲ Reinsert the cassette. (▲ カセットを入れなおしてください)	• テープの損傷などがないか確認する。
	▣▲ The tape is locked -check the tab. (▣▲ カセットの誤消去防止ツマミを確認してください)	→29ページをご覧ください。
	▣ The tape has reached the end. (▣ テープが終わっています)	—
アフレコ	Cannot add audio. INPUT SELECT is set to HDV/DV (アフレコできません INPUT SELECTがHDV/DVに設定されています)	—
	Not recorded in DVCAM mode. Cannot add audio. (DVCAM以外の録画モードで記録されている部分です アフレコできません)	—
	Cannot add audio. (アフレコできません)	記録されている音声フォーマットが32kHz (4-channel, 12ビット)でないとアフレコできません。また、[OTHERS]メニューの[60i/50i SEL]が正しく設定されていることを確認してください。
	Cannot add audio on the blank portion of a tape. (無記録部分です アフレコできません)	—
	HDV recorded tape. Cannot add audio. (HDV記録テープです アフレコできません)	—
	Cannot add audio. "HDV/DV SEL" is set to HDV. (アフレコできません "HDV/DV選択" がHDVに設定されています。)	—
その他	Cannot record due to copyright protection. (コピー保護されています 記録できません)	—
	Change to correct tape format. (非対応のフォーマットです)	• 対応していないフォーマットのため、再生できません。
	No output image in "HDV/DV SEL". Change format. (このHDV/DV SELの設定では表示できない信号です。表示するには設定を変更してください)	→[HDV/DV SEL]の設定を適切なフォーマットに変更してください (62ページ)。
	☒Dirty video head. Use a cleaning cassette. (☒ヘッドが汚れています クリーニングカセットを使ってください)	→86ページをご覧ください。
	Unplug power cable. (電源コードを一度抜いてください)	—
	Reinsert the cassette. (カセットを入れなおしてください)	—
	Invalid input signal. (非対応の入力信号です)	本機で受信できない入力信号です。 入力信号を確認してください。
	Power voltage error. (電源電圧が異常です)	—

本機の性能を保持するために

VTRについて

直射日光の当たる場所や、熱器具の近くに置かない

キャビネットや部品に悪い影響を与えます。

湿気の多い場所に置かない

水滴のかかる場所など、湿気の多い場所に置かないでください。また、水の入った物や花瓶などを本機の上に載せないでください。故障の原因になります。

異常に高温な場所に置かない

窓を閉め切った自動車内（特に夏期）などに放置すると、キャビネットが変形したり、故障の原因になります。

寒い屋外から暖かい室内に持ち込んだとき

本体の内部に水滴が付くことがあります。このまま使うとテープやヘッドを傷める原因となることがあります。また、エアコンなどの冷風が直接当たる場所で使うと、同様のことが起こりますのでご注意ください。

重い物を載せない

キャビネットを傷めたり、故障の原因になったりします。

ぶつけないように

持ち運ぶときは衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

キャビネットを傷めないために

表面にはプラスチックが多く使われています。殺虫剤など、揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗料がはげたりする原因になります。

ベンジンやシンナーでふかない

変質したり、塗料がはげたりすることがありますので避けてください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

キャビネットは乾いた柔らかい布で

汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に柔らかい布をひたし、固くしぼってから汚れを拭き取り、乾いた布で仕上げてください。

磁石を近づけない

磁気を帯びているものを近づけると、大切な記録が損なわれることがあります。

携帯電話・トランシーバーなどによる電磁波障害を防止するために

携帯電話やトランシーバーなどを本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、映像、音声などに影響を与えることがあります。携帯電話やトランシーバーなどの取り扱いに際しては、下記のようにご注意ください。

- 本機の近くでは、携帯電話やトランシーバーの電源はできるだけ切ってください。
- PHSやポケットベルは、出力が小さいので携帯電話ほどの影響はないと考えられますが、性能の安定を確保するため、同様にできるだけ電源を切ってください。

放射線のある場所で使わない

誤動作することがあります。

約1000時間のご使用を目安に点検を

ビデオは非常に高い精度を必要とする機械です。長く使う間には、ヘッドやテープの駆動部分が汚れたり磨耗したりします。使用環境（温度、湿度、ほこりなど）によって異なりますが、約1000時間使ったら、ソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店に点検（清掃、注油、一部部品交換）についてご相談ください。

他機との接続について

i.LINKケーブルなどで本機と他の機器やパソコンなどをつなぐ場合、端子の向きを確認してつないでください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。

ヘッドのクリーニング

ビデオヘッドが汚れると、正常に記録できなかったり、ノイズの多い再生画像になりました。付属のクリーニングカセットを使ってヘッドをきれいにしておきましょう。

大切な記録の前にはクリーニングを

ビデオヘッドが汚れていると、正常な記録が行えなくなり、画面にノイズが出たり、音が途切れたりすることがあります。大切な記録の前にはクリーニングを行ってください。

約50時間のご使用を目安にクリーニングを

ビデオを使用すると、ビデオヘッドには微量な汚れが徐々に堆積します。約50時間使用したら、クリーニングを行ってください。

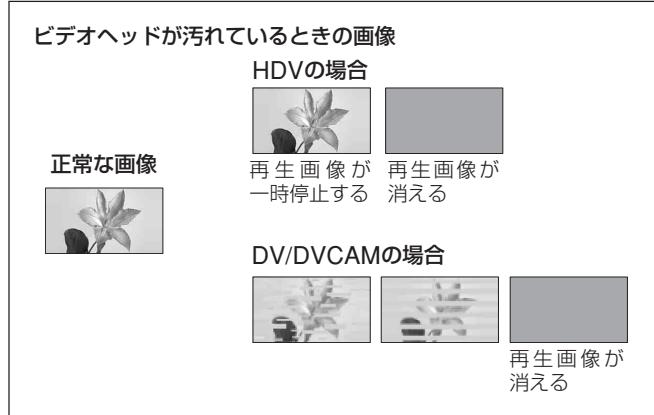
ビデオヘッドの汚れやすいテープを使用後にはクリーニングを

テープによってはビデオヘッドの汚れやすいものがあります。特に、ヘッド汚れの症状が出たテープを使用した後はクリーニングを行ってください。

ヘッド汚れの症状が出たときには

定期的にクリーニングを行っても、偶発的にヘッド汚れの症状が起こることがあります。次のような症状になったときは、クリーニングを行ってください。

- 再生画像に四角いノイズが出る
- 再生画像が静止する
- 再生画像の一部が動かない
- 再生画像が出ない
- 再生音声が途切れる
- 録画中に「 Dirty video head. Use a cleaning cassette. (ヘッドが汚れています クリーニングカセットを使ってください)」が表示される



クリーニングするには

クリーニングカセットを10秒間再生して、ビデオヘッドをきれいにしてください。

※ クリーニングカセットを使用しても再生画像が静止したり、上記の症状が改善されないときは、テープに問題がある可能性がありますので、そのテープのご使用を避けてください。

詳しくはクリーニングカセットの説明書をよくお読みになり、その手順に従ってください。

ご注意

次のような使い方をすると、ビデオヘッドが汚れる原因になります。

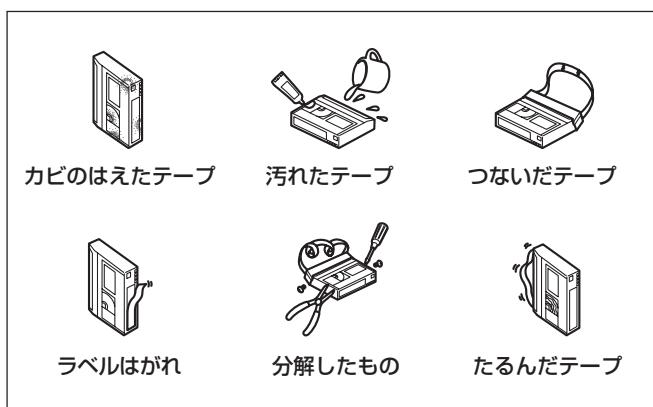
- 温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使用したとき
→ 結露が起きます。詳しくは88ページをご覧ください。
- 傷んだテープを使用したとき
- 本機を長時間使用したとき
- ほこり、チリ、砂ぼこりの多いところで使用したとき
- テープを本機に長い間入れたままにしたとき

クリーニングカセットを巻き戻して使用できる回数には制限があります。付属のクリーニングカセットを規定回数使い終わったときは、別売のクリーニングカセットをお買い求めください。

長時間使用するとビデオヘッドは摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像や音声に戻らないときは、ヘッドが摩耗している可能性があります。ヘッドの交換が必要になりますのでソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店にご相談ください。

カセットについて

下記のようなテープを使うと故障の原因になりますので、ご注意ください。



カセット使用について

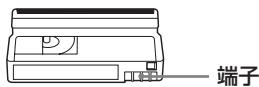
- 初めて使用するカセットを使うときは、まず5秒ぐらいテープを走行させてから記録することをおすすめします。
- 長期間保管したカセットを使うときは、しばらくテープを早送りしてから巻き戻しをすることをおすすめします。カセットの巻きムラを修正できます。
- テープを走行させずに、本機に何度も出し入れしないでください。テープが緩み、傷の原因になります。

(続く)

本機の性能を保持するために

端子のクリーニング

カセットの金メッキ端子が汚れたりゴミが付着したりすると、テープ残量表示などが正しく働かないことがあります。カセットの取り出し回数10数回を目安にして、綿棒でカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。



カセットにラベルを貼るときは

指定の場所以外には、絶対に貼らないでください。故障の原因となります。

カセットの保管について

- ご使用後はテープを巻き戻し、ケースに入れ、立てて保管してください。巻き戻さずに保管すると画像や音声が乱れる原因になります。
- 次のような場所では保管しないでください。
 - 高温になる場所（炎天下や自動車内、熱器具の近く）
 - 湿気の多い場所
 - 強力な磁気のある場所（テレビやスピーカーの近く）

液晶画面について

液晶画面は有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので安心してお使いください。

液晶画面を太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売の液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。液晶クリーニングキットを使うときは、クリーニングリキッドを直接液晶画面にかけず、必ずクリーニングペーパーを染み込ませて使ってください。

結露について

温度差のある場所へ本機やカセットを急に持ち込んだときにテープや本機のヘッドに水滴が付くことを結露といいます。結露したテープやヘッドを使用すると、テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。

結露が起こると、「▲Moisture condensation. Eject the cassette (▲結露しています カセットを取り出してください)」または「Moisture condensation. Turn off for 1H. (▲結露しています 約1時間放置してください)」と警告表示が出ます。

結露が起きやすいのは以下のよう�습니다。

- ・寒い屋外から暖房のきいた室内へ持ち込んだとき
- ・冷房のきいた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- ・エアコンなどの冷風が直接当たる場所で使用するとき

本機やカセットを温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に入れて密封してください。持ち込んだ後は、1時間以上放置し、持ち込んだ先の温度になじんでから開封してください。

結露が起きると

カセットを直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、EJECTボタン以外は働きません。

電源を切って、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押してもやが点滅しなければ使えます。

結露気味のときは、本機が結露を検出できないことがあります。このようなときは、約10秒間カセットが出てこないことがあります、故障ではありません。

デジタル時間計による定期点検

デジタル時間計は、本機の通電時間、ドラム回転時間、テープ走行時間、アンスレッディング回数をそれぞれ累計して、メニュー画面に表示します。定期点検の目安として、この時間計をご利用ください。なお、定期点検は、ソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店にご相談ください。

[OTHERS] メニューの[HOURS METER]で、以下の4種類の値を確認できます。メニューの使いかたについては、74ページをご覧ください。

• OPERATION (通電時間) 表示

電源を入れていた通電時間を累計して、10時間単位で表示します。

• DRUM RUN (ドラム回転時間) 表示

テープのスレッディングが完了した状態でヘッドドラムが回転している時間を累計して、10時間単位で表示します。

• TAPE RUN (テープ走行時間) 表示

テープの走行時間を累計して、10時間単位で表示します。

• THREADING (スレッディング) 表示

テープのアンスレッディング回数を累積して、10回単位で表示します。

ライセンスに関する注意

個人的使用以外の目的で、MPEG-2規格に合致した本製品をパッケージメディア向けビデオ情報をエンコードするために使用する場合、MPEG-2 PATENT PORTFOLIOの特許に関するライセンスを取得する必要があります。尚、当該ライセンスは、MPEG LA. L.L.C., (住所：250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206) より取得可能です。

内蔵の充電式電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切と関係なく保持するため、充電式電池を内蔵しています。充電式電池は本機を使っていける限り常に充電されますが、使う時間が短いと徐々に放電し、3か月近くまったく使わないと完全に放電してしまいます。この場合は充電してから使ってください。ただし、充電式電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことはできます。

充電方法

約24時間本機を電源コードを使ってコンセントにつなぐ。
(電源をONにする必要がありません。)

付録

HDV/DVCAM/DVフォーマットの互換性

HDVフォーマットは、現在全世界で普及している民生用デジタルVCR規格のDVフォーマットをベースとしながら、MPEG2で圧縮されたHD信号のデータ記録仕様を新たに定めたHD VCR規格です。DV規格と同じカセットやテープスピード、トラックピッチが採用されています。

ここでは、HDV1080i/DVCAM/DVフォーマットの違い、互換性、編集時の制約事項を説明しています。

HDV1080i/DVCAM/DVフォーマットの主な違い

(本機および他の業務用の機器においては、機能が拡張されている場合があります。表外の注釈をご覧ください。)

仕様	HDV1080i	DVCAM	DV (SP)
トラック幅	10 µm	15 µm	10 µm
オーディオサンプリング周波数	16 bit : 48 kHz	12 bit : 32 kHz 16 bit : 48 kHz	12 bit : 32 kHz 16 bit : 32 kHz, 44.1 kHz 48 kHz ²⁾
オーディオ記録モード ¹⁾	ロックモード	ロックモード	アンロックモード ³⁾
タイムコード	ドロップフレーム (60iのみ) ⁴⁾ ユーザービットなし ⁴⁾	NTSC : SMPTE タイムコード (DF/ NDF, ユーザービットあり) PAL : EBU タイムコード (ユーザービットあり)	ドロップフレーム (NTSCのみ) ⁴⁾ ユーザービットなし ⁴⁾

1) オーディオ信号の記録には、ロックモードとアンロックモードがあります。ロックモードでは、オーディオのサンプリングクロックとビデオのサンプリングクロックが同期しています。一方、民生用DVフォーマットで採用しているアンロックモードでは、オーディオとビデオのサンプリングクロックはそれぞれ独立しています。ロックモードはアンロックモードに比べ、上位フォーマットとの親和性が高く、オーディオ編集時のデジタル処理やスムーズなつなぎ目を作るときに有利です。

2) 本機は16 bit : 32 kHz, 44.1 kHzの記録には対応していません。

3) 本機はロックモードとアンロックモードの切り替えができるように機能拡張されています。

4) 本機は60iモードでHDV時、DV(SP)時にもDF/NDFの選択、いずれのフォーマットでもユーザービットの設定ができるように機能拡張されています。

再生時の互換性

再生テープのフォーマットと再生機の関係は以下のようになっています。

再生機 再生テープの フォーマット	DVフォーマットの機種	DVCAMフォーマットの機種	HDV1080iフォーマットの機種 (本機の場合)
DV	再生可 (LPモードで記録されたテープは一部の機器では再生できません。)	SPモードで記録されたテープのみ再生可 LPモードで記録されたテープは一部の機器で再生可	SPモードで記録されたテープのみ再生可 LPモードで記録されたテープは一部の機器で再生可(本機では、DVフォーマットのテープはSPモードのみ再生可)
DVCAM	機種によっては再生できる場合もあります。	再生可	再生可
HDV	再生不可	再生不可	再生可*

* 本機では、HDV 720/30p フォーマットを再生できますが、HDV/DV端子から出力することはできません。

本機ではHDVフォーマットの1080/30F、1080/25F、1080/24F、720/25p、720/24pなどの1080/60i、1080/50i方式以外の信号の入出力、記録、テープの再生はできません。

本機ではHDV拡張フォーマットの4チャンネルオーディオ信号の入出力、記録、テープの再生はできません。

カセットの互換性

HDVはDV規格のカセットテープが使用可能です。HVR-M25Jで採用したHDV1080i方式は、記録ビットレートは約25 Mbps、テープ上の記録トラックピッチは10 µmと、家庭用DV(SP)と同じです。テープに記録できる時間もDV(SP)と同じです。

DVCAMはトラックピッチが15 µmと、HDV/DV(SP)の1.5倍となっています。そのため、同じテープを用いてDVCAMで記録した場合の記録時間は、HDV/DV(SP)記録時の時間の3分の2になります。

S VIDEO、VIDEO端子を使用したダビング

S VIDEO、VIDEO端子で接続した本機と他の機器間でダビングを行うと、本機を録画機として使用した場合は、[IN/OUT REC]メニューの[REC MODE]の設定によって、記録されるフォーマットが決まります。

詳細は、下記の一覧表をご確認ください。

ダビングのしかたによっては、そのテープを使っての再生、編集性に制約が生じることがあります。あらかじめ「第4章 i.LINK端子を使ったダビング、デュプリケート、音声ダビングとパソコンとの接続」をお読みになったうえで、ダビングを行ってください。

編集ソフトウェアによっては、[LOCK MODE]で作成したテープでも正しく編集できる場合があります。その場合は、必要に応じて[LOCK MODE]に設定してください。

本機を録画機として使用した場合の記録テープ

入力信号フォーマット	メニュー項目		記録テープのフォーマット (AUDIO MODE)
	[REC MODE]	AUDIO LOCK	
NTSCまたはPAL	DVCAM	—	DVCAM (LOCK MODE)
	DV SP	LOCK MODE	DV (LOCK MODE)
		UNLOCK MODE	DV (UNLOCK MODE)

i HDV/DV端子を使用したダビング

i.LINKケーブルを使用して接続したデジタルビデオ機器間でダビングを行うと、本機を再生機として使用した場合は、再生テープのフォーマットと本機のメニュー設定によって、i.HDV/DV端子から出力されるフォーマットが決まります。録画機として使用した場合は、i.HDV/DV端子から入力されるフォーマットと本機のメニュー設定によって、記録されるテープのフォーマットが決まります。詳細は、94ページの一覧表をご確認ください。

ダビングのしかたによっては、そのテープを使っての再生、編集性に制約が生じことがあります。あらかじめ「第4章 i.LINK端子を使ったダビング、デュプリケート、音声ダビングとパソコンとの接続」をお読みになったうえで、ダビングを行ってください。

本機を再生機として使用した場合のi.LINK出力

再生テープのフォーマット	メニュー項目		i.LINK出力フォーマット (AUDIO MODE)
	HDV/DV SEL	i.LINK SET	
		HDV→DV CONV	
HDV	AUTO	OFF	HDV (LOCK MODE)
		DVCAM	DVCAM (LOCK MODE)
		DV (SP)	DV (UNLOCK MODE)
	HDV	OFF	HDV (LOCK MODE)
		DVCAM	DVCAM (LOCK MODE)
		DV (SP)	DV (UNLOCK MODE)
	DV	—	出力なし
	DVCAM	AUTO	—
		HDV	—
DV	DV	—	DVCAM (再生テープに従う)
	AUTO	—	DV (再生テープに従う)
		HDV	出力なし
	DV	—	DV (再生テープに従う)

ご注意

- 本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合は、他機をつないで本機の画像を記録するときに、記録が制限されることがあります。
- 本機では、DVCAM (DV)をHDVにアップコンバートすることはできません。
- HDV再生時に[i.LINK SET]の[HDV→DV CONV]で[DV SP]を選択すると、AUDIO MODEはUNLOCK MODEに固定されます。
- 本機でDVCAM、DVフォーマットのテープを再生する場合、DVCAM、DVフォーマットおよびLOCK MODE、UNLOCK MODEを相互に変換することはできません。

HDV/DVCAM/DVフォーマットの互換性

本機を録画機として使用した場合の記録テープ

i.LINK入力のフォーマット	メニュー項目		記録テープのフォーマット (AUDIO MODE) ³⁾
	HDV/DV SEL	[REC] REC MODE ¹⁾	
HDV	AUTO	—	HDV (LOCK MODE)
	HDV	—	HDV (LOCK MODE)
	DV	—	無記録
DVCAM	AUTO	DVCAM	DVCAM (入力信号に従う)
		DV SP	DV (入力信号に従う)
	HDV	—	無記録
	DV	DVCAM	DVCAM (入力信号に従う)
		DV SP	DV (入力信号に従う)
DV	AUTO	DVCAM	DVCAM ²⁾ (入力信号に従う)
		DV SP	DV (入力信号に従う)
	HDV	—	無記録
	DV	DVCAM	DVCAM ²⁾ (入力信号に従う)
		DV SP	DV (入力信号に従う)

- 1) 録画機として使用する場合、入力する信号フォーマットの種類がDVCAM/DVのときは[IN/OUT REC]メニューの[REC] REC MODEの設定によって、記録するフォーマットが決まります。
- 2) 本機を「DVCAM機」として設定し、録画機側として使用して、DVフォーマットで記録されたテープをダビングすると、作成したテープの記録フォーマットはタイムコードの書式の一部分に不整合がある（ただし、特殊な場合を除き、編集精度に影響はありません）ようなDVCAMフォーマットとなります。
- 3) 本機でLOCK MODE、UNLOCK MODEを相互に変換することはできません。[AUDIO MODE]は入力信号に従います。

ご注意

- 本機では、i.LINKに入力されたHDVフォーマットの信号をDVCAM (DV)にダウンコンバートして記録することはできません。
- 上記2)のようなテープを編集に使用すると、再生機、録画機のフォーマットにかかわらず、機能に制約を生じることがあります。
- DVCAMフォーマットのテープを他のDV機で再生した場合、機器によっては再生できますが、再生の内容は保証されません。したがって、再生テープに正しいDVCAMフォーマットのテープを使用していても、ダビングして作成されるテープはタイムコードの一部に不整合な箇所があるDVCAMフォーマットのテープとなる場合があります。
- 著作権保護のための信号が記録されている映像、音声は本機では記録することができません。このような映像、音声を記録しようとすると、本機と接続した外部モニターに「Cannot record due to copyright protection. (コピー プロテクトされています 記録できません)」と表示されます。COMPONENT OUT端子に出力される画像は、メニューの設定に関わらず、自動的に480iまたは576iに切り替わる場合があります。

編集時の制約

- HDV/DV端子を使用してダビング・編集したテープを編集に使用するとき、フォーマットの違いにより制約が生じます。
詳細は、「第4章 i.LINK端子を使ったダビング、デュプリケート、音声ダビングとパソコンとの接続」をご覧ください。

i.LINK (アイリンク)について

本機の HDV/DV端子はi.LINKに準拠した端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。

複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。

ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ご注意

- i.LINKケーブルで本機と接続できる機器は通常1台だけです。複数接続できるHDV/DVCAM (DV) 対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- i.LINK (アイリンク) はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
- IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、以下の3種類があります。

S100 (最大転送速度 約100 Mbps*)

S200 (最大転送速度 約200 Mbps)

S400 (最大転送速度 約400 Mbps)

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。

最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？

「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100 Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のi.LINK端子付きビデオとつないでダビングする方法については41、50ページをご覧ください。

また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK対応機器（パソコン用VAIOシリーズなど）とも接続してご使用になります。

なお、デジタルテレビ、DVD、MICROMVなどの映像機器には、i.LINK端子を搭載しながらも、本機には対応できない仕様のものがあります。接続の際はあらかじめ HDV/DVCAM (DV) 対応の有無をご確認ください。

接続のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。

ご注意

- パソコン、本機にi.LINKケーブルをつなぐとき、端子の向きを確認してください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。i.LINKケーブルプラグの▲マークと HDV/DV端子の▼マークの向きを合わせて差し込んでください。
- i.LINKケーブルは、先にパソコンとつないでから本機とつないでください。先に本機をつなぐと、静電気の発生などにより、本機の故障の原因となります。
- 6ピン型のi.LINK端子を持つ機器と本機を接続する場合は、6ピン型のi.LINK端子から先に接続してください。
- i.LINK端子を持つ機器と本機をi.LINKケーブルで接続する場合、i.LINKケーブルを抜き差しするときは、あらかじめ機器の電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。機器の電源プラグを差したままi.LINKケーブルを抜き差しすると、機器のi.LINK端子から出力している高圧電流(8~40 V)が本機に流れ込み、本機の故障の原因となる恐れがあります。

必要なi.LINKケーブル

ソニー製のi.LINKケーブルをお使いください。

i.LINK、HDVはソニー株式会社の商標です。

保証書とアフターサービス

仕様

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお確かめください。特に、第6章[保守・点検]に該当する項目がないか、お調べください。

それでも具合の悪いときはお問い合わせ窓口へ

お買い上げ店または付属の“ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内”にあるお近くのソニーのお問い合わせ窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、ソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店にお問い合わせください。

部品の保有期間について

当社はデジタルHDビデオカセットレコーダー補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障箇所によつては修理可能な場合もありますので、ソニーのお問い合わせ窓口またはお買い上げ店にお問い合わせください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

システム

ヘッドシステム(映像／音声、記録／再生)

回転2ヘッドヘリカルスキャン

録音方式(HDV) MPEG-1 Audio Layer2

16ビット48kHz(ステレオ)

転送レート 384 kbps

録音方式(DVCAM(DV))

12ビットFs32K(チャンネル1/2、チャンネル3/4)

16ビットFs48K(チャンネル1/2)

映像信号

1080/60i方式、NTSCカラー、EIA標準方式

1080/50i方式、PALカラー、CCIR標準方式

使用可能カセット **DVCAM**マークのついた標準DVCAMカセット

DVCAMマークのついたミニDVCAMカセット

テープ速度(HDV) 約18.812 mm/秒

テープ速度(DVCAM)

約28.218 mm/秒

テープ速度(DV) 約18.812 mm/秒

録画・再生時間(HDV)

276分(PHDV-276DM使用時)

63分(PHDVM-63DM使用時)

録画・再生時間(DVCAM)

184分(PHDV-276DM使用時)

41分(PHDVM-63DM使用時)

録画・再生時間(DV SP)

276分(PHDV-276DM使用時)

63分(PHDVM-63DM使用時)

AUDIO端子

IN

ピンジャック:-10/-2/+4dBu

インピーダンス:47kΩ以上、不平衡

最大入力レベル:

-10: +18dBu(約6Vrms)

-2: +24dBu(約12.5Vrms)

+4: +30dBu(約25Vrms)

OUT

ピンジャック

インピーダンス:1kΩ以下

出力レベル:(47kΩ負荷時、不平衡)

60i時:-10dBu(=フルビット-20dB)

50i時:-10dBu(=フルビット-18dB)

PHONES

ステレオミニジャック(Φ3.5)

8Ω負荷

VIDEO端子

IN/OUT	BNC型、不平衡、
ビデオ信号	1.0 Vp-p、75 Ω、負同期
同期信号	0.286 Vp-p (60i/NTSC) 0.3 Vp-p (50i/PAL)
バースト	0.286 Vp-p (60i/NTSC) 0.3 Vp-p (50i/PAL)

その他の出力の場合

Y: 1.0 Vp-p (75 Ω、不平衡)
Pb/Cb/B-Y、Pr/Cr/R-Y: 0.7 Vp-p
(75 Ω、不平衡)
(セットアップなし 100% カラーバー時)
480i/480p は Y に 0.3 Vp-p 負同期付き
1080i/720p は Y/Pb/Pr に 0.6 Vp-p の 3 値同期
付き

S VIDEO端子

IN/OUT	4ピンミニDIN、不平衡
ビデオ信号	Y: 1.0 Vp-p、75 Ω、負同期 C: 0.286 Vp-p、バースト、75 Ω (60i/NTSC) 0.3 Vp-p、バースト、75 Ω (50i/PAL)
同期信号	0.286 Vp-p (60i/NTSC) 0.3 Vp-p (50i/PAL)

i HDV/DV端子

i.LINK (IEEE1394、4ピンコネクター S100)

リモートコントロール端子

LANC ステレオミニミニジャック (Ø 2.5)
CONTROLS IN ステレオミニジャック (Ø 3.5)

HDMI OUT端子

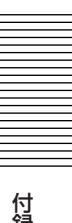
映像	タイプA (19ピン) 480i、576i、480p、576p、1080i、720p
音声	2チャンネルリニア PCM 48 kHz/16 bits

液晶画面

画面サイズ 6.8 cm (2.7型)
総ドット数 211 200 ドット
横 960 × 縦 220

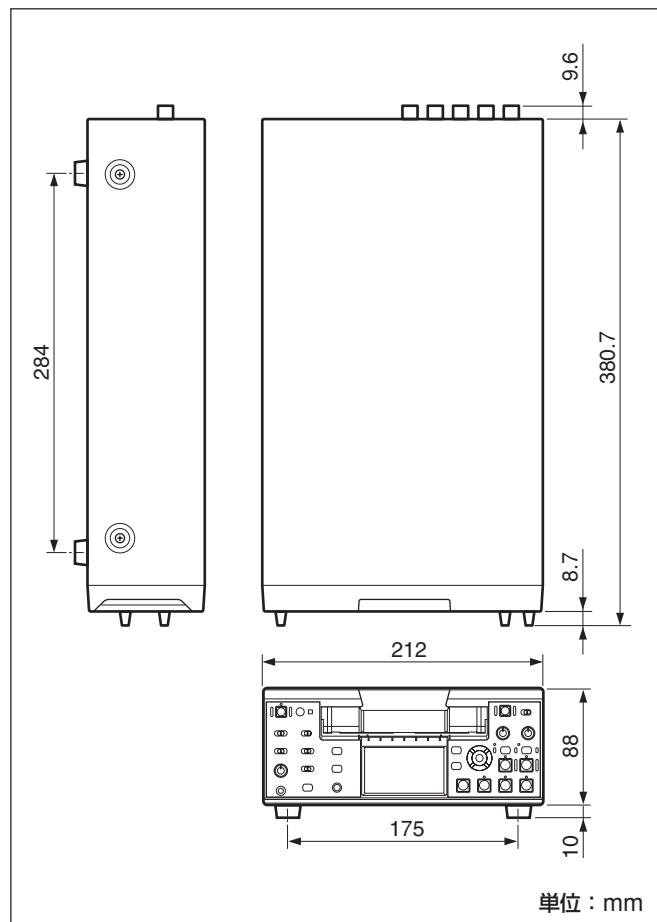
COMPONENT OUT端子

OUT	BNC型
480iNTSC 出力時	[IN/OUT REC] メニューにて [BETACAM] 選択時 Y: 1.0 Vp-p (0.286 Vp-p 負同期付き、75 Ω、不平衡) Pb/Cb/B-Y、Pr/Cr/R-Y: 0.7 Vp-p (75 Ω、不平衡) (7.5 IRE セットアップ付き 75% カラーバー時)
[IN/OUT REC] メニューにて [SMPTE] 選択時	Y: 1.0 Vp-p (0.3 Vp-p 負同期付き、75 Ω、不平衡) Pb/Cb/B-Y、Pr/Cr/R-Y: 0.7 Vp-p (75 Ω、不平衡) (セットアップなし 100% カラーバー時)



電源部・その他

電源	AC100 V、50/60 Hz
消費電力	10 W (再生時)
許容動作温度	5 °C ~ 40 °C
許容保存温度	-20 °C ~ 60 °C
最大外形寸法	212 × 98 × 390.3 mm (幅／高さ／奥行き) (最大突起含む)



本体質量	約4.3 kg
付属品	リモコン (1) 電源ケーブル (1) 単3形乾電池 (2) クリーニングカセット (1) 取扱説明書 (1) 保証書 (1) ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内 (1)

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

索引

五十音順

あ

- 頭出し 36
- アンロックモード 90
- インデックスサーチ 36
- インデックス信号 36
- オーディオモード 26
- 音声ダビング 56

か

- カセット 29
- カセットメモリー 29
- カメラデータ 35
- 記録 40
- クリーニングカセット 86
- 警告表示 84
- 結露 88
- コマ送り 35
- 困ったときは 76

さ

- サーチ 36
- 時刻合わせ 74
- 自己診断表示 84
- 使用できるカセット 29
- スロー再生 35

た

- タイムコード 45
- 文字情報表示 25
- データコード 35
- テープ残量表示 26

は

- 日付サーチ 36
- 变速再生 35

ま

- ミニDVCAムカセット 29
- メニュー 60
- メニュー画面 25

や

- ユーザービット 45

ら

- リモコン 23
- ロックモード 90

アルファベット順

D

- DF (Drop Frame) 90
- DVカセット 29
- DVフォーマット 90
- DVCAムカセット 29
- DVCAムフォーマット 90

E

- EEモード 14

F

- FS32K 42
- FS48K 42

H

- HDMI OUT端子 20
- HDV/DV端子 21, 33, 41, 50, 58
- HDVフォーマット 90

I

- i.LINK 95

L

- LANC端子 22
- LCDモニター 13

N

- NDF (Non Drop Frame) 90

付
録

サブメニュー索引

数字

- 480i LEVEL 65
60i/50i SEL 75

A

- AC ON MODE 74
ALLSCAN MODE 66
ASSIGN BTN 73
AUDIO LOCK 68
AUDIO MODE 68
AUDIO MONI 68
AUTO INDEX 69
AUTO STANDBY 74

B

- BARS TYPE 64
BEEP 74

C

- CLOCK SET 74
COLOR BAR 64
COMMANDER 73
CROP ADJUST 64
CROP MARKER 64
COUNTER SET 66
CUSTOM REPEAT 69

D

- DATA CODE 66
DATE DISPLAY 66
DUPLICATE PLUS 69
DV BARS 64

E

- EE/PB SEL 65

F

- FF/REW SPEED 70
FROM REC P 70
FROM STILL 70

H

- HDV/DV IN TC 71
HDV/DV SEL 62
HOURS METER 74

I

- i.LINK SET 63
INITIALIZE 75

J

- JOG AUDIO 68

L

- LANGUAGE 73
LCD BLACK 67
LCD BRIGHT 67
LCD COLOR 67
LETTER SIZE 66

M

- MARKER BURN 66

P

- PB CNR 74
PB YNR 74

R

- REC MODE 62
REMAINING 67

S

- STILL PICT 69
STILL TIME 70

T

- TC FORMAT 72
TC MAKE 72
TC PRESET 71
TC RUN 71
TIME DISPLAY 67

U

- UB PRESET 71

V

- VIDEO OUT 63

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>



この説明書は、古紙 70%以上の再生紙と、
VOC (揮発性有機化合物)ゼロ植物油型インキ
を使用しています。

Printed in Japan



2678737020